

JP1 Cloud Service 通報管理 利用ガイド

JCSM21-0210-01

前書き

■ 対象サービス (V02-00 以降)

● 通報管理 - 基本プラン

SD-5273181Z3 JP1 Cloud Service/Notification Management - Basic Plan 02-00 以降

● 通報管理 - ユーザー追加オプション

SD-527318203 JP1 Cloud Service/Notification Management - Additional-User Option 02-00 以降

● 通報管理 - 電話通知オプション

SD-527318213 JP1 Cloud Service/Notification Management - Phone Notifications Option 02-01 以降

● 通報管理 - 電話追加通知オプション

SD-527318223 JP1 Cloud Service/Notification Management - Additional Phone Notifications Option 02-01 以降

■ 輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

■ 商標類

HITACHI, JP1 は、株式会社 日立製作所の商標または登録商標です。

TELstaff は、株式会社日立ソリューションズの登録商標です。

Microsoft は、マイクロソフト 企業グループの商標です。

Microsoft Edge は、マイクロソフト 企業グループの商標です。

Windows は、マイクロソフト 企業グループの商標です。

Windows Server は、マイクロソフト 企業グループの商標です。

その他記載の会社名、製品名などは、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

■ マイクロソフト製品のスクリーンショットの使用について

マイクロソフトの許可を得て使用しています。

■ マイクロソフト製品の表記について

このマニュアルでは、マイクロソフト製品の名称を次のように表記しています。

表記	正式名称
Windows 10	Windows(R) 10 Home
	Windows(R) 10 Pro
	Windows(R) 10 Enterprise
Windows 11	Windows(R) 11 Home
	Windows(R) 11 Pro
	Windows(R) 11 Enterprise
Windows Server 2012	Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Datacenter
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Standard
Windows Server 2012 R2	Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Datacenter
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Standard
Windows Server 2016	Microsoft(R) Windows Server(R) 2016 Datacenter
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2016 Standard
Windows Server 2019	Microsoft(R) Windows Server(R) 2019 Datacenter
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2019 Standard
Windows Server 2022	Microsoft(R) Windows Server(R) 2022 Datacenter
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2022 Standard

Windows 10, Windows 11, Windows Server 2022, Windows Server 2019, Windows Server 2016, Windows Server 2012 R2, および Windows Server 2012 を総称して Windows と表記することがあります。

■ 発行

2024年3月 JCSM21-0210-01

■ 著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2023, 2024, Hitachi, Ltd.

はじめに

このマニュアルは、TELstaff クラウド型通報管理サービス (JP1 Cloud Service 通報管理サービス) のサービス内容について説明したものです。このマニュアルでは、TELstaff クラウド型通報管理サービスとのサービス契約が完了し、必要な情報 (接続先 URL など) を入手されていることを前提に説明しています。

■ 対象読者

TELstaff クラウド型通報管理サービスを利用して、外部の通信サービス (Twilio, LINE WORKS, Slack, Microsoft Teams), メールサーバへの通知を実行するシステム管理者を対象としています。

また、次に示す機能や操作を理解されている方を前提として説明します。

- ネットワークを運用・管理する。
- メールを運用・管理する。
- 通信サービス (Twilio, LINE WORKS, Slack, Microsoft Teams) を利用したシステムを運用・管理する。
- コマンドや REST API を操作・制御する知識を持っている。また、必要に応じ JSON 形式のインターフェースを解析・設定する知識を持っている。

■ マニュアルの構成

このマニュアルは、次に示す章と付録から構成されています。

第 1 章 TELstaff クラウド型通報管理サービスとは

TELstaff クラウド型通報管理サービスの概要について説明しています。

第 2 章 TELstaff クラウド型通報管理サービスの機能

TELstaff クラウド型通報管理サービスの機能について説明しています。

第 3 章 セットアップ

TELstaff クラウド型通報管理サービスを使用するための設定について説明しています。

第 4 章 運用上の留意事項

TELstaff クラウド型通報管理サービスの運用上の留意事項について説明しています。

第 5 章 Web 画面

TELstaff クラウド型通報管理サービスの Web 画面について説明しています。

第6章 コマンド

TELstaff クラウド型通報管理サービスが提供するコマンドインターフェースの内容について説明しています。

第7章 API

TELstaff クラウド型通報管理サービスが提供する REST API について説明しています。

第8章 JSON プロパティ

TELstaff クラウド型通報管理サービスの JSON プロパティについて説明しています。

第9章 メッセージ

TELstaff クラウド型通報管理サービスの出力するメッセージについて説明しています。

■ このマニュアルでの表記

このマニュアルでは、日立ソリューションズ製品およびその他の製品の名称を省略して表記しています。次に、製品の正式名称と、このマニュアルでの表記を示します。

表記	正式名称
AEPE	TELstaff(R) AE Professional Edition
AESE	TELstaff(R) AE Standard Edition
AECL	TELstaff(R) AE Client

その他、次のような表記を使用しています。

- TELstaff クラウド型通報管理サービスを「通報管理サービス」または「本サービス」と記載します。
- TELstaff クラウド型通報管理サービスが提供するコマンドインターフェースを「コマンド」と記載します。
- TELstaff クラウド型通報管理サービスが提供する REST API を「API」と記載します。

■ このマニュアルで使用する略語

このマニュアルで使用する英略語を次に示します。

英略語	正式名称
API	Application Programming Interface
GUI	Graphical User Interface
LAN	Local Area Network
POP	Post Office Protocol

英略語	正式名称
SMS	Short Message Service
SMTP	Simple Mail Transfer Protocol
SMTPS	SMTP over SSL/TLS
SPF	Sender Policy Framework
SSL	Secure Sockets Layer
TCP	Transmission Control Protocol
TLS	Transport Layer Security

■ このマニュアルで使用する記号

このマニュアルで使用する記号を次に示します。ウィンドウ内で指定する文字は、Shift_JIS 文字および半角英数字記号で指定することを前提にしています。

記号	意味
[]	メニュー項目、画面名、ボタン名、およびキーボードのキーなどを表します。 (例) [Ctrl] キー
[] + []	キーボードのキーを同時に押すことを表します。 (例) [Ctrl] + [A] キー
【 】	メニューおよびサブメニューを示します。 (例) 【ファイル】メニューから【終了】を選びます。

■ コマンドの文法で使用する記号

コマンドとパラメーターの説明で使用する記号を、次のように定義します。コマンド名とコマンドパラメータは、Shift_JIS 文字および半角英数字記号で指定することを前提にしています。

記号	意味
[]	指定が省略できることを示します。 (例) <code>tlscbase tel notify -u ユーザ名 -f 通知文ファイル名 [--fenc { SJIS UTF8 }] ..</code> この場合、 <code>--fenc</code> の指定を省略できます。
{ }	で区切られている前後の項目から、選択して指定できることを示します。 (例) <code>tlscbase tel notify -u ユーザ名 -f 通知文ファイル名 [--fenc { SJIS UTF8 }] ..</code> この場合、 <code>--fenc</code> の後に、通知文ファイル名の文字エンコーディングをSJISまたはUTF8のどれかを選択して指定できます。

■ 常用漢字以外の漢字の使用について

このマニュアルでは、常用漢字を使用することを基本としていますが、次に示す用語については、常用漢字以外の漢字を使用しています。

- 桁 (けた)
- 橙 (だいだい)
- 貼り付け (はりつけ)

■ 文字数表記およびKB (キロバイト) 等の単位表記について

- このマニュアルでの文字数表記は、n 桁と n 文字で表記しています。
- n 桁は、半角文字数を意味します。
- n 文字は、全角文字、半角文字を問わず文字数を意味します。
- 1 KB (キロバイト)、1 MB (メガバイト)、1 GB (ギガバイト)、1 TB (テラバイト) は、それぞれ 1,024 バイト、 $1,024^2$ バイト、 $1,024^3$ バイト、 $1,024^4$ バイトです。

目次

目次	i
1. TELstaff クラウド型通報管理サービスとは	5
1.1 通報管理サービスについて	6
1.2 通報管理サービスで通知を行うまでの流れ	7
1.3 システムの構成	10
1.3.1 通報管理サービスの構成	10
1.4 前提環境	12
1.4.1 お客様の環境に関して	12
1.4.2 動作環境	12
1.4.3 本サービスと接続するお客様側の IP アドレスに関して	13
1.4.4 本サービスと接続するお客様側のマシン時刻の設定に関して	13
1.4.5 電話通知と SMS 通知について	14
1.4.6 LINE WORKS への通知について	14
1.4.7 Slack への通知について	14
1.4.8 Microsoft Teams への通知について	14
1.4.9 メール通知について	15
1.4.10 受信メール連携をご使用になる場合	15
2. TELstaff クラウド型通報管理サービスの機能	17
2.1 提供する機能	18
3. セットアップ	25
3.1 外部通信サービスへ通知するための設定	26
3.2 コマンド配置と設定ファイル	32
3.3 マシン時刻の設定	36
4. 運用上の留意事項	37
4.1 発信制限に関して	38
4.2 性能に関して	39
4.3 外部通信サービス側の注意事項に関して	40
4.4 電話通知の操作と応答に関して	42
4.5 通知文ファイルに関して	46
4.6 障害を考慮した運用方法と留意事項	47
4.7 調査用資料の採取	49
4.8 メール送信機能を使用する場合の制限事項	51
5. Web 画面	53
5.1 サインイン画面	55
5.2 メイン画面	57
5.3 パスワード変更画面	60
5.4 ライセンス表示画面	61
5.5 アカウント設定画面	63
5.6 電話通知利用情報画面	64
5.7 大量発信の集約、間引き画面	65
5.8 メールサーバ登録画面	67
5.9 Twilio プロファイル一覧	70
5.10 Twilio プロファイル画面	71
5.11 LINE WORKS プロファイル一覧	73
5.12 LINE WORKS プロファイル画面	74
5.13 Slack プロファイル一覧	77
5.14 Slack プロファイル画面	78

目次

5.15	Microsoft Teams プロファイル一覧	79
5.16	Microsoft Teams プロファイル画面	80
5.17	外部 API 連携プロファイル一覧	81
5.18	外部 API 連携プロファイル画面	82
5.19	ユーザー一覧	85
5.20	ユーザー定義画面	86
5.21	連絡網一覧	89
5.22	連絡網定義画面	91
5.22.1	LINE WORKS トークルーム設定ダイアログ	94
5.22.2	Slack チャンネル設定ダイアログ	96
5.22.3	Microsoft Teams 設定ダイアログ	97
5.23	カレンダーダイアログ	98
5.24	スケジュールダイアログ	104
5.25	受信メール連携一覧	110
5.26	受信メール連携ルール画面	111
5.27	発信履歴レポート画面	114
5.27.1	通知一覧レポート	114
5.27.2	電話通知レポート	115
6.	コマンド	119
6.1	コマンド一覧	120
6.2	通報管理サービスのコマンド (tlscbase)	121
6.2.1	電話発信コマンド	123
6.2.2	SMS 発信コマンド	125
6.2.3	メール発信コマンド	127
6.2.4	LINE WORKS 投稿コマンド	129
6.2.5	Slack 投稿コマンド	132
6.2.6	Microsoft Teams 投稿コマンド	134
6.2.7	連絡網発信コマンド	136
6.2.8	発信結果問い合わせコマンド	139
6.2.9	通知先ユーザー定義登録コマンド	141
6.2.10	通知先ユーザー定義取得コマンド	142
6.2.11	通知先ユーザー定義削除コマンド	144
6.2.12	連絡網定義登録コマンド	145
6.2.13	連絡網定義取得コマンド	146
6.2.14	連絡網定義削除コマンド	148
6.2.15	LINE WORKS トークルーム作成コマンド	149
6.2.16	発信情報件数問い合わせコマンド	151
6.2.17	発信情報削除コマンド	153
6.2.18	ログ取得コマンド	155
6.2.19	コマンドの通知文ファイル等に使用できる変数	156
7.	API	159
7.1	API 一覧	160
7.2	通報管理サービスの API	161
7.2.1	サインイン API	163
7.2.2	サインアウト API	164
7.2.3	サインイントークン更新 API	164
7.2.4	発信受付 API	165
7.2.5	発信問い合わせ API	166
7.2.6	連絡網発信 API	167
7.2.7	連絡網発信結果取得 API	168
7.2.8	通知先ユーザー定義登録 API	169
7.2.9	通知先ユーザー定義取得 API	170
7.2.10	通知先ユーザー定義削除 API	170
7.2.11	連絡網定義登録 API	171

7.2.12	連絡網定義取得 API	172
7.2.13	連絡網定義削除 API	173
7.2.14	LINE WORKS トークルーム作成 API	174
7.2.15	発信情報件数問い合わせ API	174
7.2.16	発信情報削除 API	175
7.2.17	ログ取得 API	176
8.	JSON プロパティ	179
8.1	通報管理サービスの JSON	180
9.	メッセージ	210
9.1	メッセージについて	211
9.1.1	メッセージの形式	211
9.1.2	メッセージの表記方法	211
9.1.3	メッセージ挿入文字の説明	211
9.2	メッセージ一覧	213
	1000 以上 1030 以内のメッセージ ID (Web システムのメッセージ)	213
	4045 以上 4059 以内のメッセージ ID (tlsbase コマンドのメッセージ)	216
索引	220

1. TELstaff クラウド型通報管理サービスとは

この章では、TELstaff クラウド型通報管理サービスの概要について説明します。

- 1.1 通報管理サービスについて
- 1.2 通報管理サービスで通知を行うまでの流れ
- 1.3 システムの構成
- 1.4 前提環境

1.1 通報管理サービスについて

通報管理サービスは、お客様環境から通知の指示を受け付けて、外部の通信サービスへ通知の依頼を実施します。

本サービスの特徴を次に示します。

1. 豊富な通信サービスへの通知を提供
2. 公衆電話回線を使用せず、通信サービスを利用した電話通知、SMS 通知を提供
3. 連絡網を使用した通知を提供することで、柔軟な通知を実現

(1) 豊富な通信サービスへの通知を実現

Twilio と連携した電話通知・SMS 通知(※1)、LINE WORKS への通知(※2)、Slack への通知、Microsoft Teams への通知、メール通知が可能です。

お客様がご利用可能な通信サービスを選択して通知が可能です。各通信サービスとのご契約は、あらかじめお客様にて実施していただく必要があります。(※3)

※1：SMS 通知に関しては、送信可能なキャリアの情報、対応する文字の情報、分割送信のルール、制限の詳細、その他に関しては、Twilio へお問い合わせください。

※2：LINE WORKS と LINE は、別のサービスであり、別のアプリケーションです。このため、LINE のユーザへメッセージを通知することはできません。

※3：電話通知プランをご契約中の場合で SMS 通知を使用しない場合、お客様と Twilio とのご契約は実施不要です。

(2) 柔軟な通知システムを構築できます

通信サービスへの単独の通知だけでなく、連絡網を使用した通知を定義することで、柔軟な通知が実現可能です。

通知先のユーザ情報や連絡網などの定義情報を登録する操作は、GUI 画面だけでなく、コマンドや API から行うことが可能です。

通知の指示は、コマンドまたは API から実行します。

(3) AEPE, AESEとの関係

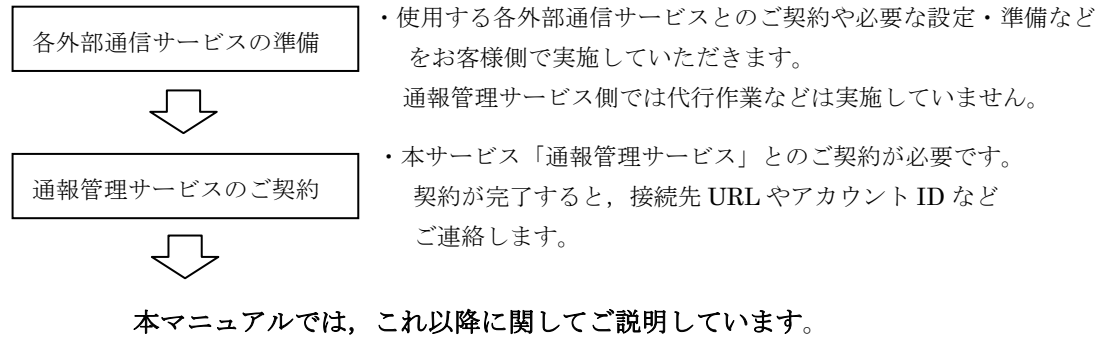
AEPE (TELstaff AE Professional Edition) または、AESE (TELstaff AE Standard Edition) と、本サービスとでは、通知方式や使用する資源 (ハードウェアや電話回線、サービス) が異なりますので、定義 (ユーザ定義、連絡網定義を含む、すべての定義) の移行は行えません。また、電話通知に関しても、動作が異なりますので、置き換えての使用はできません。

また、お客様環境に AESE, AEPE または AECL (TELstaff AE Client) がすでに導入済の場合、お客様側のシステムとして、本サービスが提供するコマンドの実行元として使用することは可能です。

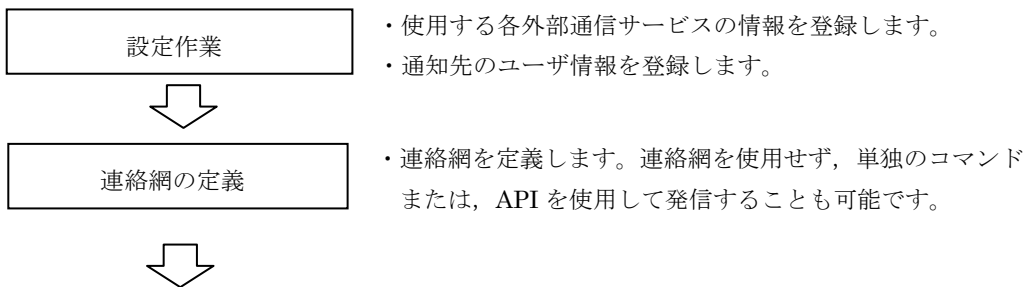
1.2 通報管理サービスで通知を行うまでの流れ

通報管理サービスを使って、外部の通信サービスへ通知の依頼を行う手順を、以下に示します。

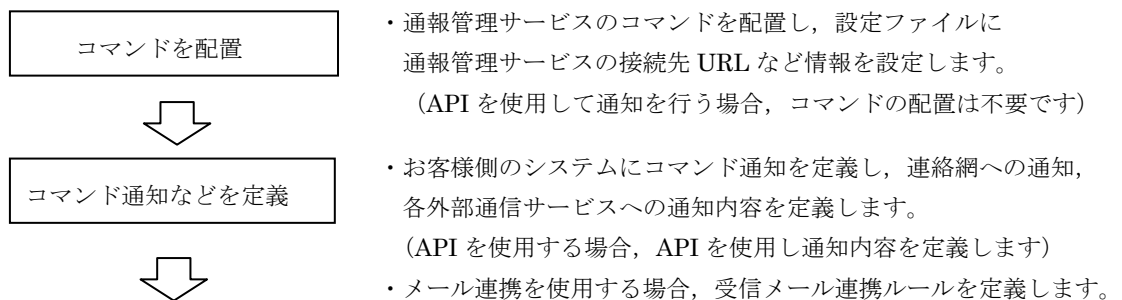
利用する各外部通信サービスとのご契約



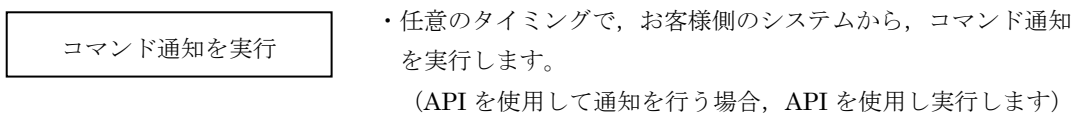
通報管理サービスの設定・定義



お客様環境側で通知内容を定義する（コマンドまたは、API を使用する場合）



コマンドまたは、API を使用する場合、お客様環境側で通知を実行する



受信メール連携を使用する場合、お客様環境側から本サービスへメールを送信する

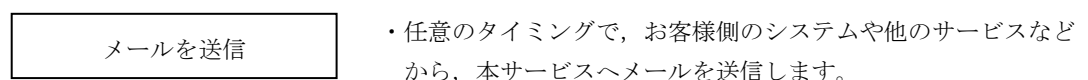


図 1.2-1 通報管理サービスで通知を行うまでの流れ

1. TELstaff クラウド型通報管理サービスとは

(1) 通報管理サービスの設定・定義

(a) 設定作業

本サービスへサインインし、通知先として使用する通信サービスの情報を登録します。お客様がご契約されている通信サービスから必要な情報を入力し登録します。

通知先ユーザのユーザ名、メールアドレスや電話番号などのユーザ情報を登録します。

(b) 連絡網の定義

連絡網を使用する場合には、連絡網を作成し登録します。連絡網を使用せず、単独のコマンド発信を行う場合、または、単独の API を使用した発信を行う場合には、連絡網を作成する必要はありません。

(2) お客様環境側で通知内容を定義する（コマンドまたは、APIを使用する場合）

本サービスへの通知の依頼は、本サービスに付属するコマンドを使用する、または、API が使用できます。お客様側のシステムから呼び出して使用します。

(a) 通報管理サービスのコマンドを配置し設定する。

通報管理サービスからダウンロードしたコマンド等の圧縮ファイルより、コマンドを取得して、お客様の環境へ配置します。コマンド設定ファイルには、本サービスの契約時に払い出された、通報管理サービスの接続先 URL、アカウント ID、パスワードなどの情報を設定します。

API を使用して通知を行う場合には、本設定は不要です。

(b) コマンド通知の内容を定義する

お客様側のシステムで通知する内容を決定し、連絡網への通知内容や各通信サービスへのコマンド通知を定義します。API を使用して通知を行う場合、API で通知内容を定義します。

(3) お客様環境側で通知内容を定義する（受信メール連携を使用する場合）

本サービスへの通知の依頼を、メールにより行うことが可能です。お客様側のシステムや外部サービスなどから、本サービスへメールを送信し、メール内容により、連絡網を実行することが可能です。

(a) 受信メール連携のルールを定義する

メール内容に応じてフィルタ条件を設定し、連絡網への通知内容を定義します。

(4) お客様環境側で通知を実行する

(a) コマンドまたは、APIを使用する場合

任意のタイミングで、お客様側のシステムからコマンド通知を実行します。API を使用して通知を行う場合、API で通知を実行します。

(b) 受信メール連携を使用する場合

お客様側のシステムや他のサービスなどから、本サービス申し込み時に割り当てられた専用のメールアドレスへメールを送信します。

受信メール連携を使用する場合、本サービス申し込み時にお客様ごとに割り当てられた、

1. TELstaff クラウド型通報管理サービスとは

専用のメールアドレス(※1)が必要となります。

※1：専用のメールアドレスは、本サービス申し込み時（契約時）に希望するお客様に割り当てを行います。契約時に希望せず、後から必要になった場合は、サポートサービスへお問い合わせください。

1.3 システムの構成

1.3.1 通報管理サービスの構成

連携可能な外部通信サービスも含めて記載した、本サービスの構成を以下に示します。

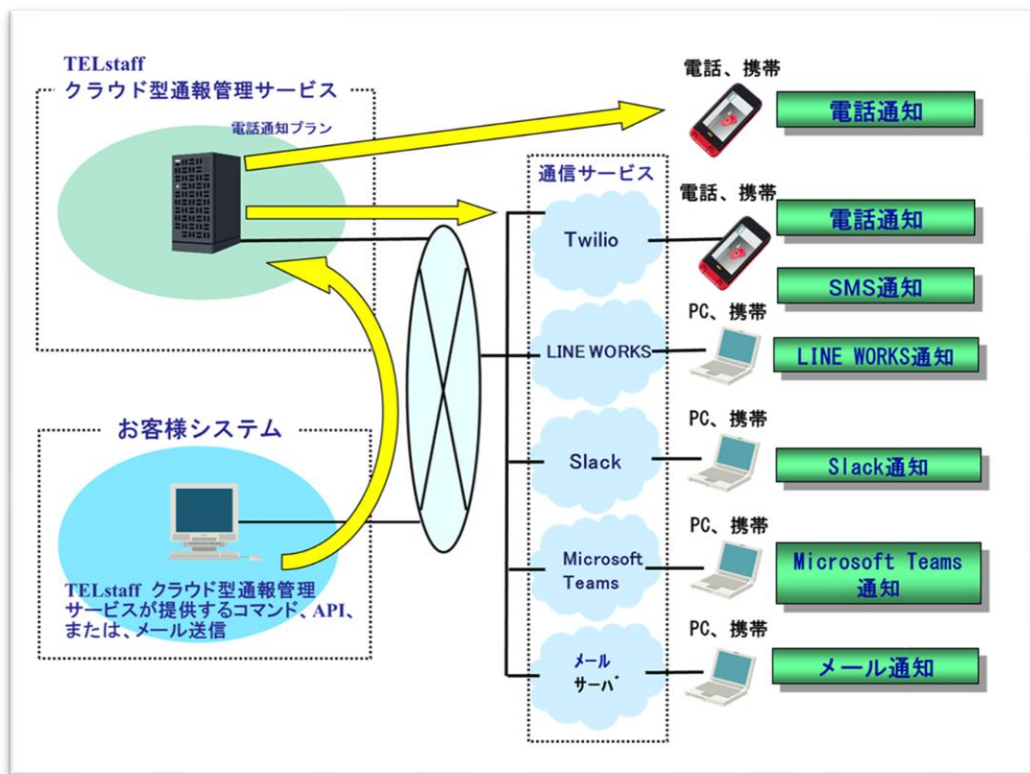


図 1.3-1 サービス構成

- お客様がご利用可能な通信サービスを選択して通知が可能です。各通信サービスとのご契約は、あらかじめお客様にて実施していただく必要があります。

(1) 電話通知

API サービスである Twilio を使用、または電話通知プランをご契約していただくことにより電話通知が可能です。お客様システムからのメッセージを電話（音声）で通知します。

(2) SMS通知

API サービスである Twilio を使用して SMS 通知(※1)が可能です。お客様システムからのメッセージをショートメッセージで通知します。

※1：SMS 通知の送信可能なキャリアの情報、対応する文字の情報、分割送信のルール、制限の詳細、その他に関しては、Twilio へお問い合わせください。

(3) LINE WORKS通知

企業向け LINE サービスである LINE WORKS への通知が可能です。お客様システムから

のメッセージを LINE WORKS へ投稿します。

(4) Slack通知

コラボレーションサービスである Slack への通知が可能です。お客様システムからのメッセージを Slack へ投稿します。

(5) Microsoft Teams通知

コラボレーションプラットフォームである Microsoft Teams への通知が可能です。お客様システムからのメッセージを Microsoft Teams へ投稿します。

(6) メール通知

お客様が準備したメールサーバを使用する場合：

お客様が準備したメールサーバを使用してメールを送信できます。

お客様システムからのメッセージをメールサーバへ送信します。

本サービスのメール送信機能を使用する場合：

本サービスが提供するメール送信機能を使用してメールを送信できます。

お客様システムからのメッセージを指定された宛先へ送信します。

1.4 前提環境

通報管理サービスを使用するための前提について説明します。

1.4.1 お客様の環境に関して

お客様環境がオンプレミス環境、クラウド環境に関わらず、本章に記載の動作環境などの条件を満たし、本サービスとの通信が可能な環境の場合には、本サービスを利用していただくことが可能です。

1.4.2 動作環境

本サービスを使用する場合の動作環境を以下に示します。

表 1.4-1 各機能の動作環境

項目	動作環境
Web ブラウザ	お客様環境から本サービスが提供する画面（GUI）を操作する Web ブラウザと Web ブラウザを動作させるプラットフォームは以下となります。 [プラットフォーム] ・ Windows 10 Pro 日本語版 [Web ブラウザ] ・ Windows 版 Google Chrome (91.0.4472.114 以降) ・ Windows 版 Microsoft Edge (115.0.1901.183 以降)
コマンドを動作させるプラットフォーム	お客様環境から本サービスが提供するコマンドを動作させるプラットフォームは以下となります。 ・ Windows 10 Pro 日本語版 ・ Windows Server 2016 Standard / Datacenter 日本語版 ・ Windows Server 2019 Standard / Datacenter 日本語版 ・ Windows Server 2022 Standard / Datacenter 日本語版
通信環境	お客様環境から本サービスが提供する Web 画面（GUI）、コマンドまたは API を使用するには、 <u>https 通信のプロトコルが有効な環境が必要となります。https 通信ができない場合、使用できません。</u> <u>TLS に関しては、TLS1.2 のみをサポートしています。</u> 通信環境の設定は、お客様ごとに環境（OS の設定、ファイヤーウォールの設定など）が異なりますので、お客様側の管理者へ問い合わせなどをおこない、 <u>本サービスとの通信が可能となるよう環境の整備・設定を行ってください。</u>

動作環境に関連する注意事項を以下に記します。

- **Chrome** のスペルチェック機能が有効になっている場合（デフォルトで有効）、GUI 画面の入力フィールドにスペル間違いを示す赤い下線が引かれることがあります。この機能を無効にするためには **Chrome** の以下の設定を変更してください。
[設定]→[詳細設定]→[言語]→[スペルチェック]
- Web ブラウザが持つ再読み込み機能（F5 キーなど）には対応していません。
- Web ブラウザが持つページの移動機能（「前に戻る」など）には対応していません。
- コマンドが出力するログファイルに関して
お客様環境でコマンドを動作させた場合、コマンドのログが出力されます。
ログファイルの使用する最大ディスク容量の算出例を示します。
◇ 公開ログは 5M バイト(※1) × 2（ローテーション分を含む）となります。
※1：5M バイトはデフォルト設定での値で、コマンド設定ファイルのパラメータ値で変更が可能です。詳細は「3.2(2)コマンド設定ファイルを編集する」を参照ください。
◇ デバッグログは、公開ログと同じサイズ、同じローテーション数で動作します。

1.4.3 本サービスと接続するお客様側の IP アドレスに関して

本サービスでは、セキュリティ対策の観点から 接続可能な IP アドレスに制限を設けています。本サービスの申し込み時に、申請していただいた「お客様側の送信元 IP アドレス(※1)からのみ、接続可能な状態としています。

お客様側システムの構成変更などにより、お客様側の送信元 IP アドレスが変更となる場合には、サポートサービス窓口から「サービス申込内容変更」の申請を行い、送信元 IP アドレスを変更してください。変更申請が行われない場合、本サービスへの接続がエラーとなります。

※1：お客様側の送信元 IP アドレスは、プロキシサーバ経由でアクセスする環境では、プロキシサーバのパブリック IP アドレスとなります。詳細に関しては、本サービスの「サービス新規申請書」または「サービス申込内容変更申請書」を参照ください。

1.4.4 本サービスと接続するお客様側のマシン時刻の設定に関して

本サービスの Web 画面（GUI）、コマンド、API を使用する場合、操作を行うお客様環境のマシン時刻は、インターネット時刻（NTP サーバ）と同期している必要があります。マシン時刻が不正な場合、サインイン時に認証エラーが発生する場合があります。3 章 セットアップ「3.3 マシン時刻の設定」に、時刻を同期させる設定例を記載しています。

1.4.5 電話通知とSMS通知について

(1) Twilioを使用する場合

電話 API サービスである Twilio を使用して電話通知，SMS 通知を実施します。

Twilio への通知を行う場合には，お客様にて，Twilio とサービスのご契約や運用管理などが実施された利用可能な Twilio 環境を準備していただく必要があります。

Twilio からの電話通知は，電話回線と電話発信機器を使用した電話通知と動作が異なりますので，「4.3(1) Twilio へ発信する際の注意事項」「4.4 電話通知の操作と応答に関して」をご確認の上，ご使用ください。

また，あらかじめ Twilio の情報を本サービスの接続先プロフィールに登録する必要があります。事前準備や注意事項に関しては，「3.1(1) Twilio へ発信する際の事前準備と必要な情報」を参照ください。

(2) 電話通知プランをご契約の場合

電話通知プランの場合，お客様にて，外部通信サービスのご契約をしていただく必要はありません。電話通知プランでは SMS 通知は含まれません。

1.4.6 LINE WORKSへの通知について

本サービスから LINE WORKS への通知を行う場合には，お客様にて，LINE WORKS とサービスのご契約や運用管理などが実施され，利用可能な LINE WORKS 環境を準備していただく必要があります。

また，あらかじめ LINE WORKS の情報を本サービスの接続先プロフィールに登録する必要があります。事前準備や注意事項に関しては，「3.1(2) LINE WORKS へ発信する際の事前準備と必要な情報」を参照ください。

1.4.7 Slackへの通知について

本サービスから Slack への通知を行う場合には，お客様にて，Slack とサービスのご契約や運用管理などが実施され，利用可能な Slack 環境を準備していただく必要があります。

また，あらかじめ Slack の情報を本サービスの接続先プロフィールに登録する必要があります。事前準備や注意事項に関しては，「3.1(3) Slack へ発信する際の事前準備と必要な情報」を参照ください。

1.4.8 Microsoft Teamsへの通知について

本サービスから Microsoft Teams への通知を行う場合には，お客様にて，Microsoft Teams とサービスのご契約や運用管理などが実施され，利用可能な Microsoft Teams 環境を準備していただく必要があります。

また、あらかじめ Microsoft Teams の情報を本サービスの接続先プロフィールに登録する必要があります。事前準備に関しては、「3.1(4) Microsoft Teams へ発信する際の事前準備と必要な情報」を参照ください。

1.4.9 メール通知について

(1) お客様が準備したメールサーバを使用する場合

本サービスからメール通知を行う場合には、お客様にて、メールサーバを準備していただく必要があります。本サービスから、ネットワークを経由し、メールサーバにメールを送信します。メールサーバはインターネットからアクセス可能である必要があります。

対応するメールサーバのプロトコルはSMTP, SMTPS, SMTP+STARTTLS です。使用可能な認証方式は、SMTP-AUTH (PLAIN, LOGIN, CRAM-MD5) です。

また、あらかじめメールサーバの情報を本サービスの接続先プロフィールに設定する必要があります。

(2) 本サービスのメール送信機能を使用する場合

本サービスからメール通知を行う場合、本サービスが提供するメール送信機能を使用してメールを送信します。

メール送信機能は、本サービス申し込み時、または、変更申し込み時に、メール送信機能のご利用を申請されたお客様に限り、ご使用いただけます。使用する場合には、本サービス申し込み時の内容をご確認ください。

1.4.10 受信メール連携をご使用になる場合

受信メール連携は、本サービスが発行した専用のメールアドレス宛にメールを送信していただくことにより、通知を実行します。専用のメールアドレスは本サービスの申し込み時、または、変更申し込み時に発行が可能です。メールアドレスはお客様ごとに発行し、本サービス側で紐づけています。

受信メール連携をご使用になる場合には、本サービスが発行する専用のメールアドレスの取得をお願いします。

2. TELstaff クラウド型通報管理サービスの機能

この章では、TELstaff クラウド型通報管理サービスの機能について説明します。

2.1 提供する機能

2.1 提供する機能

本サービスが提供する機能を説明します。

(1) Web画面

Web 画面で提供する機能は、以下となります。

(a) 接続先外部通信サービスの情報を登録する機能

お客様で利用可能な外部通信サービスの情報を接続先の情報として登録する機能です。接続先の情報が未登録な通信サービスには、通知は行えません。

接続先は、Twilio, LINE WORKS, Slack, Microsoft Teams, メールサーバ です。

(b) 通知先ユーザを定義する機能

通知先となるユーザの情報を定義する機能です。各ユーザの通知メディア（通知手段）の情報を登録します。通知メディアと設定する内容は以下となります。

表 2.1-1 設定するユーザ情報

通知メディア	設定する内容	説明
電話通知	電話番号	Twilio を経由し、ユーザに電話通知を行います。 (※1)
SMS 通知	電話番号	Twilio を経由し、ユーザに SMS 通知を行います。
LINE WORKS への通知	LINE WORKS のメンバーアカウント	LINE WORKS へ通知内容を送信し、ユーザに LINE WORKS からの通知を行います。
Slack への通知	Slack のメンバーアカウント	Slack へ通知内容を送信し、ユーザに Slack からの通知を行います。
メール通知	メールアドレス	メールサーバへメール送信を依頼し、ユーザにメールを送信します。

- ユーザ情報に登録されていない任意の電話番号やメールアドレスなどへの通知は行えません。
- 登録可能なユーザ数は、本サービスの契約内容により決められています。登録可能なユーザ数、登録済のユーザ数は、Web 画面の「5.4 ライセンス表示画面」から確認が可能です。

※1：電話通知プランをご契約の場合、Twilio は経由せずユーザに電話通知を行います。

(c) 連絡網を定義する機能

通知先のユーザと通知メディア（通知手段）を組み合わせ、連絡網（連絡のルール）を定義します。

連絡網には、以下のような設定が可能です。

- 連絡網には、複数の通知先が定義できます。
- 定義した順番で通知が実施されます。
- 電話通知で受信者が話中などで通話を受信できない場合を想定し、繰り返しの設定が可能です。

- 電話通知で受信者が「確認操作を行った場合」、以降の通知先への通知を中止することが可能です。
- 電話通知で受信者が「確認操作を行った場合」、別の連絡網を動作させることが可能です。
- 電話通知で受信者が「確認操作を行った場合」、登録された外部サービスのAPIを実行することが可能です。
- 連絡網内の通知先ユーザが「確認操作を行わなかった場合」、別の連絡網を動作させることが可能です。
- 連絡網内の通知先ユーザが「確認操作を行わなかった場合」、登録された外部サービスのAPIを実行することが可能です。
- カレンダー・スケジュール機能と連動して、時間帯により特定の通知を抑止することが可能です。

(d) カレンダー・スケジュール機能

カレンダー機能はお客様にあわせた平日・休日を設定します。スケジュール機能ではお客様の運用などにあわせて、各通知メディアへの発信を抑止する時間帯の設定が可能です。スケジュールは平日・休日のそれぞれが設定できます。

カレンダーとスケジュールを組み合わせることで、平日・休日の各通知メディアの発信を抑止する時間帯の設定が可能です。

(e) 受信メール連携ルールを定義する機能

本サービス宛の受信メールの内容を元に、通知を実行するための条件（フィルタ条件）、実行する連絡網名、通知内容を定義します。

受信メール連携ルールには、以下のような設定が可能です。

- メール「送信元メールアドレス」「メール件名」「メール内容」に含まれる文字列で、通知を実行するかどうかのフィルタ条件を定義します。
- 実行する通知は、登録済の連絡網から選択します。
- 通知内容には、受信したメールの内容を指定することも可能です。

(f) 発信履歴を集計する機能

発信履歴を集計する機能では、期間などを指定し、集計した結果をデータ表で参照することが可能です。

また、発信履歴を元に、連絡網の電話通知の発信順序を自動調整する機能も提供しています。

(g) 同一発信を集約・間引きする機能

同一発信を集約・間引きする機能では、連絡網による通知において指定された時間内で同一の発信を集約・間引きすることが可能です。

集約では、最初の通知を受け付けてから指定された時間を待ってから実際の通知が行われます。その間の同一の通知は行われません。集約された件数が1件以上ある場合、通知文の先頭に以下の文言が追加されます。

「同一通知があり、N件集約しました。」

2. TELstaff クラウド型通報管理サービスの機能

そのためその分の通知文の最大文字数は減ることになるのでご注意ください。
間引きでは、最初の通知を行った後、指定された時間内の同一の通知は行われません。

(2) コマンド

お客様システムに本サービスが提供するコマンドを配置し、本サービスへ通知の依頼を行う場合に使用します。お客様システムと連動させ、任意のタイミングでコマンドを呼び出して通知の依頼を実行します。通知の依頼を行うコマンドだけでなく、運用管理に必要なコマンドも提供します。

(3) API

コマンドが提供する機能と、同等の処理が行える API を提供します。
API は、REST (Representational State Transfer) アーキテクチャスタイルの API です。
コマンドと同様に、お客様システムと連動させ、任意のタイミングで API を呼び出して通知の依頼を実行します。通知の依頼を行う API だけでなく、運用管理に必要な API も提供します。

(4) 受信メール連携機能

本サービスが発行する専用のメールアドレス宛にメールを送信していただくことにより、通知を実行する機能です。

お客様が送信したメール内容（本サービス側では、受信したメールの内容）が「2.1(1)(e) 受信メール連携ルールを定義する機能」で定義されたフィルタ条件に一致した場合、指定された連絡網を実行します。定義画面に関しては「5.25 受信メール連携一覧」「5.26 受信メール連携ルール画面」を参照ください。

(a) 送信元メールアドレスの検証方法

送信元のメールアドレス（From）は、お客様のシステム内だけでなく、外部サービスなどが送信元でも構いません。送信元は、SPF (Sender Policy Framework) により検証を行います。不正な送信元からのメールは、受信メール連携の対象から除外されます。

(b) 送信元が本サービスのメールの扱い

本サービスで受信したメールが、本サービスから送付されたものである場合、受信メール連携の対象から除外されます。

(c) スпамメール、ウイルスメールの扱い

本サービスで受信したメールが、スパムメールまたは、ウイルスメールと判断された場合、受信メール連携の対象から除外されます。

(d) メール本文に関して

受信したメールの本文は、テキスト部がテキスト(Content-Type: text/plain)で作成されたパートが対象となります。

(e) 文字コードに関して

受信したメールの文字エンコーディング(Content-Type ヘッダの charset フィールド)は、以下の方式のみサポートします。

- ・ windwos-31j
- ・ shift_jis
- ・ shift-jis
- ・ iso-2022-jp
- ・ utf-8

上記以外の charset フィールドが指定された場合は、utf-8 として処理します。そのため、フィルタ条件の判定が正しく動作しない場合があります。

(f) フィルタ条件の項目に特殊文字を指定した場合

フィルタ条件の項目に記号などの特殊文字を指定した場合、メール送信元の文字エンコーディング方式によっては、条件に一致しないことがあります。記号などを含むメールを送信する場合で、かつ文字エンコーディング方式を指定可能な場合は、UTF-8 としてメールを送信することを推奨します。

(g) メールサイズに関して

受信できるメールのサイズは 30MB までとなります。30MB 以上のメールは、受信メール連携の対象から除外されます。

(h) 本サービスで受信したメールに関して

本サービスで受信したメールは、受信メール連携の処理を行った後、即時に削除します。保存は行いません。

(i) 発信制限に関して

受信メール連携から実行された通知も発信制限の対象となります。本サービスへ大量のメールを送信しないよう送信回数を制御してください。

発信制限の詳細に関しては、「4.1 発信制限に関して」を参照ください。

(j) 受信メール連携のルール定義に関して

受信メール連携ルールを定義する際、同じフィルタ条件で複数のルールを大量に定義しないでください。

1 通のメールを送信（本システム側では受信）することで、大量のルールが成立し、大量の連絡網を実行しようとした場合、すべての通知が実行されない可能性があります。

1 通のメールを送信（本システム側では受信）することで、成立する受信メール連携ルールは、5 件以下としてください。

(5) メール送信機能

本サービスが提供するメール送信の機能を使用してメール送信を行います。お客様にて、メールサーバを準備していただく必要はありません。

メール送信機能を使用する場合には、本サービス申し込み時、または、変更申し込み時

2. TELstaff クラウド型通報管理サービスの機能

に、利用の申請をしていただく必要があります。申請していただいたお客様には、専用の送信元のメールアドレス（From）を割り当てお知らせします。利用の申請がない場合、メール送信機能は使用できません。

メール送信機能には、運用上の制限事項がありますので「4.8 メール送信機能を使用する場合の制限事項」の記載を必ずご確認ください。

2. TELstaff クラウド型通報管理サービスの機能

3. セットアップ

この章では、TELstaff クラウド型通報管理サービスを使用するための設定について説明します。

3.1 外部通信サービスへ通知するための設定

3.2 コマンド配置と設定ファイル

3.3 マシン時刻の設定

3.1 外部通信サービスへ通知するための設定

本サービスから、外部通信サービスへの通知の依頼を行うためには、お客様が使用する外部通信サービス側の情報を本サービス側にあらかじめ設定しておく必要があります。本章では、各外部通信サービスから取得する情報に関して説明します。

なお、本章で取得した情報は、5章 Web 画面に記載した、各外部サービスの接続先プロフィール画面を使用し設定します。

(1) Twilioへ発信する際の事前準備と必要な情報

(a) Twilioの状態を確認する

Twilio 側で以下の操作が実施できることを確認してください。

- 電話への通知(※1)
- SMS への通知 (SMS への通知を行わない場合、確認は不要)

上記の操作が実施できない場合、電話通知、SMS 通知はエラー終了します。Twilio 側にて設定などを行い、上記の操作が可能な状態としてください。

(※1): 日本語で音声を再生する場合、Twilio の DEFAULT VOICE に「ja-JP」の値を設定してください。DEFAULT VOICE は Text-to-Speech 画面 (Dashboard 画面の左メニュー Voice から Settings メニューの Text-to-Speech をクリックすると開かれます。) から確認できます。

(b) Twilioから必要な情報を取得する

Twilio へ発信を行うためには、Twilio 側の情報が必要となります。Twilio を参照、または必要な情報を登録し、以下の情報を取得してください。

- AccountSID
Twilio のユーザ名として扱われる、アカウント SID が必要となります。
- AuthToken
Twilio のパスワードとして扱われる、AuthToken が必要となります。
- 発信元電話番号
Twilio で購入した、発信元電話番号が必要となります。
- SMS 発信元電話番号
SMS への通知を行う場合は、Twilio 側で取得した、SMS の発信が可能な電話番号が必要となります。

【以下の Functions と電話フローは Twilio への登録を行います】

- Functions を登録する
Twilio へ Functions を登録します。登録する内容は、通報管理サービスからダウンロードしたコマンド等の圧縮ファイルに含まれるテンプレートを使用します。

登録した Functions は、電話フローの flow_end に設定します。

以下に、Functions 登録の概要を記載します。記載した Twilio の画面名や項目名は、2023 年 11 月時点での内容となります。詳細な内容に関しましては、Twilio へお問い合わせください。

1. Twilio へログインし、Dashboard 画面の左メニューから Functions and Assets をクリックします。Overview 画面から Create Service をクリックします。
2. サービス名に任意の名称を入力し Next ボタンを押下します。
3. Ceate your function ボタンを押下します。
4. Functions で、任意のパスを入力します。
5. Functions のコードを登録します。

Functions のテンプレートは、通報管理サービスからダウンロードしたコマンド等の圧縮ファイルの以下に配置されています。

```
¥extarnals¥twilio¥studio¥twilio_functions_for_telstaff.txt
```

このファイルをエディタで開き、全体をコピーして、貼り付け(※1)して、Save ボタンを押下します。

6. Deploy All ボタンを押下します。

- 電話フローを登録し FlowSid を取得する

Twilio の電話フローの FlowSid (SID) が必要です。電話フローの内容は、通報管理サービスからダウンロードしたコマンド等の圧縮ファイルに付属するテンプレートを 사용합니다。

Twilio の Twilio Studio から電話フローを登録します。登録が完了すると、電話フローの FlowSid (SID) が取得可能となります。

以下に、Twilio Studio での電話フロー登録の概要を記載します。記載した Twilio の画面名や項目名は、2023 年 11 月時点での内容となります。詳細な内容に関しましては、Twilio へお問い合わせください。

1. Twilio へログインし、Dashboard 画面の左メニューから Studio をクリックします。Overview 画面から Create new Flow ボタンを押下します。
2. New Flow ダイアログで、任意の FLOW NAME を入力し、Next ボタンを押下します。次の画面で Import from JSON をクリックし、Next ボタンを押下します。
3. 次の JSON 編集のダイアログで、電話フローの JSON を登録します。

電話フローのテンプレートは、通報管理サービスからダウンロードしたコマンド等の圧縮ファイルの以下に配置されています。

```
¥extarnals¥twilio¥studio¥tels_app.json
```

このファイルをエディタで開き、全体をコピーして、JSON 編集のダイアログへ張り付け(※1)して、Next ボタンを押下します。

3. セットアップ

英語でメッセージを再生する場合、電話フローのテンプレートは

`¥externals¥twilio¥studio¥tels_app_en.json`

を使用してください。

4. Flow の Editor 画面が表示されます。フローの最後の「flow_end」部分をクリックします。RUN FUNCTION ダイアログが表示されるので、SERVICE の項目で、前項目で登録したサービス名を選択します。次に ENVIRONMENT で ui を選択します。次に FUNCTION 項目で、前項目で登録した Functions を選択し、Save ボタンを押下します。この時、画面上部の Publish ボタンが活性化されますので、続けて Publish ボタンを押下します。

5. Studio の Overview 画面に戻り、一覧から登録した電話フローを探して、SID 項目に表示されている値 (FlowSid) をコピーします。

(※1) : Functions のテンプレート(twilio_functions_for_telstaff.txt), 電話フローのテンプレート(tels_app.json)の内容は変更せず使用してください。変更した場合、音声の読み上げやプッシュボタン操作ができなくなることがあります。変更して使用した場合、動作保証の対象外となります。

取得した以下の情報を Web 画面「5.10 Twilio プロファイル画面」から登録します。

- AccountSID
- AuthToken
- 発信元電話番号
- SMS 発信元電話番号
- 電話フローの FlowSid (SID)

(2) LINE WORKS へ発信する際の事前準備と必要な情報

(a) LINE WORKS の状態を確認する

LINE WORKS 側で以下の操作が実施できることを確認してください。

- トークルームの作成
- トークルームへのメッセージ投稿
- メンバーへメッセージ通知

上記の操作が実施できない場合、LINE WORKS への通知はエラー終了します。LINE WORKS 側にて設定などを行い、上記の操作が可能な状態としてください。

(b) LINE WORKS から必要な情報を取得する

LINE WORKS へ発信を行うためには、LINE WORKS の情報が必要となります。LINE WORK の Developer Console 画面などを参照し、以下の情報を取得する、または必要な情報を登録してください。

- Bot No

利用設定されている Bot No が必要です。トークルームへメッセージの投稿を行う場合、指定する Bot No の Bot があらかじめトークルームに招待されている必要があります。招待されていない Bot の Bot No を指定した場合、トークルームへのメッセージ投稿はエラーとなります。

LINE WORKS API のバージョン 1.0 の場合

- API ID
- Server API Consumer Key
- Server List ID (ID 登録タイプ)

発行された ID を取得し、ID 登録タイプの認証キー (Server List Auth Key) ファイルもダウンロードします。

LINE WORKS API のバージョン 2.0 の場合

- Client ID
- Client Secret
- Service Account
- 発行された ID を取得し、登録したアプリの Private Key ファイルもダウンロードします。

取得した以下の情報を Web 画面「5.12 LINE WORKS プロファイル画面」から登録します。

- Bot No

LINE WORKS API のバージョン 1.0 の場合

- API ID
- Server API Consumer Key
- Server List ID
- ダウンロードした ID 登録タイプの認証キー (Server List Auth Key) ファイル

LINE WORKS API のバージョン 2.0 の場合

- Client ID
- Client Secret
- Service Account
- ダウンロードした、登録したアプリの Private Key ファイル

3. セットアップ

(3) Slackへ発信する際の事前準備と必要な情報

(a) Slackの状態を確認する

Slack 側で以下の操作が実施できることを確認してください。

- チャンネルへの投稿
- メンバーへメッセージを送信

上記の操作が実施できない場合、Slack への通知はエラー終了します。Slack 側にて設定などを行い、上記の操作が可能な状態としてください。

(b) Slack から必要な情報を取得する

Slack へ発信を行うためには、Slack の情報が必要となります。Slack を参照する、または必要な情報を作成し、以下の情報を取得してください。

- App と Token

Slack へ発信を行うためには、権限を付与し生成した Token (Bot User Oauth Access Token または Oauth Access Token) が必要となります。Token を生成する App がない場合、App から作成してください。また、チャンネルへの投稿を行う場合には、Token を生成した App をあらかじめ、チャンネルに追加しておく必要があります。

Token に必要な権限に関して

Token (Bot User Oauth Access Token または Oauth Access Token) に付与する権限に関して記載します。権限が不足している場合、Slack への発信はエラーとなります。

- ワークスペース内のチャンネルへの投稿
chat:write
files:write
- メンバーへのダイレクトメッセージの送信
chat:write
files:write
im:write
- ワークスペースに参加しているメンバー一覧を取得
users:read

※App の作成、Token の作成、チャンネルへの追加、Token への権限付与の詳細に関しては、Slack へお問い合わせください

取得した以下の情報を Web 画面「5.14 Slack プロファイル画面」から登録します。

- Token

(4) Microsoft Teamsへ発信する際の事前準備と必要な情報

(a) Microsoft Teams から必要な情報を取得する

Microsoft Teams へ発信を行うためには、投稿するチャンネルに対応する Incoming Webhook の URL 情報を取得する必要があります。

- Microsoft Teams チャンネルに対応する URL 情報

以下に、Microsoft Teams からの Incoming Webhook の URL 情報を取得する概要を記載します。

記載した Microsoft Teams の画面名や項目名は、2022年3月時点での内容となります。

詳細な内容に関しましては、Microsoft Teams へお問い合わせください。

1. Microsoft Teams へログインし、投稿するチャンネルを選択し、その他のオプションをクリックします。メニューから、コネクタを選択します。
2. チャンネルのコネクタ画面で、Incoming Webhook の構成ボタンを押下します。Incoming Webhook の名前に任意の名前を指定し、作成ボタンを押下します。URL が表示されたらコピーして取得します。完了ボタンを押下します。

取得した以下の情報を Web 画面「5.16 Microsoft Teams プロファイル画面」から登録します。

- Microsoft Teams チャンネルに対応する URL 情報

(5) メール発信する際の注意事項

(a) お客様が準備したメールサーバを使用する場合

メールサーバの情報は Web 画面「5.8 メールサーバ登録画面」から登録します。

- 使用するメールサーバはインターネットからアクセス可能である必要があります。
- メールサーバの対応可能なプロトコルは SMTP, SMTPS, SMTP+STARTTLS です。使用可能な認証方式は、SMTP-AUTH (PLAIN, LOGIN, CRAM-MD5) です。
- 送信メールの発信者情報 (From:)、送信者名 (From) は「5.8 メールサーバ登録画面」で指定した「送信メールアドレス」「送信者名」が使用されます。
- 件名の内容は、コマンドではパラメタで、API ではリクエストデータで指定します。件名は、200文字以内で指定します。

(b) 本サービスのメール送信機能を使用する場合

メール送信機能を使用する設定は Web 画面「5.8 メールサーバ登録画面」で設定します。

- 送信メールの発信者情報 (From:) は、お客様に割り当てた専用の送信元のメールアドレス (From) が使用されます。
- 送信メールの送信者名 (From) は「5.8 メールサーバ登録画面」で指定した「送信者名」が使用されます。
- 件名の内容は、コマンドではパラメタで、API ではリクエストデータで指定します。件名は、200文字以内で指定します。

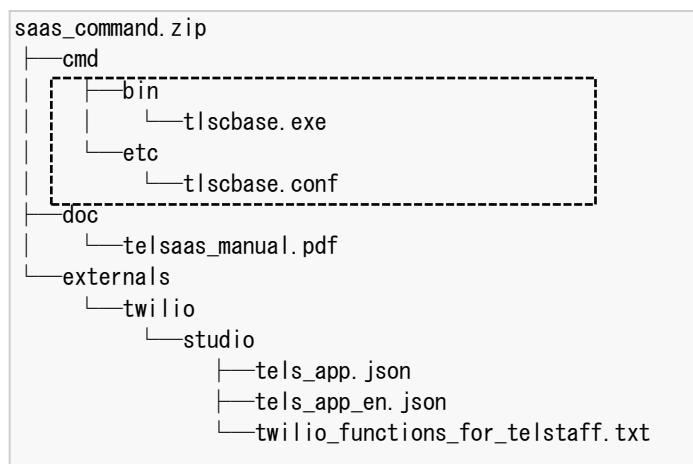
3.2 コマンド配置と設定ファイル

本サービスが提供するコマンドを使用して通知の依頼を行う場合、お客様システム側にコマンドを配置し、設定ファイルに必要な値を設定する必要があります。

(1) コマンド等の圧縮ファイルからコマンドと設定ファイルをコピーする

通報管理サービスよりダウンロードしたコマンド等の圧縮ファイルから、コマンド (telsbase.exe) と コマンド設定ファイル(telsbase.conf)のサンプルを上位フォルダも含めてコピーしてお客様環境へ配置します。

コマンド等の圧縮ファイルに含まれる代表的なフォルダを以下に示します。



点線で囲われた部分をフォルダも含めてコピーして配置します。

図 3.2-1 コマンド等の圧縮ファイルからコピーするフォルダ

配置先フォルダは任意のフォルダで構いませんが、コマンド実行時に `¥var¥log` フォルダを作成して、ログファイルを出力するため、フォルダに書き込み権限が必要です。

(2) コマンド設定ファイルを編集する

通報管理サービスよりダウンロードしたコマンド等の圧縮ファイルから、コピーして配置した、コマンド設定ファイル (telsbase.conf)の内容を設定します。

ログの出力先や本サービスへのサインイン情報などをコマンド設定ファイル (telsbase.conf)に記載します。コマンド設定ファイルの文字コードは UTF-8 で記載し、BOM なしで作成してください。BOM 付きで作成する場合には、先頭に空行あるいはコメント行を入れてください。

以下、コマンド設定ファイルの内容に関して記載します。

表 3.2-1 コマンド設定ファイルの内容

セクション(※1)	キー(※1)	必須	設定内容
General	LogPath		コマンドが出力するログの出力フォルダ名を完全名で指定します。3~260 文字以内 (半角・全角を問わず文字数) で指定します。省略した場合、<コマンドを配置し

セクション(※1)	キー(※1)	必須	設定内容
			たフォルダ>¥var¥log フォルダへ出力します。
	LogSizeLimit		ログの最大サイズを指定します。1～9999 の値と単位を指定します。単位は数値に続けて KB または MB を指定します。単位を省略した場合、KB となります。省略時は 5120KB (5MB) です。ログサイズが上限に達した場合、1 世代バックアップを採取し、その後ログファイルの先頭からログを記録します。
	WebServer	○	本サービスの「接続先 URL」を指定します。 本サービス申し込み時にご連絡している、接続先 URL を指定します。 指定例) https://xxxxxx.xxxxxx.xx.xx 「https」で始まり、最後に「/」は付与しません。
	AuthUser	○	本サービスへサインインするための、「アカウント ID」を指定します。 (本サービス申し込み時にご連絡しています)
	AuthPass	○	本サービスへサインインするための、「パスワード」を指定します。 (本サービス申し込み時にご連絡していますが、パスワード変更を行った場合、変更後のパスワードを指定してください)
	RoomConfPath		LINE WORKS 用のトークルーム名とトークルーム ID の関連付けをしたルーム ID 記録ファイル名を完全名で指定します。3～260 文字以内 (半角・全角を問わず文字数) で指定します。省略した場合、<コマンドを配置したフォルダ>¥etc¥room.conf を使用します。
	ExecuteCount		REST API へのリクエストの実行回数です。REST API へのリクエストが失敗時にリクエストを実行する回数を 1 から 100 の間の数字で指定します。省略した場合の値は 1 です。
	SleepSecond		ExecuteCount の再送間隔(秒)を 0 から 100 の間の数字で指定します。省略した場合の値は 0 です。
	Lang		コマンドが出力するログの言語を「Japanese」あるいは「English」から選択します。未指定あるいは「Japanese」「English」以外が指定されたときは「Japanese」が指定されたものとします。 また、コマンド引数エラー、コマンド設定ファイル誤りについては Lang の指定値に関わらず日本語で出力されます。
Http	RequestTimeout		コマンドを実行してからレスポンスが返るまでの最大待ち時間(秒)を 5 から 86400 の間の数字で指定します。省略した場合の値は 180 です。

※1 : セクション名・キー名には、大文字・小文字の区別がありますので、大文字・小文字の誤りがないように設定してください。

3. セットアップ

設定例) tlscbase.conf

```
[General]
WebServer=https://xxxxxx.xxxxxx.xx.xx
AuthUser=user1011
AuthPass=passxxxxxxxxxx
RoomConfPath=C:%temp%TELaaS%etc%room.conf
ExecuteCount=1
SleepSecond=10
```

(3) ルームID記録ファイルに関して

ルーム ID 記録ファイル(room.conf)は、トークルーム名とトークルーム ID の関連付けを記録するファイルです。

本ファイルは、LINE WORKS のトークルームへ投稿を行わない場合には、使用しません。

- LINE WORKS トークルームの作成を「6.2.15 LINE WORKS トークルーム作成コマンド」から実施した場合、本ファイルに自動的に作成した内容（トークルーム名、トークルーム ID）を追加します。
- LINE WORKS への通知でトークルームへの投稿を「6.2.4 LINE WORKS 投稿コマンド」から行なう場合、本ファイルを参照します。
- お客様側で既にご使用されているトークルームのトークルーム名とトークルーム ID が明確な場合、トークルーム名とトークルーム ID を本ファイルに記載することで、メッセージの投稿先として使用することが可能です。

使用が可能なケースと条件：

既に使用している LINE WORKS のトークルームがあり、且つ、トークルームのトークルーム名とトークルーム ID が明確な場合、LINE WORKS から取得したトークルーム名、トークルーム ID を本ファイルに記載します。

トークルーム名とトークルーム ID が不明確な場合には、既に使用している LINE WORKS のトークルームへの投稿はできません。

本ファイルは ini ファイル形式で設定します。「;」（セミコロン）、「#」（シャープ）から始まる行はコメントとして扱われますが、トークルーム作成コマンドを実行した場合、コメント行、空白行は削除されます。また、トークルーム名の並びはトークルーム名でソートされます。ルーム ID 記録ファイルの文字コードは、UTF-8 で記述してください。

既存のトークルームのトークルーム ID が不明確な場合、ルーム ID 記録ファイルの記載は不要ですが、トークルーム作成コマンドを実行して、投稿先のトークルームをあらかじめ作成しておく必要があります。

ルーム ID 記録ファイルは、以下のフォルダに配置します。

<コマンドを配置したフォルダ>%etc%room.conf

表 3.2-2 ルームID記録ファイルの内容

セクション	キー	設定内容
Room	ルーム名	LINE WORKS のトークルーム名をキーに設定し、トークルーム ID を値に設定します。 tlsbase コマンドで、トークルーム作成を行った場合、自動的にトークルーム名、トークルーム ID を追記します。

設定例) room.conf

```
[Room]
インフラ運用=18811311
お知らせ=18811322
```

3.3 マシン時刻の設定

本サービスの Web 画面 (GUI) , コマンド, API を使用する場合, 操作を行うお客様環境のマシン時刻は, インターネット時刻 (NTP サーバ) と同期している必要があります。インターネット時刻と同期していない場合, サインイン時に認証エラーが発生する場合があります。

OS の設定に応じてインターネット時刻と同期の設定をお願いします。以下に例として Windows10 の「インターネット時刻 (NTP サーバ) 」の設定例を示します。

設定例)

- (1) スタートメニューの「設定」から「時刻と言語」を表示する。
- (2) 「インターネット時刻」のタブをクリックする。
- (3) 「設定の変更」ボタンを押下する。
- (4) 「インターネット時刻サーバと同期する」をチェックする。
- (5) 「サーバ」に NTP サーバ(※1)の URL を入力する。
- (6) 「今すぐ更新」のボタンを押下する。
- (7) 「OK」ボタンを押下し画面を閉じる。

※1 : NTP サーバの URL に関しては, Windows10 標準の「time.windows.com」を指定する, もしくは, お客様システムで決められた NTP サーバの URL を指定してください。

4.運用上の留意事項

この章では、TELstaff クラウド型通報管理サービスの運用上の留意事項について説明します。

- 4.1 発信制限に関して
- 4.2 性能に関して
- 4.3 外部通信サービス側の注意事項に関して
- 4.4 電話通知の操作と応答に関して
- 4.5 通知文ファイルに関して
- 4.6 障害を考慮した運用方法と留意事項
- 4.7 調査用資料の採取
- 4.8 メール送信機能を使用する場合の制限事項

4.1 発信制限に関して

(1) 発信制限の内容

本サービスは、多くのユーザと資源を共有するサービスのため、発信制限が設けられています。

- 発信制限を解除することはできません。
- 発信制限の対象となった通知は破棄されます。本サービス側で保留や再実行は行いません。
- 発信制限が発生した場合、制限の内容が Web サービス側のログに出力されます。
(お客様環境のコマンド側のログには、制限の内容は記録されません)

ログの内容は「6.2.18 ログ取得コマンド」または「7.2.17 ログ取得 API」を使用して取得してください。Web 画面 (GUI) では参照できません。

発信制限が発生した場合のログ：

「1019-I {通知メディア} の発信を制限しました。SID:{SID} Limit:{limit}」

メッセージの詳細に関しては「9.2 メッセージ一覧」を参照ください。

- 発信制限の対象となった通知は「5.27 発信履歴レポート画面」でレポートの対象外となります。

通知メディアごとの発信制限を以下に示します。

表 4.1-1 通知メディアごとの発信制限

通知メディア	発信制限 (1 分間の通知件数) (※1)
電話通知	60 件/分
SMS 通知	60 件/分
LINE WORKS への通知	60 件/分
Slack への通知	60 件/分
Microsoft Teams への通知	60 件/分
メール通知	60 件/分(※2)

※1：発信制限の件数は実際に発信したものだけをカウントします。

カレンダー・スケジュール機能での抑止や発信制限された発信はカウントしません。

※2：1 日または短時間に多くのメール通知を実行することはできません。

大量の通知が実行された場合など、発信制限の対象となった通知は破棄されます。このため、必要な通知が通知先に届かなくなる可能性があります。本サービス側で対処は行いませんので、通知を依頼するお客様のシステム側で「一定間隔に同じ内容を通知しない」や「不要な通知は実行しない」などの予防策を実施して通知回数を制御してください。

4.2 性能に関して

(1) 受信性能の内容

受信性能とは、本サービスが単位時間あたりの最大のリクエストの受け付けを行う性能を意味します。受信性能として、個別発信、連絡網発信を合わせて「60件/分」の性能を保証します。

・個別発信時の場合、APIサーバがリクエストを受け付けてから各通知メディアへのリクエストの送信開始までを指します。

例) 60件のリクエストが同時に実行されたとき、1番目のリクエストの受け付けから最後のリクエストの各通知メディアへのリクエスト送信開始までを1分以内に処理します。

・連絡網発信時の場合、APIサーバがリクエストを受け付け、連絡網発信の1番目の通知先へのリクエストの送信開始までを指します。

例) 60件のリクエストが同時に実行されたとき、1番目のリクエストの受け付けから最後の連絡網発信リクエストの1番目の通知先へのリクエストの送信開始までを1分以内に処理します。

・アカウントメニューから「大量発信の集約、間引き」機能を実施した場合でも、受信性能は変わりません。

また、受信メール連携の受信性能を1通につき1ルール適用される条件で60件/分を保証します。

例) 1通につき5ルールが適用される条件では12件/分($60 \div 5 = 12$)となります。

(2) 発信性能の内容

発信性能とは、本サービスとして単位時間あたりに発信できる性能を意味します。

発信性能は以下1~3の内、最も値が小さいものとなります。

- 1.本サービスとしての性能限界値
- 2.各外部通信サービスの制限値
- 3.発信制限の値

例)

- 1.本サービスとしての性能限界値:4件/秒->240件/分
- 2.外部通信サービスの制限値:14件/秒->840件/分
- 3.発信制限の値:60件/分

の場合、3.の値が最も小さいため、発信性能は「60件/分」となります。

本サービス全体の目安となる発信性能は「60件/分」です。

4.3 外部通信サービス側の注意事項に関して

外部通信サービス（Twilio, LINE WORKS, Slack, Microsoft Teams）の注意事項に関して記載します。

(1) Twilio へ発信する際の注意事項

(a) Twilio の制限に関して

本サービスでは、Twilio 側で設けられた制限(※1)に関してチェックは行ないません。コマンドおよび API の呼び出し側にて、Twilio 側の制限などを考慮し、通知の依頼を実行するようにしてください。

※1：2023 年 6 月時点で、以下の主な制限を確認しています。

●電話発信に関して

- ・1 契約あたり 1 秒 1 コールで発信の速度制限がある。
- ・1 契約あたり 1 秒につき 1 通話のスピードで処理される。
- ・短時間に大量のコールを行う場合には、事前に相談する必要がある（1 分間に 50 件を超えるような通話を数十分続ける場合や、100 件以上の発信を一斉に行う場合など）。
- ・事前に連絡をせず大量の通話を行なった場合、システムや電話キャリア側への影響を考慮し、アカウントが一時的に停止される場合がある。また、高負荷による障害解消に必要な費用は契約者の負担となる。
- ・読み上げるメッセージ内容は最大 3,000 ユニコード文字であり、日本語の場合、424 文字以下である。

各制限の詳細、その他の制限事項に関しては、Twilio へお問い合わせください。

●SMS 発信に関して

- ・文字数が多く分割送信された場合、分割された SMS が携帯電話側に届いたときの振る舞いは各キャリア、機器により異なる恐れがありますので、事前に十分テストを行ってください。

送信可能なキャリアの情報、対応する文字の情報、分割送信のルール、制限の詳細、その他に関しては、Twilio へお問い合わせください。

(2) LINE WORKS へ発信する際の注意事項

(a) LINE WORKS の制限に関して

本サービスでは、LINE WORKS 側で設けられた制限(※1)に関してチェックは行ないません。コマンドおよび API の呼び出し側にて、LINE WORKS 側の制限などを考慮し、通知の依頼を実行するようにしてください。

※1：2022 年 3 月時点で、以下の制限を確認しています。

- ・メッセージ投稿、メッセージ送信するメッセージ文字列は、2,000 文字（半角・全角を問わず文字数）まで
- ・メッセージ投稿、メッセージ送信は 1 分間に 60 回（フリープランの場合）まで

- ・メッセージ投稿、メッセージ送信は1日に20,000回まで
 - ・トークルーム名は、100文字（半角・全角を問わず文字数）まで
- 各制限の詳細、その他の制限事項に関してはLINE WORKS へお問い合わせください。

(b) LINE WORKS の仕様に関して

本サービスでは、LINE WORKS 側の仕様（2022年3月時点）により、以下の操作はできません。

- ・LINE (※2)のユーザが招待されているトークルームにメッセージを投稿することはできません。
- ・メンバーへのメッセージ通知で、LINE (※2)のユーザへメッセージを通知することはできません。

※2：LINE WORKS と LINE は、別のサービスであり、別のアプリケーションです。

(3) Slack へ発信する際の注意事項

(a) Slack の制限に関して

本サービスでは、Slack 側で設けられた制限(※1)に関して、チェックは行ないません。コマンドおよびAPIの呼び出し側にて、Slack 側の制限などを考慮し、通知の依頼を実行するようにしてください。

※1：2022年3月時点で、以下の制限を確認しています。

- ・チャンネルへのメッセージ投稿またはメンバーへのダイレクトメッセージの送信では、ワークスペース全体で5GB（フリープランの場合）まで使用が可能。
- ・チャンネルへのメッセージ投稿またはメンバーへのダイレクトメッセージの送信で、内部的に動作させるSlack APIでは、1秒あたり1つのメッセージしか投稿できません。

この制限は動的にSlackで制御され、制限が解除されたように動作する場合があります。制限に達した場合は、制限値を超えたことを示すエラーメッセージ「Too Many Requests」が出力されますので、間隔をあけて送信を実行してください。

各制限の詳細、その他の制限事項に関しては、Slack へお問い合わせください。

4.4 電話通知の操作と応答に関して

(1) 電話発信の動作に関して

電話発信の動作などに関して、以下に記載します。

- 電話通知を開始した時点で、コマンドまたは API は、発信開始を示す戻り値で終了します。発信先が応答しない、話し中、応答ガイドンスの入力結果など、Twilio 側の状況を取得するためには、コマンドまたは API で出力された Sid を元に「6.2.8 発信結果問い合わせコマンド」または「7.2.5 発信問い合わせ API」を発行して、発信結果を取得する必要があります。
- 電話通知では、発信の受け付けから 2 分が経過した場合、タイムアウトになります。
- 通知メッセージの操作の応答ガイドンスは、「メッセージを再度聞き直す（操作ボタン：1）」「確認する（操作ボタン：2）」または「終了する（操作ボタン：#）」のいずれかとなります。応答ガイドンスの内容は変更できません。
- 通知メッセージ読み上げ途中、または、応答ガイドンスの読み上げ途中に、応答ガイドンスに対応する入力操作（ボタン操作）はできません。
- 通知メッセージ読み上げ途中、または、応答ガイドンスの読み上げ途中に、電話を終了（電話を切る）した場合、2 分間、応答が無くなります。後続の通知などがある場合、開始が遅れます。読み上げ途中に電話を終了（電話を切る）しないでください。
- 通知文内容の読み上げに関しては、本サービス側で、読み方の設定や音声変換の設定はできません。
- 英単語や数字の読み上げに関しても、期待の通りに読み上げられない場合があります。
- 海外への電話発信は保証されません。
- 電話発信は、AEPE (TELstaff AE Professional Edition) で利用できる IP 電話や、AEPE (TELstaff AE Professional Edition) または、AESE (TELstaff AE Standard Edition) でのトリガフォンを使用した電話発信と動作が異なります。

(a) Twilio連携での電話発信の動作に関して

- Twilio への電話通知では、「電話回線数」の概念が無いため、1つの電話通知が終了する前に、次の電話通知※1が実行されると、即時※2に次の電話通知も実行します。

また、同じ電話番号に連続して電話通知を実行（前の通話が完了する前に、次の通知を実行）した場合、前の電話が本サービス以外の電話と通話中の間は、後続の電話通知は、話し中となります。前の電話が本サービスと通話中の間は、後続の電話通知は、「HTTP 409 エラー」となります。本サービスでは、同じ電話番号に対して通話中の場合、電話通知を実行しないなどの制御は行いません。

※1：「次の電話通知」とは、電話発信中に新たに「6.2.1 電話発信コマンド」「6.2.7 連絡網発信コマンド」または「7.2.4 発信受付 API」で電話通知

が実行されることを示します。

※2：「即時」にと記載していますが、本サービスには「4.1 発信制限に関して」に記載した発信制限がありますので、この制限の範囲内で電話通知を実行します。

(b) 電話通知プランでの電話発信の動作に関して

- 最大同時通話数は2件です。

例えば、電話通知を含む連絡網を10件実行する場合、最初に発信される2件（最大同時通話数）の通話が終了すると、次の2件が実行されます。発信の受け付けから2分を経過した場合、残りの件数は「タイムアウト」となります。

例)

- 電話通知を10件同時に発信
 - 最大同時通話数分の発信2件の受け付けから通話終了までに1分経過
 - 次の発信2件の受け付けから通話終了までに1分経過（1の実行から2分が経過）
 - 2.または3.で発信されなかった残りの6件はタイムアウトとして処理
- 読み上げるメッセージ内容は424文字以下です。
 - 同じ電話番号に連続して電話通知を実行（前の通話が完了する前に、次の通知を実行）した場合、後続の電話通知は、「タイムアウト」となります。本サービスでは、同じ電話番号に対して通話中の場合、電話通知を実行しないなどの制御は行いません。
 - 発信先は日本国内のみになります。

(c) 電話通知の流れ

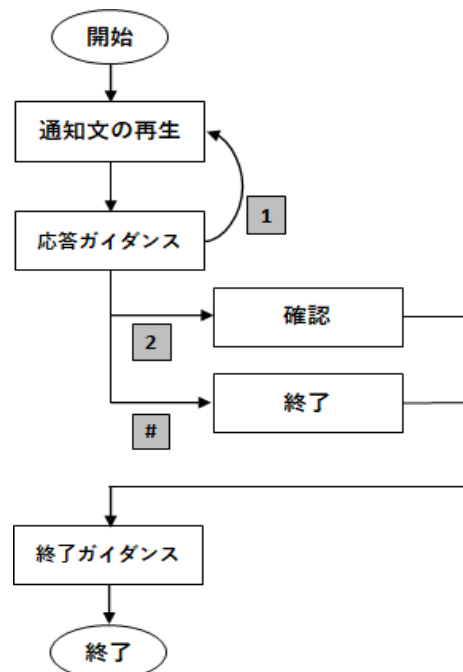


図 4.4-1 電話通知の流れ概要

4. 運用上の留意事項

(2) プッシュ入力操作

電話通知では、プッシュ入力を求めるガイダンスメッセージが流れます。ガイダンスに従いボタンを操作することでプッシュ入力を行ってください。

プッシュ入力すべき番号の桁数は「1桁」です。1桁以上の回数プッシュ入力をして、規定桁数でプッシュ入力は終了します。規定桁数をプッシュしても次のガイダンスメッセージが流れない場合は、一部のプッシュ入力が検知できなかった可能性があります。このような場合、何かの番号をプッシュし（規定桁数を満たすことで入力を完結させ）、その後のガイダンスメッセージに進めてください。

プッシュ入力は「10秒間(※1)」以内に行う必要があります。プッシュ入力操作を行う前に時間が経過すると、不正な番号を入力した場合と同様の入力エラーと扱われます。プッシュ入力がエラーになった場合、「2回(※1)」まで入力（初回を含めると3回）を繰り返すことができます。入力回数を超えると、電話回線を切断します。

なお、短い間隔でプッシュ入力を行うと、番号を検出できないことがあります。

注※1：プッシュ入力の待ち時間「10秒間」、プッシュ入力の繰り返し回数「2回」は変更できません。

(3) 通知メッセージ確認と受信操作

(a) 電話通知を受けたとき

電話受信者は通知メッセージを確認し、ガイダンスメッセージに従い以下に示す受信操作を行います。

表 4.4-1 通知メッセージの受信操作方法

受信操作	プッシュ入力値	動作
メッセージを再度聞き直す	1	再度メッセージを通知します。
通知内容を確認する	2	電話発信コマンドの場合(※1)： ・発信を終えます。 連絡網の場合(※2)： 「確認が取れたら中止する」が[OFF]の場合： ・連絡網の後続への通知を続行します。 「確認が取れたら中止する」が[ON]の場合： ・連絡網の後続への通知を中止します。
通知内容を確認せず、終了する	#	電話発信コマンドの場合(※1)： ・発信を終えます。 連絡網の場合(※2)： ・連絡網の後続への通知を続行します。

※1：「6.2.1 電話発信コマンド」で電話通知する場合

※2：「6.2.7 連絡網発信コマンド」で電話通知を実行する場合

(4) 受信操作と応答結果

(a) 電話通知を受けたときの操作と応答結果

電話受信者の操作（受話しない場合も含む）に対する応答結果を以下に示します。

表 4.4-2 電話通知の応答結果 (Twilioの場合)

受信者の操作, 通知状況など	電話通知の応答結果 (※2)
話し中	話し中 (busy)
受信者がプッシュ操作して「#」(終了)を選択	終了操作が行われた (completed)
受信者がプッシュ操作して「2」(確認)を選択	確認操作が行われた (confirmed)
電話番号不正などで電話が通じないなど	エラー (failed)
発信中の場合	発信中 (inprogress)
受信者がプッシュ操作をしない (留守番電話が受話した場合を含む)	入力エラー (input error)
受信者が電話に出ない(※1)	相手不在 (no answer)
Twilio から応答がない	Twilio からの応答がタイムアウト (twilio timeout)

表 4.4-3 電話通知の応答結果 (電話通知プランの場合)

受信者の操作, 通知状況など	電話通知の応答結果 (※2)
受信者がプッシュ操作して「#」(終了)を選択	終了操作が行われた (completed)
受信者がプッシュ操作して「2」(確認)を選択	確認操作が行われた (confirmed)
電話番号不正などで電話が通じないなど	エラー (failed)
発信中の場合	発信中 (inprogress)
電話をかけたが応答がない (話し中, 相手不在などの場合も含まれます)	応答がタイムアウト (twilio timeout)
同時通話の待ち時間中にタイムアウトした	応答がタイムアウト (timeout2)

注※1 一定時間以内に電話受信者が電話を受けない場合は、相手不在として扱います。呼び出し時間は「60 秒間」です。呼び出し時間の変更はできません。

注※2 電話通知の応答結果は「6.2.8 発信結果問い合わせコマンド」または「7.2.5 発信問い合わせ API」で取得される電話通知の結果です。連絡網の中に複数の電話通知が定義されている場合には、最終的な結果が「6.2.8 発信結果問い合わせコマンド」または「7.2.5 発信問い合わせ API」で取得されます。

4.5 通知文ファイルに関して

通知文ファイルは、通知内容を記載してあらかじめ準備しておき、コマンドのパラメータに指定して使用します。

「6.2.1 電話発信コマンド」「6.2.2 SMS 発信コマンド」「6.2.3 メール発信コマンド」「6.2.4 LINE WORKS 投稿コマンド」「6.2.5 Slack 投稿コマンド」「6.2.6 Microsoft Teams 投稿コマンド」「6.2.7 連絡網発信コマンド」で使用します。

なお、API では、通知文ファイルは使用しません。API では JSON 形式のプロパティに通知内容を文字列で指定します。

(1) 通知文ファイルの規則

- 通知文ファイルには、固有の変数と環境変数が使用できます。各変数の詳細に関しては「6.2.19 コマンドの通知文ファイル等に使用できる変数」を参照ください。
- 通知文ファイルに指定可能な文字数は 10,000 文字です。通知文ファイル中に変数が指定されている場合、変数の値を変換した変換後の文字数が 10,000 文字までとなります。
10,000 文字を超えて指定した場合、10,000 文字を超えた部分を切り捨てます。
- 各外部通信サービスで制限された文字数や文字コードなどに関しては、本サービスではチェックしません。各通信サービスの制限の範囲内で通知文ファイルを作成してください。

(2) 通知文ファイルの作成例

(a) 通知文ファイル作成例（メール通知を除く通知文）

システムから通報がありましたのでお知らせします。
受け付け日時は、{%y/%m/%d %H:%M:%S} です。
夜間バッチ処理で障害の発生を検知しました。
状況を確認してください。

(b) メール送信の通知文ファイル作成例

システムから通報がありましたのでお知らせします。
受け付け日時は、{%y/%m/%d %H:%M:%S} です。
夜間バッチ処理で障害の発生を検知しました。
状況を確認してください。

発信者 通報管理サービス

4.6 障害を考慮した運用方法と留意事項

本サービスを使用した通知システムを運用する上での留意事項について、説明します。

(1) 発信の滞留・遅延リスク、発信制限を想定する

本サービスへの発信が大量に発信されないよう対策することを推奨します。

(a) 想定されるリスク

本サービスは受け付けた通知要求を順に処理していきます。実際の発信が完了するまでの間隔より短い間隔で通知要求を実行し続けると、通知要求が増加し続けてしまい、通知が滞留・遅延する可能性があります。

また、本サービスでは、「4.1 発信制限に関して」に記載した発信制限も設けていますので、通知の滞留・遅延・発信制限により、次のような事象につながります。

- 重要な通知が実行されるまで長い時間がかかる
- 滞留・遅延した通知が、その通知が必要な時期を過ぎても実施される（例：エラーを通知する電話通知が障害復旧後もかかってくる）
- 発信制限の対象となった通知は破棄され、通知する内容が伝わらない
- 外部通信サービスから接続を拒否される可能性がある

本サービスが受け付けた通知要求の件数は「発信情報件数問い合わせコマンド」または「発信情報件数問い合わせ API」で確認できます。「完了済」と「未完了（発信中と未発信）」の件数が確認可能です。詳細は「6.2.16 発信情報件数問い合わせコマンド」または「7.2.15 発信情報件数問い合わせ API」を参照ください。Web 画面では、件数の確認はできません。

(b) 対策方法

本サービスでは、大量の発信を抑止する機能はありません。通知を依頼するお客様のシステム側で「一定間隔は同じ内容を通知しない」や「不要な通知は実行しない」などの予防策を実施し通知回数を制御してください。

(2) 同一電話番号へ連続で発信すると話し中になる

Twilio への電話発信では、同一の電話番号に対して、複数の電話通知を実行することが可能です。

(a) 想定されるリスク

ある電話番号へ電話通知を実行中に、同一の電話番号への新しい通知が実行されると、前の電話通知の終了を待たず、電話通知が実行されます。この結果、後の電話通知は話し中の状態となり、「6.2.8 発信結果問い合わせコマンド」または「7.2.5 発信問い合わせ API」で取得される電話通知の結果は「話し中 (busy)」となり、次のような事象につながります。

- 電話通知が実行されたが「話し中」となり、通知する内容が伝わらない

4. 運用上の留意事項

(b) 対策方法

本サービスでは、同一の電話番号への通知を制御する機能はありません。通知を依頼するお客様のシステム側で、同一ユーザへ短時間での電話通知を制御してください。

連絡網で発信する場合には、連絡網の繰り返し回数（実行回数）（5.22(2)「実行回数」テキストフィールド（必須項目））を増やすなどの設定とあわせて電話通知を制御してください。

(3) 発信の受け付けから2分が経過するとタイムアウトになる

電話発信では、発信の受け付けから2分が経過するとタイムアウトとなります。

(a) 想定されるリスク

ある電話番号へ発信の受け付けから2分が経過するとタイムアウトとなり終了します。この結果、「6.2.8 発信結果問い合わせコマンド」または「7.2.5 発信問い合わせ API」で取得される電話通知の結果は「タイムアウト (twilio timeout)」となり、次のような事象につながります。

- 電話通知が実行されたが「タイムアウト」となり、通知する内容が伝わらない

また、電話通知プランの場合、同時通話数の制限があるため、タイムアウトとなった電話通知は発信されません。例えば、電話通知を含む連絡網を10件実行する場合、最初に発信される2件（最大同時通話数）の通話で2分経過した場合、残りの8件は「タイムアウト」となります。この結果、「6.2.8 発信結果問い合わせコマンド」または「7.2.5 発信問い合わせ API」で取得される電話通知の結果は「タイムアウト 2 (timeout2)」¹、発信履歴レポートの失敗理由では「完了タイムアウト 2」となり、次のような事象につながります。

- 電話通知が実行されたが「タイムアウト 2」となり、いくつかの通知が行われない

(b) 対策方法

連絡網で発信する場合には、連絡網の繰り返し回数（実行回数）（5.22(2)「実行回数」テキストフィールド（必須項目））を増やす設定をしてください。

(c) Twilioと電話通知プランの切り替え目安

タイムアウト 2 (timeout2) の対象となる電話通知の利用が多い場合、電話通知プランからお客様にて Twilio とご契約しての利用をご検討ください。

(4) 障害の要因が外部通信サービス側にある場合

本サービスから通知を外部通信サービス側へ依頼した時、外部通信サービス側の要因で通知が失敗する可能性があります。外部通信サービス側に要因がある場合、本サービス側では対処方法はありません。お客様と外部通信サービスの間で、問題解決を行ってください。

4.7 調査用資料の採取

本サービスのコマンドが上手く動作しない場合など、問い合わせを行う場合には、以下に記載する資料を取得し、問い合わせ内容（状況や現象、発生時刻など）とあわせて、サポート窓口へ送付してください。

【採取していただく情報】

1. お客様環境側のコマンドのログ情報
2. 「ログ取得コマンド」で取得したログ情報
3. 「連絡網定義取得コマンド」で取得した連絡網定義の情報
4. 「通知先ユーザ定義取得コマンド」で取得したユーザ定義の情報

(1) お客様環境側のコマンドのログファイルの採取

コマンドのログ情報の採取は、3章「3.2(2) コマンド設定ファイルを編集する」の LogPath キーで設定したフォルダに出力されますので、すべてのログファイルを採取してください。

コマンド設定ファイルの設定例

```
[General]
LogPath=C:¥temp¥TELSaas¥command¥log
LogSizeLimit=512KB
.
.
```

上記の例では、C:¥temp¥TELSaas¥command¥log フォルダにログファイルが出力される設定です。このフォルダに出力された、すべてのログファイルを採取してください。

(2) 「ログ取得コマンド」で取得したログファイルの採取

ログ取得コマンドは、6章 コマンドの「6.2.18 ログ取得コマンド」を動作させて取得します。コマンドプロンプトを管理者として起動し、ログ取得コマンドを動作させます。公開ログと非公開のシステムログの両方を採取してください。

Web 画面では、ログ取得はできません。

ログ取得コマンドの動作例

```
cd C:¥temp¥TELSaas¥bin          ...toscasコマンドの配置フォルダ
tlscbase logget > C:¥temp¥TELSaas¥cbaselog.txt
tlscbase logget -d > C:¥temp¥TELSaas¥cbasedblog.txt
```

上記の例では、公開ログを C:¥temp¥TELSaas¥cbaselog.txt にリダイレクトし出力、非公開のシステムログを C:¥temp¥TELSaas¥cbasedblog.txt にリダイレクトし出力しています。

4. 運用上の留意事項

(3) 連絡網定義の情報採取

本サービスの連絡網を使用していない場合、採取は不要です。

連絡網定義の採取は、6章 コマンドの「6.2.13 連絡網定義取得コマンド」を動作させて取得します。コマンドプロンプトを管理者として起動し、連絡網定義取得コマンドを動作させて採取してください。

Web 画面では、すべての連絡網定義情報の取得はできませんので、連絡網定義取得コマンドを実行ください。

連絡網定義取得コマンドの動作例

```
cd C:¥temp¥TELSaas¥bin      ...tlscbaseコマンドの配置フォルダ
tlscbase net export > C:¥temp¥TELSaas¥cbasenet.txt
```

上記の例では、すべての連絡網定義を C:¥temp¥TELSaas¥cbasenet.txt にリダイレクトし出力しています。

(4) ユーザ定義の情報採取

ユーザ定義の採取は、6章 コマンドの「6.2.10 通知先ユーザ定義取得コマンド」を動作させて取得します。コマンドプロンプトを管理者として起動し、通知先ユーザ定義取得コマンドを動作させて採取してください。

Web 画面では、すべてのユーザ定義情報の取得はできませんので、通知先ユーザ定義取得コマンドを実行ください。

通知先ユーザ定義取得コマンドの動作例

```
cd C:¥temp¥TELSaas¥bin      ...tlscbaseコマンドの配置フォルダ
tlscbase user export > C:¥temp¥TELSaas¥cbaseuser.txt
```

上記の例では、すべての連絡網定義を C:¥temp¥TELSaas¥cbaseuser.txt にリダイレクトし出力しています。

(5) その他の情報採取に関して

お問い合わせの内容により、上記以外の情報を取得していただく場合があります。あらかじめご了承ください。

4.8 メール送信機能を使用する場合の制限事項

メール送信機能は、本サービスが提供するメール送信の機能を使用してメール送信を実行する機能です。お客様にて、メールサーバを準備していただく必要はありません。

本サービスは、多くのユーザと資源を共有するサービスのため、メール送信機能では、以下に記載する制限事項があります。制限事項に同意していただけない場合は、メール送信機能は使用せずに、お客様にてメールサーバを準備していただく方式でメールの送信を実行してください。

(1) 不正な宛先への通知，苦情メールとして登録された通知に関して

不正な宛先（存在しないメールアドレス）へメール通知を3回実施すると、3回目に、お客様に割り当てた専用の送信元のメールアドレス（From）を無効化します。

苦情メールとして登録された（本サービスから送信されたメールが苦情メールとして登録されている）メール通知を行った場合、即時※1に、お客様に割り当てた専用の送信元のメールアドレス（From）を無効化します。

無効化されたことにより、すべてのメール通知は受付されますが、通知の結果はエラーとなります。不正な宛先への通知，苦情メールとして登録された通知は行わないでください。

※1：1回でも苦情メールとして登録されたメール通知を実行した場合を示します。回数の猶予なく、即時にお客様に割り当てた専用の送信元のメールアドレス（From）が無効化されます。

不正な宛先へのメール通知の例)

- テストのため、架空のメールアドレスへメールを送信する
- ユーザ定義でメールアドレスの登録を誤り、結果的に不正な宛先へメールを送信してしまった場合

苦情メールの例)

- 本サービスから送信されたメールをプロバイダー等に苦情メールとして報告すること

お客様に割り当てた専用の送信元のメールアドレス（From）が無効化された場合には、メール送信機能の無効化を解除したい旨をサポートサービスへご連絡ください。本サービスで解除の作業を実施します。解除の作業が完了するまでは、すべてのメール通知は受付されますが、通知の結果はエラーとなります。

(2) 送信元メールアドレス（From）に関して

お客様に割り当てた専用の送信元のメールアドレス（From）は、任意のメールアドレスへの変更はできません。

また、受信を許可するメールアドレスの設定が必要な場合、お客様に割り当てた専用の送信元のメールアドレス（From）の受信許可の設定をお願いいたします。

送信元のメールアドレス（From）は、送信専用のためメールを受信することはできません。

4. 運用上の留意事項

(3) 1日または短時間に多くのメールを送信する

メール送信機能で、メール通知を行う場合、1日または短時間に多くのメールを送信することはできません。本サービスは、多くのユーザと資源を共有しておりますので、ご理解をお願いいたします。

5.Web画面

この章では、TELstaff クラウド型通報管理サービスの Web 画面について説明します。

- 5.1 サインイン画面
- 5.2 メイン画面
- 5.3 パスワード変更画面
- 5.4 ライセンス表示画面
- 5.5 アカウント設定画面
- 5.6 電話通知利用情報画面
- 5.7 大量発信の集約、間引き画面
- 5.8 メールサーバ登録画面
- 5.9 Twilioプロフィール一覧
- 5.10 Twilioプロフィール画面
- 5.11 LINE WORKSプロフィール一覧
- 5.12 LINE WORKSプロフィール画面
- 5.13 Slackプロフィール一覧
- 5.14 Slackプロフィール画面
- 5.15 Microsoft Teamsプロフィール一覧
- 5.16 Microsoft Teamsプロフィール画面
- 5.17 外部API連携プロフィール一覧
- 5.18 外部API連携プロフィール画面
- 5.19 ユーザー一覧
- 5.20 ユーザー定義画面
- 5.21 連絡網一覧
- 5.22 連絡網定義画面
- 5.23 カレンダーダイアログ

5. Web 画面

5.24 スケジュールダイアログ

5.25 受信メール連携一覧

5.26 受信メール連携ルール画面

5.27 発信履歴レポート画面

5.1 サインイン画面

サインインする手順を次に示します。

1. Web ブラウザを起動し、通報管理サービスの URL にアクセスします。

指定例) `https://xxxxxx.xxxxxx.xx.xx/`

「https」で始まり、最後に「/」を付与します。

※表示される言語を指定する場合、通報管理サービスの URL にクエリ「lang」を設定してください。クエリ「lang」の設定がない場合、日本語で表示されます。

指定例)

日本語表示 `https://xxxxxx.xxxxxx.xx.xx/?lang=ja`

クエリ「lang」に ja を設定します。省略時は日本語で表示されます。

英語表示 `https://xxxxxx.xxxxxx.xx.xx/?lang=en`

クエリ「lang」に en を設定します。

2. サインイン画面で、[アカウント ID] [パスワード] を入力したあと、[SIGN IN] ボタンをクリックします。

図 5.1-1 サインイン画面

- 通報管理サービスの URL、アカウント ID、パスワード（仮パスワード）は、本サービス申し込み時にご連絡しています。
- 入力が必要な項目に関しては、「項目名*」（項目名の最後にアスタリスクを付与）で表示しています。

5. Web 画面

(1) 「Account」テキストフィールド（必須項目）

本サービスの申し込み時に払い出された、アカウント ID を入力します。アカウント ID の大文字・小文字は区別しません。

(2) 「Password」テキストフィールド（必須項目）

アカウント ID のパスワードを入力します。テキストボックス右端の [パスワード表示] ボタンで「伏字」「表示」の切り替えが可能です。

(3) 「SIGN IN」ボタン

サインインを実行します。パスワードを数回（回数は不定）連続で誤ったとき、一時的なロックアウトが開始されます。一時的なロックアウトが開始された後は、パスワードを初回よりも少ない回数（回数は不定）誤るだけで、再び一時的なロックアウトが行われます。

最初の一時的なロックアウト時間は 1 秒から始まり、試行が失敗するたびに時間が倍増され、最終的に約 15 分まで一時的なロックアウトが行われます。一時的なロックアウト中の試行は無視されます。一時的なロックアウト解除後、次の試行に失敗すると新しい一時的なロックアウトが前回の 2 倍の時間で実施されます。

試行せずに 15 分間待つと、一時的なロックアウトが解除されます。

5.2 メイン画面

サインインに成功すると、以下のメイン画面を表示します。

画面右上アカウントアイコンをクリックすると表示される「アカウントメニュー」、画面左側の「サイドバー」、画面中央の「ページ内容」で構成されています。

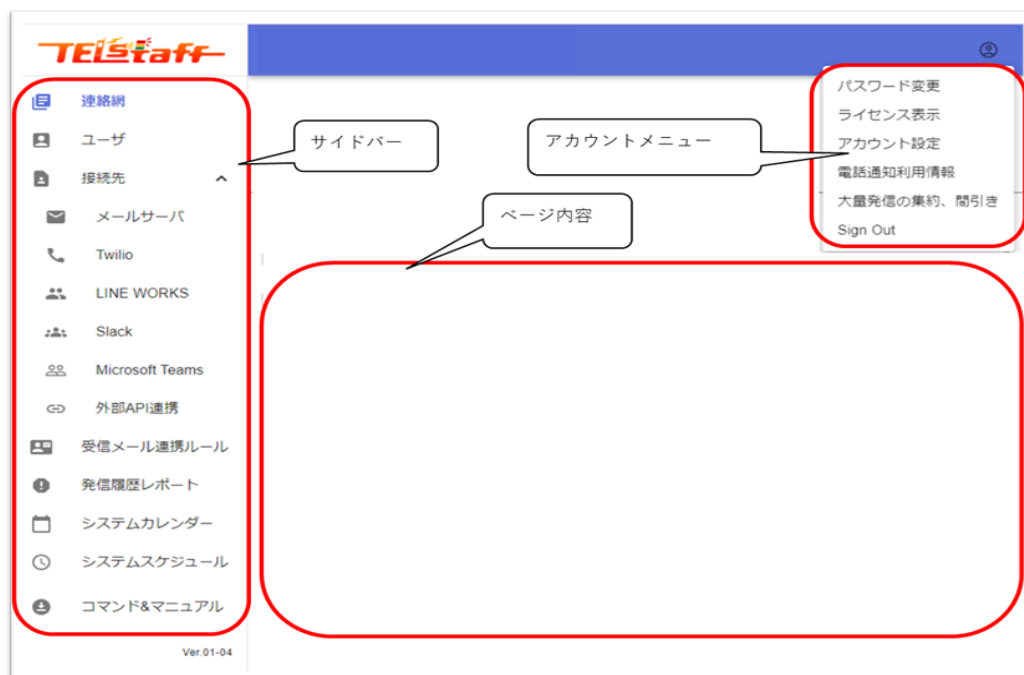


図 5.2-1 メイン画面

- 中央の「ページ内容」部分に各画面の内容を表示します。初期表示は連絡網一覧を表示します。任意の画面を初期表示することはできません。
- Web ブラウザが持つ再読み込み機能 (F5 キーなど) には対応していません。 本サービスのすべての Web 画面・ダイアログともに対応していませんので、使用しないでください。
- Web ブラウザが持つページの移動機能 (「前に戻る」など) には対応していません。 本サービスのすべての Web 画面・ダイアログともに対応していませんので、使用しないでください。
- 本サービスのすべての Web 画面・ダイアログの入力項目には、スクリプトタグは入力できません。 入力した場合、「SAVE」ボタンの押下時にエラーとなります。

アカウントメニュー (画面右上アカウントアイコンをクリックで表示)

(1) 「パスワード変更」

パスワード変更画面を表示します。

(2) 「ライセンス表示」

ライセンス表示画面を表示します。

5. Web 画面

- (3) 「アカウント設定」
アカウント設定画面を表示します。
- (4) 「電話通知利用情報」
電話通知利用情報画面を表示します。電話通知プラン契約が無い場合、もしくは契約期間外の場合は表示されません。
- (5) 「大量発信の集約、間引き」
大量発信の集約、間引き画面を表示します。
- (6) 「Sign Out」
サインアウトし、サインイン画面に戻ります。

サイドバー（画面左側メニュー）

- (7) 「連絡網」
連絡網一覧を表示します。
- (8) 「ユーザ」
ユーザー一覧を表示します。
- (9) 「接続先」
各外部通信サービスの接続先情報を登録するサブメニューを表示します。
 - (a) 「メールサーバ」
メールサーバ登録画面を表示します。
 - (b) 「Twilio」
Twilio プロファイル一覧を表示します。
 - (c) 「LINE WORKS」
LINE WORKS プロファイル一覧を表示します。
 - (d) 「Slack」
Slack プロファイル一覧を表示します。
 - (e) 「Microsoft Teams」
Microsoft Teams プロファイル一覧を表示します。
 - (f) 「外部 API 連携」
外部 API 連携プロファイル一覧を表示します。
- (10) 「受信メール連携ルール」
受信メール連携一覧を表示します。
- (11) 「発信履歴レポート」
発信履歴レポート画面を表示します。
- (12) 「システムカレンダー」
システム共通のカレンダーダイアログを表示します。
- (13) 「システムスケジュール」
システム共通のスケジュールダイアログを表示します。

(14) 「コマンド&マニュアル」

押下すると、コマンドやマニュアル等を圧縮した zip ファイルをダウンロードします。

※「コマンド&マニュアル」を押下すると、別の画面へ遷移することなく zip ファイルのダウンロードが開始します。

5.3 パスワード変更画面

パスワード変更画面は、画面右上アカウントアイコンをクリックすると表示されるアカウントメニュー [パスワード変更] のクリックで表示されます。



図 5.3-1 パスワード変更画面

- パスワードは任意のタイミングで変更が可能です。
 - 入力が必須の項目に関しては、「項目名*」（項目名の最後にアスタリスクを付与）で表示しています。
- (1) 「現在のパスワード」テキストフィールド（必須項目）
現在のパスワードを指定します。テキストボックス右端の [パスワード表示] ボタンで「伏字」「表示」の切り替えが可能です。
 - (2) 「新規パスワード」テキストフィールド（必須項目）
新しいパスワードを 8 文字以上、128 文字以内で指定します。パスワードには、制御文字を除く印字可能な ASCII 文字、UNICODE 文字、半角空白が使用可能です。テキストボックス右端の [パスワード表示] ボタンで「伏字」「表示」の切り替えが可能です。
 - (3) 「新規パスワードの確認」テキストフィールド（必須項目）
新規パスワードと同じ文字列を指定します。テキストボックス右端の [パスワード表示] ボタンで「伏字」「表示」の切り替えが可能です。
 - (4) 「CANCEL」ボタン
すべての変更内容を破棄し、連絡網一覧へ戻ります。
 - (5) 「SAVE」ボタン
変更内容を保存し、連絡網一覧へ戻ります。

5.4 ライセンス表示画面

ライセンス表示画面は、画面右上アカウントアイコンをクリックすると表示されるアカウントメニュー [ライセンス表示] のクリックで表示されます。契約済のライセンス情報、有効期限、ユーザ数の情報を表示します。

ライセンス情報	
有効期限	2024年05月31日
現在のユーザ数	4
最大ユーザ数	250
有効ライセンス	基本プラン 追加100ユーザプラン 追加100ユーザプラン

電話通知オプション情報	
開始日	2023年06月01日
終了日	2024年05月31日
上限回数	3500
有効ライセンス	電話通知オプション 1 電話通知追加オプション 2

図 5.4-1 ライセンス表示画面（表示例）

- (1) 「有効期限」
本サービスの契約期間の満了日を表示します。本サービスの契約更新の手続きを行った場合には、手続きの完了後に有効期限が更新されます。
- (2) 「現在のユーザ数」
ユーザ情報に登録されているユーザ数を表示します。
- (3) 「最大ユーザ数」
契約済みのライセンスで登録可能なユーザ数を表示します。
- (4) 「有効ライセンス」（ライセンス情報）
現在契約済みのライセンス情報を表示します。

5. Web 画面

(5) 「開始日」

設定されているタイムゾーンでの現在時刻における、有効な電話通知プランのライセンスの契約開始年月を表示します。

(6) 「終了日」

設定されているタイムゾーンでの現在時刻における、有効な電話通知プランのライセンスの契約期間の満了日を表示します。

(7) 「上限回数」

設定されているタイムゾーンでの現在時刻における、有効な電話通知プランのライセンスの上限回数を全て合わせた回数を表示します。

(8) 「有効ライセンス」（電話通知プラン）

登録済みの電話通知プランにおけるライセンス情報を表示します。

5.5 アカウント設定画面

アカウント設定画面は、画面右上アカウントアイコンをクリックすると表示されるアカウントメニュー [アカウント設定] のクリックで表示されます。ログの言語設定、タイムゾーン設定の情報を表示します。

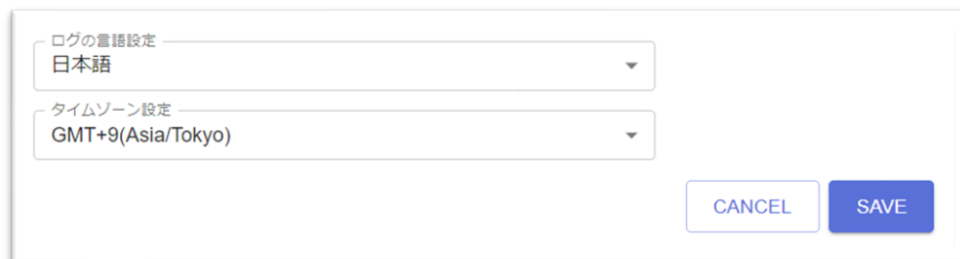
The image shows a web interface for account settings. It features two dropdown menus. The first is labeled 'ログの言語設定' (Log Language Setting) and has '日本語' (Japanese) selected. The second is labeled 'タイムゾーン設定' (Time Zone Setting) and has 'GMT+9(Asia/Tokyo)' selected. At the bottom right, there are two buttons: 'CANCEL' and 'SAVE'.

図 5.5-1 アカウント設定画面（表示例）

- (1) 「ログの言語設定」
本サービスが出力するログの言語設定を「日本語」「English」から選択します。
- (2) 「タイムゾーン設定」
タイムゾーン設定を選択します。この設定は本サービスのタイムゾーン設定（ログ、スケジュール、カレンダー、メールの送信日時、レポート）に適用されます。
- (3) 「CANCEL」ボタン
すべての変更内容を破棄し、連絡網一覧へ戻ります。
- (4) 「SAVE」ボタン
変更内容を保存し、連絡網一覧へ戻ります。

5.6 電話通知利用情報画面

電話通知利用情報画面は、画面右上アカウントアイコンをクリックすると表示されるアカウントメニュー [電話通知利用情報] のクリックで表示されます。対象範囲における期間内合計発信回数、発信上限値、月ごとの発信回数を表示します。

※電話通知プラン契約が無い場合、もしくは契約期間外の場合は表示されません。



表示範囲	
2023/06/01~2024/05/31	
期間内合計発信回数	上限回数
120	3500
年月(YYYY/MM)	発信回数
2023/06	12
2023/07	0
2023/08	24
2023/09	0
2023/10	84
2023/11	0
2023/12	0
2024/01	0
2024/02	0
2024/03	0
2024/04	0
2024/05	0

図 5.6-1 電話通知利用情報画面

- (1) 「表示範囲」
電話通知利用情報を表示する範囲を選択します。
- (2) 「期間内合計発信回数表」
指定した期間内で発信された回数の合計値と、期間内での発信上限値を表示します。
- (3) 「発信回数表」
指定した期間内で発信された回数の月ごとの値を表形式で表示します。期間については、1年固定ではなく、指定した期間内すべてを表示します。

5.7 大量発信の集約、間引き画面

大量発信の集約、間引き画面は、画面右上アカウントアイコンをクリックすると表示されるアカウントメニュー [大量発信の集約、間引き] のクリックで表示されます。集約・間引きを実行するか、集約・間引きを実行する場合に同一内容と判断する条件を設定します。



図 5.7-1 大量発信の集約、間引き画面

- 集約・間引きされたことを検証する場合、お客様自身で通知文を保存していただくことが必要となります。

(1) 「集約・間引き設定」ドロップダウンリスト

大量発信の集約、間引きに対する設定を行います。同一の通知を集約する場合は「同一通知を集約する」を、同一の通知を間引きする場合は「同一通知を間引きする」を、集約も間引きも行わない場合は「同一通知を集約・間引きしない」をそれぞれ選択してください。

(2) 「待機時間(秒)」 ((1)で「同一通知を集約する」、または「同一通知を間引きする」を選択した場合必須項目)

集約、または間引きの対象とする通知の時間を 10～600 秒の中から設定します。(1)で「同一通知を集約する」を選択した場合は「集約待機時間」、 「同一通知を間引きする」を選択した場合は「間引き時間」を設定します。

(3) 「通知文の比較方法」

集約、または間引きを実行する場合の比較方法を設定します。

「完全に一致したものを対象とする」を選択した場合、通知文の内容が完全に同一の場合のみ集約、または間引きの対象とします。

「以下のケースは無視する」を選択した場合、集約、または間引きの対象としない条件を「大文字・小文字の区別は行わない」「日時の比較は行わない」から設定することができます。

「大文字・小文字の区別は行わない」をチェックした場合、同一の内容かどうか比較する際に大文字と小文字の違いを無視します。半角英文字、全角英文字が対象となります。

5. Web 画面

「日時の比較は行わない」をチェックした場合、同一の内容かどうか比較する際に日時のパターン文字の違いを無視します。対象となる日時のパターンを以下に示します。

- 日付

yyyymmdd

yyyy-mm-dd

yyyy/mm/dd

yyyy 年 mm 月 dd 日

- 時刻

HH:MM:SS[.sss]

HH 時 MM 分 SS 秒[.sss]

yyyy は西暦の年、mm は月、dd は日、HH は時、MM は分、SS は秒、sss はミリ秒をそれぞれ意味します。[.sss]の箇所は、存在しなくとも時刻パターンとして認識されます。

5.8 メールサーバ登録画面

サイドバーの「接続先」から「メールサーバ」をクリックしたとき、メールサーバの情報を登録するメールサーバ登録画面を表示します。

図 5.8-1 メールサーバ登録画面

- メール通知を行う場合、登録は必須です。
- メールサーバの情報は複数個の登録はできません。1つのメールサーバの情報を登録します。
- 入力が必要な項目に関しては、「項目名*」（項目名の最後にアスタリスクを付与）で表示しています。

(1) 「サービスのメールサーバを使用する」スイッチ（必須項目）

お客様が準備したメールサーバを使用する場合には「OFF（使用しない）」を選択します。本サービスが提供するメール送信機能を使用してメールを送信する場合には「ON（使用する）」を選択します。初期値は「OFF（使用しない）」です。

あらかじめ、本サービス申し込み時、または、変更申し込み時に、メール送信機能のご利用を申請されたお客様に限り「ON（使用する）」を選択してください。

メール送信機能のご利用を申請されていないお客様が「ON（使用する）」を選択し、メール通知を実行した場合、メール通知は受付されますが、通知の結果はエラーとなります。

「ON（使用する）」を選択した場合、(7)「送信者名」のみが入力可能です。

5. Web 画面

- (2) 「サーバ名・IPアドレス」テキストフィールド ((1)をOFFにした場合, 必須項目)
使用するメールサーバを 512 文字以内で指定します。指定するメールサーバはインターネットからアクセス可能である必要があります。
- (3) 「プロトコル」セレクトフィールド ((1)をOFFにした場合, 必須項目)
通信プロトコルを「SMTP」「SMTPS」「SMTP+STARTTLS」から選択します。これ以外のプロトコルには対応していません。初期値は「SMTP」です。
- (4) 「サーバ証明書を検証する」スイッチ ((1)をOFFにした場合, 必須項目)
通信プロトコルに「SMTPS」「SMTP+STARTTLS」を選択したときでメールサーバから提示されるサーバ証明書の検証をおこなうかどうかを指定します。初期値は「OFF (検証を行わない)」です。「SMTP」を選択した場合には本項目の設定は無視されます。
サーバ証明書は, 証明機関 (認証局) で署名された証明書である必要があります。自己証明書は使用できません。自己証明書を使用するインターネットからアクセス可能なメールサーバを使用する場合には, 本スイッチを「OFF (検証を行わない)」と設定してください。
- (5) 「ポート番号」テキストフィールド ((1)をOFFにした場合, 必須項目)
メールサーバへの通信ポート番号を 1~65535 の範囲内で指定します。半角数字で入力してください。初期値は 25 です。
- (6) 「送信元メールアドレス」テキストフィールド ((1)をOFFにした場合, 必須項目)
本サービスでメールを発信するときに使用する, 発信者情報 (From) を 512 文字以内で指定します。
- (7) 「送信者名」テキストフィールド
本サービスでメールを発信するときに使用する, 送信者名 (From) を 64 文字以内で指定します。
- (8) 「メール送信に認証が必要」スイッチ ((1)をOFFにした場合, 必須項目)
メール送信に SMTP-AUTH (PLAIN, LOGIN, CRAM-MD5) の認証が必要なときに「ON」にします。初期値は「OFF (認証を行わない)」です。
- (9) 「アカウント名」テキストフィールド ((1)をOFF, (8)をONにした場合, 必須項目)
メール送信に認証が必要なとき, 認証用のアカウント名を 512 文字以内で指定します。
- (10) 「パスワード」テキストフィールド ((1)をOFF, (8)をONにした場合, 必須項目)
メール送信に認証が必要なとき, 認証用アカウントのパスワードを 512 文字以内で指定します。テキストボックス右端の [パスワード表示] ボタンで「伏字」「表示」の切り替えが可能です。

(11) 「CANCEL」 ボタン

すべての変更内容を破棄し，連絡網一覧に戻ります。

(12) 「SAVE」 ボタン

メールサーバの登録を保存し，連絡網一覧に戻ります。

5.9 Twilioプロフィール一覧

サイドバーの「接続先」から「Twilio」をクリックしたとき、登録済み Twilio プロファイルの一覧を表示します。電話通知プランの契約有無、契約期間によらず、プロフィール一覧の追加及び削除を行うことが可能です。



図 5.9-1 Twilioプロフィール一覧（表示例）

- 電話通知プランを契約していない場合、Twilio への通知（電話通知、SMS 通知）を行う際は、1つ以上の Twilio プロファイルの登録が必要です。また、複数の Twilio プロファイルの登録も可能です。
- 登録可能なプロフィール数は 100 件です。
- 登録された Twilio プロファイルは、ユーザ定義や連絡網定義で通知先の情報として参照しますので、ユーザ定義や連絡網定義の前に Twilio プロファイルの登録を行ってください。

(1) 「プロフィール一覧」リスト

登録済み Twilio プロファイル一覧を示します。プロフィール名をクリックすると Twilio プロファイル画面を表示します。

プロフィール名の右側の [ゴミ箱] アイコンボタンでその行のプロファイルを個別に削除できます。削除したプロフィールがユーザ情報や各連絡網で使用されている場合、該当する Twilio への通知は失敗します。

(2) 「プラス」アイコンボタン

Twilio プロファイルを新規登録する場合に使用します。上部の [プラス] アイコンボタンをクリックすると新規で Twilio プロファイル画面を表示します。

(3) 「ゴミ箱」アイコンボタン

上部の [ゴミ箱] アイコンボタンをクリックするとプロフィール一覧リストでチェックした Twilio プロファイルを一括で削除します。

5.10 Twilioプロフィール画面

Twilio プロファイル画面では、電話通知、SMS 通知で使用する Twilio 側の情報を登録します。電話通知プランの契約有無、契約期間によらず、プロフィールの追加及び編集を行うことが可能です。

図 5.10-1 Twilioプロフィール画面

- 入力が必須の項目に関しては、「項目名*」（項目名の最後にアスタリスクを付与）で表示しています。

(1) 「プロフィール名」テキストフィールド（必須項目）

新規のプロファイルを登録する場合、プロフィール名を 100 文字以内で指定します。既存のプロファイルを表示したときは変更できません。プロフィール名には「.」（ドット）で始まる文字列は指定しないでください。プロフィール名には以下に示す文字は使用できません。

” ¥ / * ? [] = < > ! ' \$ % & , ; : # + 半角空白文字 ASCII制御文字(0x00~0x1f, 0x7f) サロゲートペア文字

(2) 「AccountSid」テキストフィールド（必須項目）

Twilio から取得した AccountSid を 64 文字以内で指定します。Twilio からの情報取得に関しては「3.1(1)(b) Twilio から必要な情報を取得する」を参照ください。

(3) 「AccessToken」テキストフィールド（必須項目）

Twilio から取得した AccessToken を 64 文字以内で指定します。テキストボックス右端

5. Web 画面

の [パスワード表示] ボタンで「伏字」「表示」の切り替えが可能です。Twilio からの情報取得に関しては「3.1(1)(b) Twilio から必要な情報を取得する」を参照ください。

(4) 「電話発信元電話番号」テキストフィールド

Twilio で購入した電話発信元電話番号を国際電話番号形式 (E.164) で指定します。

E.164 電話番号形式の例) 03-XXX-YYYY の場合 +813XXXYYYY

本テキストフィールドは「SMS 発信元電話番号」を指定した場合 (電話通知を行わず、SMS 通知のみを行う場合) には省略可能です。Twilio からの情報取得に関しては「3.1(1)(b) Twilio から必要な情報を取得する」を参照ください。

(5) 「SMS発信元電話番号」テキストフィールド

Twilio で購入した SMS 発信元電話番号を国際電話番号形式 (E.164) で指定します。

E.164 電話番号形式の例) 03-XXX-YYYY の場合 +813XXXYYYY

本テキストフィールドは「電話発信元電話番号」を指定した場合 (SMS 通知を行わず、電話通知のみを行う場合) には省略可能です。Twilio からの情報取得に関しては「3.1(1)(b) Twilio から必要な情報を取得する」を参照ください。

(6) 「電話フローSID」テキストフィールド

Twilio に登録した本システム用の Twilio Studio フローSID を 64 文字以内で指定します。本テキストフィールドは「電話発信元電話番号」を指定した場合、必須です。Twilio からの情報取得に関しては「3.1(1)(b) Twilio から必要な情報を取得する」を参照ください。

(7) 「CANCEL」ボタン

すべての変更内容を破棄し、Twilio プロファイル一覧に戻ります。

(8) 「SAVE」ボタン

Twilio プロファイルの情報を登録し、Twilio プロファイル一覧に戻ります。

5.11 LINE WORKSプロフィール一覧

サイドバーの「接続先」から「LINE WORKS」をクリックしたとき、登録済み LINE WORKS プロファイルの一覧を表示します。



図 5.11-1 LINE WORKSプロフィール一覧（表示例）

- LINE WORKS への通知を行う場合には、1つ以上の LINE WORKS プロファイルの登録が必要です。また、複数の LINE WORKS プロファイルの登録も可能です。
- 登録可能なプロフィール数は 100 件です。
- 登録された LINE WORKS プロファイルは、ユーザ定義や連絡網定義で通知先の情報として参照しますので、ユーザ定義や連絡網定義の前に LINE WORKS プロファイルの登録を行ってください。

(1) 「プロフィール一覧」リスト

登録済み LINE WORKS プロファイル一覧を示します。プロフィール名をクリックすると LINE WORKS プロファイル画面を表示します。

プロフィール名の右側の [ゴミ箱] アイコンボタンでその行のプロファイルを個別に削除できます。削除したプロフィールがユーザ情報や各連絡網で使用されている場合、該当する LINE WORKS への通知は失敗します。

(2) 「プラス」アイコンボタン

LINE WORKS プロファイルを新規登録する場合に使用します。上部の [プラス] アイコンボタンをクリックすると新規で LINE WORKS プロファイル画面を表示します。

(3) 「ゴミ箱」アイコンボタン

上部の [ゴミ箱] アイコンボタンをクリックするとプロフィール一覧リストでチェックした LINE WORKS プロファイルを一括で削除します。

5.12 LINE WORKS プロファイル画面

LINE WORKS プロファイル画面では、LINE WORKS への通知で使用する LINE WORKS 側の情報を登録します。

The screenshot shows a web form for configuring a LINE WORKS profile for API version 1.0. The form is enclosed in a light gray border and contains the following elements from top to bottom: a dropdown menu for 'APIのバージョン' (API Version) set to '1.0'; a text input field for 'プロフィール名*' (Profile Name*); a text input field for 'Bot No*'; a text input field for 'Api ID*'; a text input field for 'Server Consumer Key*'; a text input field for 'Server List ID*'; a section for 'Server List Auth Key*' containing a file selection button labeled 'ファイルを選択' (Select File) with the text '選択されていません' (None selected) next to it, and a text input field for 'Server List Auth Keyの内容' (Server List Auth Key content); and finally, two buttons at the bottom right: 'CANCEL' and 'SAVE'.

図 5.12-1 LINE WORKS プロファイル画面 (APIのバージョン1.0)

The screenshot shows a web form for configuring a LINE WORKS profile for API version 2.0. The form is enclosed in a light gray border and contains the following elements from top to bottom: a dropdown menu for 'APIのバージョン' (API Version) set to '2.0'; a text input field for 'プロフィール名*' (Profile Name*); a text input field for 'Bot No*'; a text input field for 'Client ID*'; a text input field for 'Client Secret*'; a text input field for 'Service Account*'; a section for 'Private Key*' containing a file selection button labeled 'ファイルを選択' (Select File) with the text '選択されていません' (None selected) next to it, and a text input field for 'Private Keyの内容' (Private Key content); and finally, two buttons at the bottom right: 'CANCEL' and 'SAVE'.

図 5.12-2 LINE WORKS プロファイル画面 (APIのバージョン2.0)

- 入力が必要の項目に関しては、「項目名*」（項目名の最後にアスタリスクを付与）で表示しています。

(1) 「APIのバージョン」

LINE WORKS のAPIで使用するバージョンについて「1.0」か「2.0」から選択します。「1.0」を選択した場合図 5.12-1 LINE WORKS プロファイル画面（API のバージョン 1.0）の項目、「2.0」を選択した場合図 5.12-2 LINE WORKS プロファイル画面（API のバージョン 2.0）の項目が表示されます。

(2) 「プロファイル名」テキストフィールド（必須項目）

新規のプロファイルを登録する場合、プロファイル名を 100 文字以内で指定します。既存のプロファイルを表示したときは変更できません。プロファイル名には「.」（ドット）で始まる文字列は指定しないでください。プロファイル名には以下に示す文字は使用できません。

“ ¥ / * ? [] = < > ! ' \$ % & , ; : # + 半角空白文字 ASCII制御文字 (0x00~0x1f, 0x7f) サロゲートペア文字

(3) 「Bot No」テキストフィールド（必須項目）

LINE WORKS から取得した Bot No を 1~2147483647 の範囲の数値で指定します。半角数字で入力してください。LINE WORKS からの情報取得に関しては「3.1(2)(b) LINE WORKS から必要な情報を取得する」を参照ください。

(4) 「Api ID」テキストフィールド（必須項目）

LINE WORKS から取得した Api ID を 32 文字以内で指定します。LINE WORKS からの情報取得に関しては「3.1(2)(b) LINE WORKS から必要な情報を取得する」を参照ください。

(5) 「Server Consumer Key」テキストフィールド（必須項目）

LINE WORKS から取得した Server Consumer Key を 64 文字以内で指定します。LINE WORKS からの情報取得に関しては「3.1(2)(b) LINE WORKS から必要な情報を取得する」を参照ください。

(6) 「Server List ID」テキストフィールド（必須項目）

LINE WORKS から取得した Server List ID を 64 文字以内で指定します。LINE WORKS からの情報取得に関しては「3.1(2)(b) LINE WORKS から必要な情報を取得する」を参照ください。

(7) 「Server List Auth Key」ファイル選択フィールド（必須項目）

LINE WORKS からあらかじめダウンロードしておいた Server List Auth Key ファイル（ID 登録タイプの認証キー）を「ファイルを選択」ボタンを押下し、ファイル選択のダイアログから選択し指定します。LINE WORKS からの情報取得に関しては「3.1(2)(b) LINE WORKS から必要な情報を取得する」を参照ください。

5. Web 画面

- (8) 「Server List Auth Keyの内容」
選択された Server List Auth Key ファイルの内容を表示します。

- (9) 「Client ID」テキストフィールド（必須項目）
LINE WORKS から取得した Client ID を 32 文字以内で指定します。LINE WORKS からの情報取得に関しては「3.1(2)(b) LINE WORKS から必要な情報を取得する」を参照ください。

- (10) 「Client Secret」テキストフィールド（必須項目）
LINE WORKS から取得した Client Secret を 32 文字以内で指定します。LINE WORKS からの情報取得に関しては「3.1(2)(b) LINE WORKS から必要な情報を取得する」を参照ください。

- (11) 「Service Account」テキストフィールド（必須項目）
LINE WORKS から取得した Service Account を 64 文字以内で指定します。LINE WORKS からの情報取得に関しては「3.1(2)(b) LINE WORKS から必要な情報を取得する」を参照ください。

- (12) 「Private Key」ファイル選択フィールド（必須項目）
LINE WORKS で登録したアプリの Private Key ファイルを「ファイルを選択」ボタンを押下し、ファイル選択のダイアログから選択し指定します。LINE WORKS からの情報取得に関しては「3.1(2)(b) LINE WORKS から必要な情報を取得する」を参照ください。

- (13) 「Private Keyの内容」
選択された Private Key ファイルの内容を表示します。

- (14) 「CANCEL」ボタン
すべての変更内容を破棄し、LINE WORKS プロファイル一覧に戻ります。

- (15) 「SAVE」ボタン
LINE WORKS プロファイルの情報を登録し、LINE WORKS プロファイル一覧に戻ります。

5.13 Slackプロフィール一覧

サイドバーの「接続先」から「Slack」をクリックしたとき、登録済み Slack プロファイルの一覧を表示します。



図 5.13-1 Slackプロフィール一覧（表示例）

- Slack への通知を行う場合には、1つ以上の Slack プロファイルの登録が必要です。また、複数の Slack プロファイルの登録も可能です。
- 登録可能なプロフィール数は 100 件です。
- 登録された Slack プロファイルは、ユーザ定義や連絡網定義で通知先の情報として参照しますので、ユーザ定義や連絡網定義の前に Slack プロファイルの登録を行ってください。

(1) 「プロフィール一覧」リスト

登録済み Slack プロファイル一覧を示します。プロフィール名をクリックすると Slack プロファイル画面を表示します。

プロフィール名の右側の [ゴミ箱] アイコンボタンでその行のプロファイルを個別に削除できます。削除したプロフィールがユーザ情報や各連絡網で使用されている場合、該当する Slack への通知は失敗します。

(2) 「プラス」アイコンボタン

Slack プロファイルを新規登録する場合に使用します。上部の [プラス] アイコンボタンをクリックすると新規で Slack プロファイル画面を表示します。

(3) 「ゴミ箱」アイコンボタン

上部の [ゴミ箱] アイコンボタンをクリックするとプロフィール一覧リストでチェックした Slack プロファイルを一括で削除します。

5.14 Slackプロフィール画面

Slack プロフィール画面では、Slack への通知で使用する Slack 側の情報を登録します。

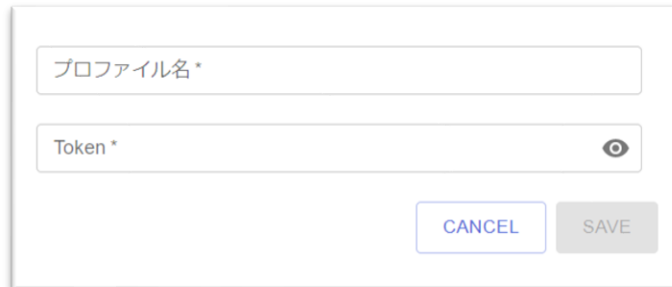


図 5.14-1 Slackプロフィール画面

- 入力が必須の項目に関しては、「項目名*」（項目名の最後にアスタリスクを付与）で表示しています。

(1) 「プロフィール名」テキストフィールド（必須項目）

新規のプロフィールを登録する場合、プロフィール名を 100 文字以内で指定します。既存のプロフィールを表示したときは変更できません。プロフィール名には「.」（ドット）で始まる文字列は指定しないでください。プロフィール名には以下に示す文字は使用できません。

“ ¥ / * ? [] = < > ! ' \$ % & , ; : # + 半角空白文字 ASCII制御文字(0x00~0x1f, 0x7f) サロゲートペア文字

(2) 「Token」テキストフィールド（必須項目）

Slack から取得した Token を 200 文字以内で指定します。テキストボックス右端の [パスワード表示] ボタンで「伏字」「表示」の切り替えが可能です。Slack からの情報取得に関しては「3.1(3)(b) Slack から必要な情報を取得する」を参照ください。

(3) 「CANCEL」ボタン

すべての変更内容を破棄し、Slack プロフィール一覧に戻ります。

(4) 「SAVE」ボタン

Slack プロファイルの情報を登録し、Slack プロファイル一覧に戻ります。

5.15 Microsoft Teams プロファイル一覧

サイドバーの「接続先」から「Microsoft Teams」をクリックしたとき、登録済み Microsoft Teams プロファイルの一覧を表示します。



図 5.15-1 Microsoft Teams プロファイル一覧（表示例）

- Microsoft Teams への通知を行う場合には、1つ以上の Microsoft Teams プロファイルの登録が必要です。また、複数の Microsoft Teams プロファイルの登録も可能です。
- 登録可能なプロフィール数は 100 件です。
- 登録された Microsoft Teams プロファイルは、ユーザ定義や連絡網定義で通知先の情報として参照しますので、ユーザ定義や連絡網定義の前に Microsoft Teams プロファイルの登録を行ってください。

(1) 「プロフィール一覧」リスト

登録済み Microsoft Teams プロファイル一覧を示します。プロフィール名をクリックすると Microsoft Teams プロファイル画面を表示します。

プロフィール名の右側の [ゴミ箱] アイコンボタンでその行のプロファイルを個別に削除できます。削除したプロフィールがユーザ情報や各連絡網で使用されている場合、該当する Microsoft Teams への通知は失敗します。

(2) 「プラス」アイコンボタン

Microsoft Teams プロファイルを新規登録する場合に使用します。上部の [プラス] アイコンボタンをクリックすると新規で Microsoft Teams プロファイル画面を表示します。

(3) 「ゴミ箱」アイコンボタン

上部の [ゴミ箱] アイコンボタンをクリックするとプロフィール一覧リストでチェックした Microsoft Teams プロファイルを一括で削除します。

5.16 Microsoft Teams プロファイル画面

Microsoft Teams プロファイル画面では、Microsoft Teams への通知で使用する Microsoft Teams 側の情報を登録します。

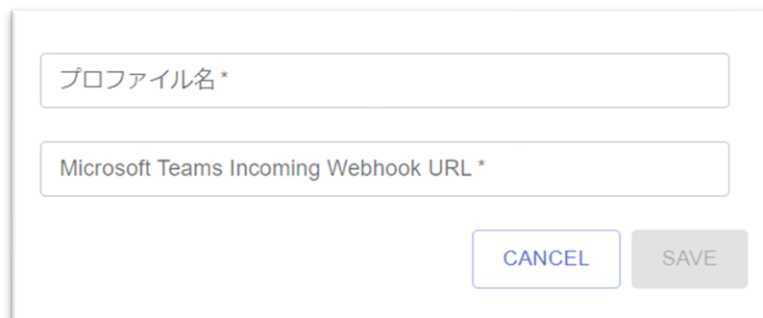


図 5.16-1 Microsoft Teams プロファイル画面

- 入力が必要の項目に関しては、「項目名*」（項目名の最後にアスタリスクを付与）で表示しています。

(1) 「プロフィール名」テキストフィールド（必須項目）

新規のプロファイルを登録する場合、プロフィール名を 100 文字以内で指定します。既存のプロファイルを表示したときは変更できません。プロフィール名には「.」（ドット）で始まる文字列は指定しないでください。プロフィール名には以下に示す文字は使用できません。

” ¥ / * ? [] = < > ! ' \$ % & , ; : # + 半角空白文字 ASCII制御文字(0x00~0x1f, 0x7f) サロゲートペア文字

(2) 「Microsoft Teams Incoming Webhook URL」テキストフィールド（必須項目）

Microsoft Teams から取得した Incoming Webhook URL を 1,000 文字以内で指定します。テキストボックス右端の [パスワード表示] ボタンで「伏字」「表示」の切り替えが可能です。Microsoft Teams からの情報取得に関しては「3.1(4)(a) Microsoft Teams から必要な情報を取得する」を参照ください。

(3) 「CANCEL」ボタン

すべての変更内容を破棄し、Microsoft Teams プロファイル一覧に戻ります。

(4) 「SAVE」ボタン

Microsoft Teams プロファイルの情報を登録し、Microsoft Teams プロファイル一覧に戻ります。

5.17 外部API連携プロファイル一覧

サイドバーの「接続先」から「外部 API 連携」をクリックしたとき、登録済み外部 API 連携プロファイルの一覧を表示します。



図 5.17-1 外部API連携プロファイル一覧（表示例）

- 外部 API への通知を行う場合には、1つ以上の外部 API 連携プロファイルの登録が必要です。また、複数の外部 API 連携プロファイルの登録も可能です。
- 登録可能なプロファイル数は 100 件です。
- 登録された外部 API 連携プロファイルは、連絡網定義で参照しますので、連絡網定義の前に外部 API 連携プロファイルの登録を行ってください。

(1) 「プロフィール一覧」リスト

登録済み外部 API 連携プロファイル一覧を示します。プロフィール名をクリックすると外部 API 連携プロファイル画面を表示します。

プロフィール名の右側の [ゴミ箱] アイコンボタンでその行のプロファイルを個別に削除できます。削除したプロファイルが各連絡網で使用されている場合、該当する外部 API 実行は失敗します。

(2) 「プラス」アイコンボタン

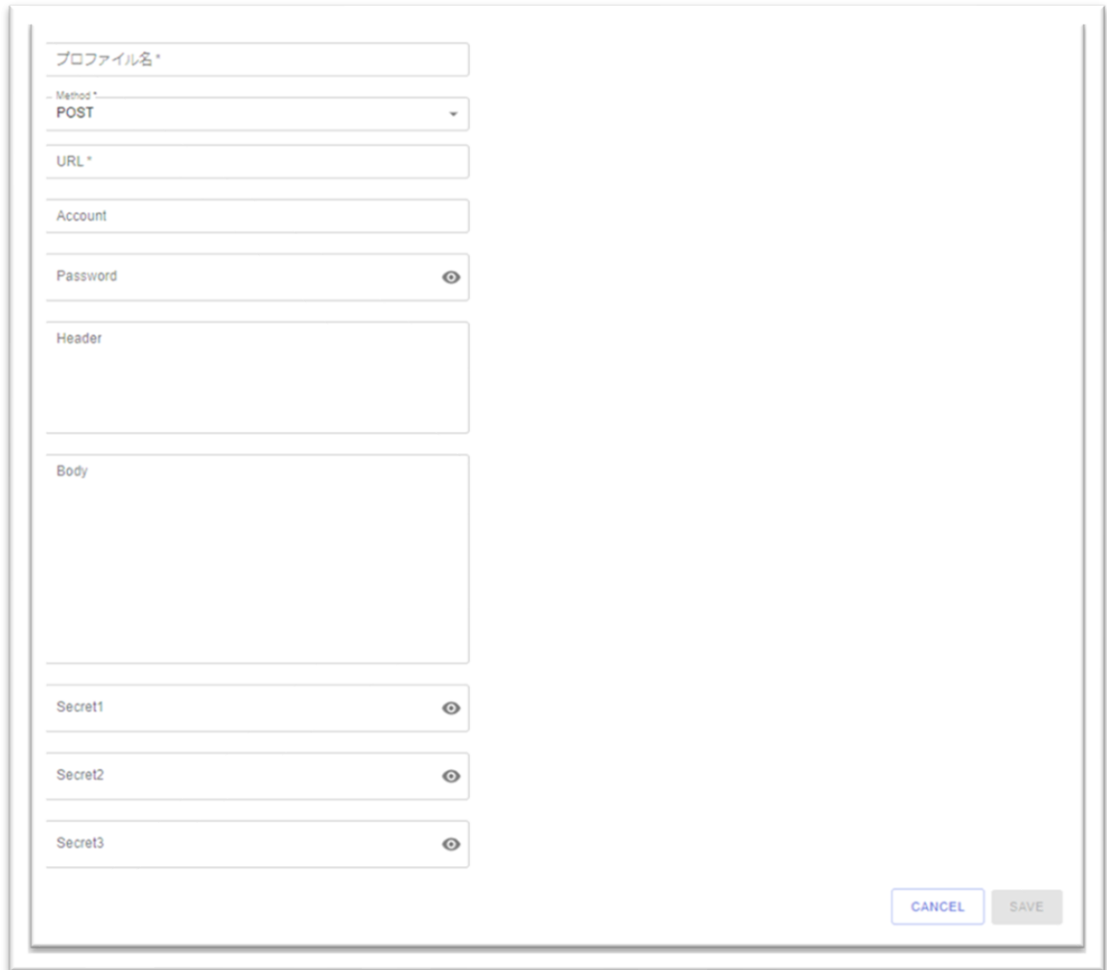
外部 API 連携プロファイルを新規登録する場合に使用します。上部の [プラス] アイコンボタンをクリックすると新規で外部 API 連携プロファイル画面を表示します。

(3) 「ゴミ箱」アイコンボタン

上部の [ゴミ箱] アイコンボタンをクリックするとプロフィール一覧リストでチェックした外部 API 連携プロファイルを一括で削除します。

5.18 外部API連携プロフィール画面

外部 API 連携プロフィール画面では、外部 API 実行時に使用する外部 API の情報を登録します。



The screenshot shows a web form for creating an external API connection profile. The form is enclosed in a light gray border. At the top, there is a text input field labeled 'プロフィール名*' (Profile Name*). Below it is a dropdown menu for 'Method' with 'POST' selected. The next field is 'URL*' (required). This is followed by 'Account', 'Password' (with an eye icon for visibility), 'Header', and 'Body' (both large text areas). At the bottom, there are three 'Secret' fields (Secret1, Secret2, Secret3), each with an eye icon. In the bottom right corner, there are two buttons: 'CANCEL' and 'SAVE'.

図 5.18-1 外部API連携プロフィール画面

- 入力が必須の項目に関しては、「項目名*」（項目名の最後にアスタリスクを付与）で表示しています。
- (1) 「プロフィール名」テキストフィールド（必須項目）
- 新規のプロファイルを登録する場合、プロフィール名を 100 文字以内で指定します。既存のプロファイルを表示したときは変更できません。プロフィール名には「.」（ドット）で始まる文字列は指定しないでください。プロフィール名には以下に示す文字は使用できません。
- “ ¥ / * ? [] = < > ! ' \$ % & , ; : # + 半角空白文字 ASCII制御文字 (0x00~0x1f, 0x7f) サロゲートペア文字
- (2) 「Method」ドロップダウンリスト（必須項目）
- 外部 API リクエスト送信時の HTTP リクエストメソッドを選択します。

(3) 「URL」 テキストフィールド (必須項目)

外部 API リクエスト送信先の URL を 1000 文字以内で指定します。URL は http または https から始まる文字列で指定します。また、クエリパラメータを指定可能です。

(4) 「Account」 テキストフィールド

外部 API 実行時に Basic 認証が必要な場合、アカウント名を 64 文字以内で指定します。

(5) 「Password」 テキストフィールド

外部 API 実行時に Basic 認証が必要な場合、パスワードを 256 文字以内で指定します。テキストボックス右端の [パスワード表示] ボタンで「伏字」「表示」の切り替えが可能です。

(6) 「Header」 テキストフィールド

外部 API 実行時に独自のヘッダーが必要な場合、「ヘッダー名: 値」の形式で 512 文字以内で指定します。値は「Secret1~3」テキストフィールド値を「{secretN}」変数として指定することが可能です。なお Content-Type ヘッダ、Accept ヘッダは無視されます。

ヘッダー指定の例)

```
Authorization: Beare {secret1}
X-External-API-Header: {secret2}
X-External-API-Header2: 値
```

(7) 「Body」 テキストフィールド

外部 API 実行時の Body の内容を JSON 形式、5000 文字以内で指定します。値は「Secret1~3」テキストフィールド値を「{secretN}」変数として指定することが可能です。別途連絡網発信コマンド、または連絡網発信 API で指定された変数を指定することが可能です。指定した文字列が JSON 書式に違反する場合、外部 API 実行時にエラーとなります。

(8) 「Secret1~3」 テキストフィールド

プロファイル上で隠したい文字列値を 1000 文字以内で指定します。ここで指定された値は Header テキストフィールド、Body テキストフィールドの変数として指定できます。変数名は「secretN」(secret の大文字・小文字は区別されます。N は 1~3) とします。テキストボックス右端の [パスワード表示] ボタンで「伏字」「表示」の切り替えが可能です。

値には以下に示す文字は使用できません。

```
" { } & ; :
```

(9) 「CANCEL」 ボタン

すべての変更内容を破棄し、外部 API 連携プロファイル一覧に戻ります。

5. Web 画面

(10) 「SAVE」 ボタン

外部 API 連携プロファイルの情報を登録し、外部 API 連携プロファイル一覧に戻ります。

表 5.18-1 外部API連携プロファイル設定例

プロファイル名	ApiProfile001
Method	POST
URL	http://xxx
Account	user001
Password	User001pass
Header ※1	Authorization: Beare {secret1}
Body ※2	{ "params": { "key": "{secret2}", "message": "post message", "reifoo": "{foo}", "reibar": "{bar}" } }
Secret1	secretKey1
Secret2	secretKey2abc

連絡網発信コマンドで指定されたファイルの設定値

```
foo=aaaaa  
bar=bbbbbb
```

※1：この場合、外部 API 実行時、Header に指定されている{secret1}は Secret1 設定値の secretKey1 に置き換わり実行されます。

※2：この場合、外部 API 実行時、Body に指定されている{secret2}は Secret2 設定値の secretKey2abc ， {foo}は連絡網発信コマンドで指定された aaaaa, {bar}は連絡網発信コマンドで指定された bbbbb に置き換わり実行されます。

5.19 ユーザー一覧

サイドバーから「ユーザ」をクリックしたとき、ユーザー一覧を表示します。

ユーザー一覧では、登録済みユーザー一覧を表示します。ユーザ定義の登録、更新、削除で使います。

なお、ユーザ定義の操作では、接続先情報（メールサーバ、Twilio プロファイル、LINE WORKS プロファイル、Slack プロファイル、Microsoft teams プロファイル）を参照しますので、ユーザ定義の操作を行う前に、接続先情報の登録を行ってください。

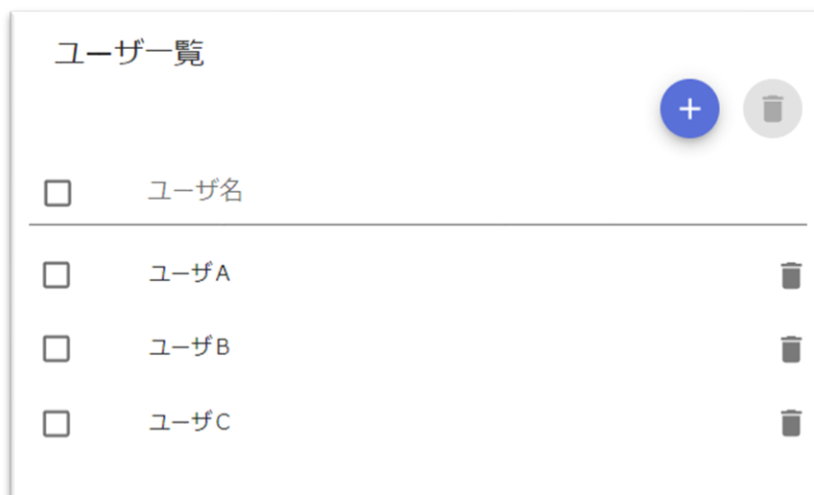


図 5.19-1 ユーザー一覧（表示例）

- 登録可能なユーザ数は本サービスを契約されたプランにより決まります。「5.4 ライセンス表示画面」を表示して確認が可能です。

(1) 「ユーザー一覧」リスト

登録済みユーザー一覧を示します。ユーザ名をクリックするとユーザ定義画面を表示します。

ユーザ名の右側の [ゴミ箱] アイコンボタンでその行のユーザを個別に削除できます。削除したユーザが連絡網で使用されている場合、そのユーザへの通知は失敗しますが、連絡網の通知は続行されます。

(2) 「プラス」アイコンボタン

ユーザを新規登録する場合に使用します。上部の [プラス] アイコンボタンをクリックすると新規でユーザ定義画面を表示します。

(3) 「ゴミ箱」アイコンボタン

上部の [ゴミ箱] アイコンボタンをクリックするとユーザー一覧リストでチェックした連絡網を一括で削除します。

5.20 ユーザ定義画面

ユーザ定義画面では、該当のユーザが使用可能な通知先の情報（電話番号、SMS 番号、メールアドレス、LINE WORKS のアカウント ID、Slack のメンバー名など）のユーザ情報を定義します。



The screenshot displays a form for defining user information. The fields are as follows:

- ユーザ名* (Required)
- 電話番号1
- 電話番号2
- 電話番号3
- 電話番号4
- 電話用 Twilio プロファイル (指定なし)
- SMS 電話番号
- SMS 用 Twilio プロファイル (指定なし)
- メールアドレス1
- メールアドレス2
- メールアドレス3
- メールアドレス4
- LINE WORKS メンバー ID
- LINE WORKS プロファイル (指定なし)
- Slack メンバー名
- Slack プロファイル (指定なし)

At the bottom, there are buttons for "カレンダー" (Calendar), "スケジュール" (Schedule), "CANCEL", and "SAVE".

図 5.20-1 ユーザ定義画面

- 入力が必要な項目に関しては、「項目名*」（項目名の最後にアスタリスクを付与）で表示しています。

(1) 「ユーザ名」テキストフィールド（必須項目）

新規のユーザを定義する場合、ユーザ名を 100 文字以内で指定します。既存のユーザを

表示したときは変更できません。ユーザ名には「.」（ドット）で始まる文字列は指定しないでください。ユーザ名には以下に示す文字は使用できません。

” ¥ / * ? [] = < > ! ' \$ % & , ; : # + 半角空白文字 ASCII制御文字(0x00~0x1f, 0x7f) サロゲートペア文字

(2) 「電話番号 1～4」テキストフィールド

電話通知用の電話番号を 1～4 で指定します。電話番号は E.164 電話番号形式、0ABJ 番号形式あるいは 0A0 番号形式の 16 文字以内で指定します。0ABJ 番号、0A0 番号で指定したときは登録後 E.164 番号形式で表示されます。

電話番号形式の例)

E.164 電話番号形式の例) 03-XXX-YYYY の場合 : +813XXXYYYY

0ABJ 番号形式の例) 03-XXX-YYYY の場合 : 03-XXX-YYYY

0A0 番号形式の例) 090-XXX-YYYY の場合 : 090-XXX-YYYY

電話通知の動作は、電話 1 へ発信し「確認」「終了」の操作が行われない場合には、電話 2 へ発信し「確認」「終了」操作が行われない場合には、電話 3 へ発信し「確認」「終了」操作が行われない場合には、電話 4 へ発信します。発信する電話の順序は、変えられません。

(3) 「電話用Twilioプロファイル」ドロップダウンリスト（電話番号を指定した場合、必須項目。ただし、電話通知プラン契約期間中は指定任意）

電話通知する際、どの Twilio プロファイルを使用して通知を実施するかを指定します。Twilio のプロファイルをリストから選択して指定します。リストにはあらかじめ「5.10 Twilio プロファイル画面」で登録された、Twilio のプロファイルが表示されます。

電話通知プラン契約期間中、電話番号を指定した状態でこの項目を指定しない場合、Twilio プロファイルを使用せず電話発信を行います。

(4) 「SMS電話番号」テキストフィールド

SMS 通知用の電話番号を指定します。電話番号は E.164 電話番号形式、0ABJ 番号形式あるいは 0A0 番号形式の 16 文字以内で指定します。0ABJ 番号、0A0 番号で指定したときは登録後 E.164 番号形式で表示されます。

電話番号形式の例は「電話番号 1～4」を参照ください。

(5) 「SMS用Twilioプロファイル」ドロップダウンリスト（SMS電話番号を指定した場合、必須項目）

SMS 通知する際、どの Twilio プロファイルを使用して通知を実施するかを指定します。Twilio のプロファイルをリストから選択して指定します。リストにはあらかじめ「5.10 Twilio プロファイル画面」で登録された、Twilio のプロファイルが表示されます。

(6) 「メールアドレス 1～4」テキストフィールド

メール通知用のメールアドレスを 1～4 で指定します。メールアドレスは 512 文字以内で指定してください。1～4 を複数指定した場合、それらのメールアドレスすべてを To 指定にしたメール通知を行います。

本テキストフィールドにはメールアドレスのみを記載してください。また、本テキスト

5. Web 画面

フィールドには、単一のメールアドレスを指定してください。1つのテキストフィールドに複数のメールアドレスは指定できません。

(7) 「LINE WORKSメンバーID」テキストフィールド

LINE WORKS への通知で使用する LINE WORKS のメンバーアカウント ID を 512 文字以内で指定します。指定するアカウント ID は LINE WORKS 側であらかじめメンバーアカウントとして登録されている必要があります。

(8) 「LINE WORKSプロフィール」ドロップダウンリスト (LINE WORKSメンバーIDを指定した場合、必須項目)

LINE WORKS へ通知する際、どの LINE WORKS プロフィールを使用して通知を実施するかを指定します。LINE WORKS のプロフィールをリストから選択して指定します。リストにはあらかじめ「5.12 LINE WORKS プロフィール画面」で登録された、LINE WORKS のプロフィールが表示されます。

(9) 「Slackメンバー名」テキストフィールド

Slack への通知で使用する Slack のメンバー名を 1,000 文字以内で指定します。Slack のメンバー名は Slack 側のメンバーの「氏名」を指定します。「表示名」ではありません。指定するメンバー名は Slack 側であらかじめメンバーとして登録されている必要があります。

(10) 「Slackプロフィール」ドロップダウンリスト (Slackメンバー名を指定した場合、必須項目)

Slack へ通知する際、どの Slack プロフィールを使用して通知を実施するかを指定します。Slack のプロフィールをリストから選択して指定します。リストにはあらかじめ「5.14 Slack プロフィール画面」で登録された、Slack のプロフィールが表示されます。

(11) 「カレンダー」ボタン

カレンダーダイアログを表示します。定義中のユーザが「システムカレンダー」と異なるカレンダーを使用したい場合に指定します。ユーザが使用するカレンダーの情報を指定します。カレンダーダイアログについては「5.23 カレンダーダイアログ」を参照ください。

(12) 「スケジュール」ボタン

スケジュールダイアログを表示します。定義中のユーザが「システムスケジュール」と異なるスケジュールを使用したい場合に指定します。ユーザが使用するスケジュールの情報を指定します。スケジュールダイアログについては「5.24 スケジュールダイアログ」を参照ください。

(13) 「CANCEL」ボタン

すべての変更内容を破棄し、ユーザー一覧へ戻ります。

(14) 「SAVE」ボタン

変更内容を登録し、ユーザー一覧へ戻ります。

5.21 連絡網一覧

サイドバーから「連絡網」をクリックしたとき、連絡網一覧を表示します。また、サインインに成功した場合の初期表示でも連絡網一覧を表示します。

連絡網一覧では、登録済み連絡網一覧を表示します。連絡網定義の登録、更新、削除で使します。

なお、連絡網定義の操作では、接続先情報（メールサーバ、Twilio プロファイル、LINE WORKS プロファイル、Slack プロファイル、Microsoft teams プロファイル）とユーザ定義情報を参照しますので、連絡網定義の操作を行う前に、接続先情報とユーザ定義情報の登録を行ってください。



図 5.21-1 連絡網一覧（表示例）

- 登録可能な連絡網数は 500 件です。

(1) 「連絡網一覧」リスト

登録済み連絡網一覧を示します。連絡網名をクリックするとその連絡網の定義画面を表示します。

連絡網名の右側の [ゴミ箱] アイコンボタンでその行の連絡網を個別に削除できます。削除した連絡網がエスカレーション先連絡網として指定されている場合、連絡網の実行に失敗します。

(2) 「プラス」アイコンボタン

連絡網を新規登録する場合に使用します。上部の [プラス] アイコンボタンをクリックすると新規で連絡網定義画面を表示します。

(3) 「ゴミ箱」アイコンボタン

上部の [ゴミ箱] アイコンボタンをクリックすると連絡網一覧リストでチェックした連絡網を一括で削除します。

5. Web 画面

5.22 連絡網定義画面

連絡網定義画面では、通知先、電話通知の確認時の動作、エスカレーション先の連絡網、カレンダーやスケジュールなどを設定し連絡網を定義します。

連絡網名*

実行回数*
1

確認がとれたら中止する

利用可能な通知先

ユーザ検索

▼ 連絡先

- ▼ ユーザ
 - > ユーザA
 - > ユーザB
- LINE WORKS
- Slack
- Microsoft Teams

→

通知先

↑ ↓ 削除

確認時エスカレーション先連絡網名
(指定なし)

未確認時エスカレーション先連絡網名
(指定なし)

確認時外部API実行プロファイル名
(指定なし)

未確認時外部API実行プロファイル名
(指定なし)

カレンダー

スケジュール

CANCEL SAVE

図 5.22-1 連絡網定義画面

- 入力が必須の項目に関しては、「項目名*」（項目名の最後にアスタリスクを付与）で表示しています。

(1) 「連絡網名」テキストフィールド（必須項目）

新規の連絡網を定義する場合、連絡網の名前を 100 文字以内で指定します。既存の連絡網を表示したときは変更できません。連絡網名には「.」（ドット）で始まる文字列は指定しないでください。連絡網名には以下に示す文字は使用できません。

” ¥ / * ? [] = < > ! ' \$ % & , ; : # + 半角空白文字 ASCII制御文字(0x00~0x1f, 0x7f) サロゲートペア文字

(2) 「実行回数」テキストフィールド (必須項目)

連絡網全体の実行回数を 1~30 の範囲で指定します。半角数字で入力してください。初期値は 1 です。2 以上を指定した場合でも成功した通知先へは繰り返しは行いません。

電話発信などで、受信者が話し中や電話に出ないなどの場合に、2 以上を指定する事で、通知を繰り返して実行することが可能です。1 の場合、繰り返しは行いません。

(3) 「確認がとれたら中止する」スイッチ (必須項目)

電話発信で受信者が「確認」操作を行ったときに、後続の通知先への通知を行う（続行する）のか、行わない（中止する）のかを指定します。初期値は「ON（確認がとれたら後続の通知先への通知を行わない（中止する）」）です。

(4) 「ユーザ検索」テキストフィールド

利用可能な通知先ユーザの検索文字列を指定します。検索文字列は通知先ユーザの部分一致したユーザのみを「利用可能な通知先」ツリービューの[ユーザ]に表示します。ワイルドカードなど正規表現（メタキャラクタ）を指定した検索は行えません。

(5) 「利用可能な通知先」ツリービュー

通知先として利用可能な通知先ユーザ、利用可能な通知メディアをツリービューで表示します。

通知先ユーザはあらかじめ「5.20 ユーザ定義画面」で登録したユーザー一覧とユーザの通知可能な通知メディアが表示されます。

- ユーザに電話番号 1~4 の登録があった場合でも、本ツリービューでは「電話」の表示のみです。
- ユーザにメールアドレス 1~4 の登録があった場合でも、本ツリービューでは「メール」の表示のみです。
- 同一ユーザの同一通知メディアを 2 つ以上通知先一覧に追加することはできません。

通知メディアの「LINE WORKS」「Slack」「Microsoft Teams」は、ユーザへの通知ではなく、指定するトークルームまたはチャンネルへの通知となります。LINE WORKS を選択し「→」ボタンを押下したとき「5.22.1 LINE WORKS トークルーム設定ダイアログ」を表示します。Slack を選択し「→」ボタンを押下したときは「5.22.2 Slack チャンネル設定ダイアログ」を表示します。Microsoft Teams を選択し「→」ボタンを押下したときは「5.22.3 Microsoft Teams 設定ダイアログ」を表示します。

(6) 「→」ボタン

「利用可能な通知先」ツリービューで選択された、通知先ユーザの通知メディアまたは、LINE WORKS, Slack, Microsoft Teams の通知メディアを通知先一覧に追加します。

通知先一覧には最大 20 個まで、通知先の指定が可能です。20 個に達した場合、「→」ボタンは非活性となります。

(7) 「通知先」リスト

指定された通知先の一覧（通知先一覧）を表示します。通知の順序は、リストの上から下の順となります。

(8) 「↑」ボタン

通知先一覧でチェックボックスがつけられた通知先の位置を 1 つ上に移動します。チェックが付いていないとき、または 2 つ以上のチェックが付けられたときは非活性になります。

(9) 「↓」ボタン

通知先一覧でチェックボックスがつけられた通知先の位置を 1 つ下に移動します。チェックが付いていないとき、または 2 つ以上のチェックが付けられたときは非活性になります。

(10) 「削除」ボタン

通知先一覧でチェックボックスがつけられた通知先を通知先一覧から削除します。チェックが付いていないときは非活性になります。

(11) 「確認時エスカレーション先連絡網名」ドロップダウンリスト

連絡網内の通知先ユーザが電話による「確認」操作を行った場合、別の連絡網への発信を行う場合に、その連絡網名をリストから選択します。リストには、登録済の連絡網（定義中の自連絡網を除く）が表示されます。

●無限ループ防止のお願い

2つの連絡網で、エスカレーション先連絡網名を以下のように定義した場合、無限ループが発生します。以下のような定義の登録は行わないようお願いします。

- ・連絡網定義「A001」のエスカレーション先：B001
- ・連絡網定義「B001」のエスカレーション先：A001

上記のように定義し、連絡網を実行した場合

A001 ⇒ B001 ⇒ A001 ⇒ B001 無限ループが発生します。

(12) 「未確認時エスカレーション先連絡網名」ドロップダウンリスト

連絡網内の通知先ユーザが「確認」操作を行わなかった場合(※1)、別の連絡網への発信を行う場合に、その連絡網名をリストから選択します。リストには、登録済の連絡網（定義中の自連絡網を除く）が表示されます。

※1：連絡網内に電話通知が未定義（電話通知がない）の場合には、「確認」操作が行われることはありませんので、本ドロップダウンリストに指定した、別の連絡網への発信が常に実行されることとなります。

また、連絡網定義内に電話通知が定義されており「確認」操作を行った場合でも「確認がとれたら中止する」が「OFF」のときには、別の連絡網への発信が実行されます。

5. Web 画面

●無限ループ防止のお願い

(11) 「確認時エスカレーション先連絡網名」を参照ください。

(13) 「確認時外部API実行プロファイル名」ドロップダウンリスト

連絡網内の通知先ユーザが電話による「確認」操作を行った場合、外部 API の実行を行う場合に、その外部 API 実行プロファイル名をリストから選択します。リストには、登録済の外部 API 連携プロファイル名が表示されます。

(14) 「未確認時外部API実行プロファイル名」ドロップダウンリスト

連絡網内の通知先ユーザが「確認」操作を行わなかった場合(※1)、外部 API の実行を行う場合に、その外部 API 実行プロファイル名をリストから選択します。リストには、登録済の外部 API 連携プロファイル名が表示されます。

※1：連絡網内に電話通知が未定義（電話通知がない）の場合には、「確認」操作が行われることはありませんので、本ドロップダウンリストに指定した、外部 API が常に実行されることとなります。

また、連絡網定義内に電話通知が定義されており「確認」操作を行った場合でも「確認がとれたら中止する」が「OFF」のときには、外部 API が実行されます。

(15) 「カレンダー」ボタン

カレンダーダイアログを表示します。「システムカレンダー」と異なるカレンダーを使用したい場合に指定します。定義中の連絡網で使用するカレンダー情報を指定します。カレンダーダイアログについては「5.23 カレンダーダイアログ」を参照ください。

(16) 「スケジュール」ボタン

スケジュールダイアログを表示します。「システムスケジュール」と異なるスケジュールを使用したい場合に指定します。定義中の連絡網で使用するスケジュール情報を指定します。スケジュールダイアログについては「5.24 スケジュールダイアログ」を参照ください。

(17) 「CANCEL」ボタン

すべての変更内容を破棄し、連絡網一覧に戻ります。

(18) 「SAVE」ボタン

連絡網の情報を登録し、連絡網一覧に戻ります。なお、通知先が1つも指定されていない場合でも、登録は可能です。

5.22.1 LINE WORKS トークルーム設定ダイアログ

連絡網定義画面の利用可能な通知先で LINE WORKS を選択し、「→」ボタンをクリック

クした時、表示されます。利用可能な通知先で LINE WOKRS を選択した場合、指定は必須です。

図 5.22-2 LINE WORKS トークルーム設定ダイアログ

- 入力が必須の項目に関しては、「項目名*」（項目名の最後にアスタリスクを付与）で表示しています。

(1) 「LINE WORKSルームID」テキストフィールド（必須項目）

LINE WORKS へ通知する際、どのトークルームへ通知するかを指定します。通知先のLINE WORKS のトークルーム ID を 64 文字以内で指定します。（LINE WORKS のトークルーム名ではありません）

LINE WORKS のトークルーム ID は、以下の (a)、(b) または (c) の方法で取得してください。

- (a) LINE WORKS トークルーム作成コマンドを動作させ、新規にトークルームを作成し、記録されたトークルーム ID を使用する。

「6.2.15 LINE WORKS トークルーム作成コマンド」を動作させ、トークルームを作成します。次に、ルーム ID 記録ファイル (room.conf) を参照し、作成したトークルームのトークルーム ID を取得します。

ルーム ID 記録ファイル (room.conf) の詳細に関しては「3.2(3)ルーム ID 記録ファイルに関して」を参照ください。

- (b) LINE WORKS トークルーム作成 API を動作させ、新規にトークルームを作成し、API のレスポンスからトークルーム ID を取り出して使用する。

「7.2.14 LINE WORKS トークルーム作成 API」を動作させ、トークルームを作成します。API 成功時のレスポンス (resp_linecreateroom.json) を解析し、トークルーム ID を取得します。

API 成功時のレスポンス (resp_linecreateroom.json) の詳細に関しては「8.1(22)resp_linecreateroom.json」を参照ください。

- (c) お客様側で既にご使用されているトークルームのトークルーム ID が明確な場合何らかの方法で、お客様側でご使用されているトークルームのトークルーム ID を入手している場合には、入手済のトークルーム ID を使用してください。

(2) 「LINE WORKSプロフィール名」ドロップダウンリスト（必須項目）

LINE WORKS へ通知する際、どの LINE WORKS プロファイルを使用して通知を実施

5. Web 画面

するかを指定します。LINE WORKS のプロフィールをリストから選択して指定します。リストにはあらかじめ「5.12 LINE WORKS プロファイル画面」で登録された内容が表示されます。

(3) 「CANCEL」 ボタン

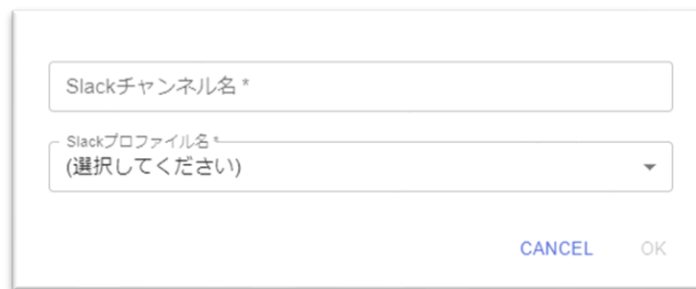
編集内容を破棄して、連絡網定義画面へ戻ります。

(4) 「OK」 ボタン

編集内容を保存して、連絡網定義画面へ戻ります。

5.22.2 Slackチャンネル設定ダイアログ

連絡網定義画面の利用可能な通知先で Slack を選択し、「→」ボタンをクリックした時、表示されます。利用可能な通知先で Slack を選択した場合、指定は必須です。



Slackチャンネル設定ダイアログのスクリーンショット。上部には「Slackチャンネル名 *」というテキスト入力フィールドがあります。その下には「Slackプロフィール名 * (選択してください)」というドロップダウンメニューがあります。右下には「CANCEL」と「OK」のボタンが並んでいます。

図 5.22-3 Slackチャンネル設定ダイアログ

- 入力が必須の項目に関しては、「項目名*」（項目名の最後にアスタリスクを付与）で表示しています。

(1) 「Slackチャンネル名」テキストフィールド（必須項目）

Slack へ通知する際、どのチャンネルへ通知するかを指定します。通知先の Slack のチャンネル名を 160 文字以内で指定します。

(2) 「Slackプロフィール名」ドロップダウンリスト（必須項目）

Slack へ通知する際、どの Slack プロファイルを使用して通知を実施するかを指定します。Slack のプロフィールをリストから選択して指定します。リストにはあらかじめ「5.14 Slack プロファイル画面」で登録された内容が表示されます。

(3) 「CANCEL」 ボタン

編集内容を破棄して、連絡網定義画面へ戻ります。

(4) 「OK」 ボタン

編集内容を保存して、連絡網定義画面へ戻ります。

5.22.3 Microsoft Teams設定ダイアログ

連絡網定義画面の利用可能な通知先で Microsoft Teams を選択し、「→」ボタンをクリックした時、表示されます。利用可能な通知先で Microsoft Teams を選択した場合、指定は必須です。



図 5.22-4 Microsoft Teams設定ダイアログ

- 入力が必要な項目に関しては、「項目名*」（項目名の最後にアスタリスクを付与）で表示しています。
- (1) 「Microsoft Teamsプロファイル名」ドロップダウンリスト（必須項目）

Microsoft Teams へ通知する際、Microsoft Teams プロファイルを使用して通知を実施するかを指定します。Microsoft Teams のプロファイルをリストから選択して指定します。リストにはあらかじめ「5.16 Microsoft Teams プロファイル画面」で登録された内容が表示されます。
 - (2) 「CANCEL」ボタン
編集内容を破棄して、連絡網定義画面へ戻ります。
 - (3) 「OK」ボタン
編集内容を保存して、連絡網定義画面へ戻ります。

5.23 カレンダーダイアログ

カレンダーダイアログでは、お客様の運用にあわせて休日の設定が可能です。以下の3種類のカレンダーを提供します。

- システムカレンダー

お客様ごとのシステムカレンダーです。初期値は土曜日、日曜日が休日となります。祝日は休日となっておりません。

サイドバーの「システムカレンダー」をクリックしたとき、カレンダーダイアログを表示します。

- ユーザカレンダー

ユーザごとに設定することが可能なカレンダーです。初期値はシステムカレンダーの値を表示します。ユーザカレンダーを登録後に、システムカレンダーの内容を変更しても、登録済のユーザカレンダーの内容は変更されません。

ユーザ定義画面で「カレンダー」ボタンを押下したとき、カレンダーダイアログを表示します。

- 連絡網カレンダー

連絡網ごとに設定することが可能なカレンダーです。初期値はシステムカレンダーの値を表示します。連絡網カレンダーを登録後に、システムカレンダーの内容を変更しても、登録済の連絡網カレンダーの内容は変更されません。

連絡網定義画面で「カレンダー」ボタンを押下したとき、カレンダーダイアログを表示します。

通知時にどのカレンダーを適用するかは優先順位は、

ユーザカレンダー > 連絡網カレンダー > システムカレンダー
の順番となります。

例1) ユーザカレンダーと連絡網カレンダーの設定がある場合、
ユーザカレンダーが適用されます。

例2) ユーザカレンダーも連絡網カレンダーも設定がない場合、
システムカレンダーが適用されます。

- システムカレンダーの操作に関して

システムカレンダーを操作する場合には、ユーザ定義画面の操作、連絡網定義画面の操作は行わないようにしてください。同時に操作を行った場合は、登録操作のタイミングにより、システムカレンダーの内容が、ユーザカレンダーや連絡網カレンダーに反映されない場合があります。

システムカレンダー

休日とする曜日

日 月 火 水 木 金 土

休日とする日付

YYYY/MM/DD

日付

休日としない日付

YYYY/MM/DD

日付

CANCEL OK

図 5.23-1 システムカレンダーダイアログ

ユーザカレンダー

休日とする曜日

日 月 火 水 木 金 土

休日とする日付

YYYY/MM/DD

日付

休日としない日付

YYYY/MM/DD

日付

削除 CANCEL OK

図 5.23-2 ユーザカレンダーダイアログ



図 5.23-3 連絡網カレンダーダイアログ



図 5.23-4 連絡網カレンダーダイアログ (指定例)

(1) 「カレンダータイトル」

カレンダーのタイトルを表示します。「システムカレンダー」「ユーザカレンダー」「連絡網カレンダー」のいずれかを表示します。

(2) 「休日とする曜日」(日～土) チェックボタン

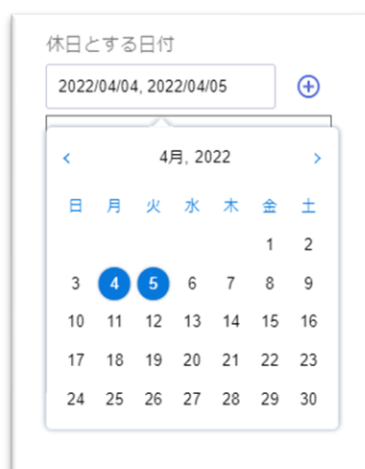
特定の曜日を休日にする場合は、休日にする曜日のチェックを ON にします。解除する場合は、チェックを OFF にします。特定の曜日の休日設定、解除はすべての月に反映されます。システムカレンダーの初期値は、土日を休日としています。祝日は休日となっていません。任意の日付を休日に設定するには、(3)「休日とする日付」を使用し設定してください。

- (3) 「休日とする日付」 「YYYY/MM/DD」 年月日選択フィールド, 「プラス」アイコンボタン
任意の日付を休日に設定する場合に使用します。

「YYYY/MM/DD」フィールドをクリックすると、カレンダーが表示されるので休日とする日付を選択（クリックして青色リバーズ）し、「プラス」アイコンボタンを押下することで「休日とする日付」リストに追加します。カレンダーの複数の日付を選択することが可能です。日付の直接入力できません。過去の日付は登録できません。また、(4)「休日としない日付」に設定した日付は登録できません。

「休日とする日付」リストには最大50個まで、休日とする日付の指定が可能です。50個に達した場合、「プラス」アイコンボタンは非活性となります。

例) 2022/04/04, 2022/04/05 を休日とする場合



- ・「<」ボタンで前月, 「>」ボタンで次月を表示
- ・月部分をクリックすると、月ダイアログが表示され、選択した年月のカレンダーを表示
- ・年部分をクリックすると、年ダイアログが表示され、選択した年月のカレンダーを表示

「プラス」アイコンボタンを押下し、休日が追加されたリスト



- (4) 「休日とする日付」リスト, 「ゴミ箱」アイコンボタン

(2) 「休日とする曜日」以外の任意の休日をリスト表示します。

休日をやめる場合には、該当する日付のチェックボタンをチェックして、「ゴミ箱」アイコンボタンを押下して、リストから削除します。

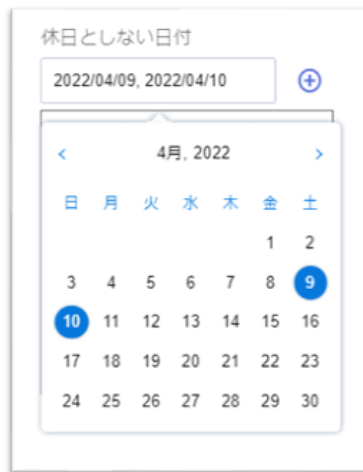
5. Web 画面

- (5) 「休日としない日付」 「YYYY/MM/DD」 年月日選択フィールド, 「プラス」アイコンボタン
(2) 「休日とする曜日」で指定した曜日から, 任意の日付を除外 (平日に設定) する場合に使用します。

「YYYY/MM/DD」フィールドをクリックすると, カレンダーが表示されるので休日を解除する日付を選択 (クリックして青色リバーズ) し, 「プラス」アイコンボタンを押下することで「休日としない日付」リストに追加します。日付の選択時に複数の日付が選択可能です。日付の直接入力できません。過去の日付は登録できません。また, 「休日とする日付」に設定した日付は登録できません。

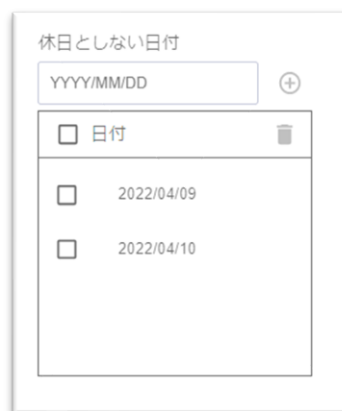
「休日としない日付」リストには最大 50 個まで, 休日としない日付の指定が可能です。50 個に達した場合, 「プラス」アイコンボタンは非活性となります。

例) 2022/04/09, 2022/04/10 を休日から除外する場合



- ・ 「<」ボタンで前月, 「>」ボタンで次月を表示
- ・ 月部分ををクリックすると, 月ダイアログが表示され, 選択した年月のカレンダーを表示
- ・ 年部分ををクリックすると, 年ダイアログが表示され, 選択した年月のカレンダーを表示

「プラス」アイコンボタンを押下し, 除外する日が追加されたリスト



- (6) 「休日としない日付」リスト, 「ゴミ箱」アイコンボタン
「休日とする曜日」から, 除外 (平日に設定) する日付をリスト表示します。

除外をやめる（休日に戻す）場合には、該当する日付のチェックボタンをチェックして、「ゴミ箱」アイコンボタンを押下して、リストから削除します。

(7) 「削除」ボタン

「ユーザカレンダー」もしくは「連絡網カレンダー」を削除する場合に使用します。

なお、「システムカレンダー」は削除できませんので、「削除」ボタンは表示されません。

(8) 「CANCEL」ボタン

編集内容を破棄して、カレンダーダイアログを閉じます。

(9) 「OK」ボタン

編集内容を保存して、カレンダーダイアログを閉じます。

5.24 スケジュールダイアログ

スケジュールダイアログでは、お客様の運用にあわせて各通知メディアへの発信を抑止する時間帯の設定が可能です。スケジュールは平日用、休日用のそれぞれが設定可能です。カレンダーダイアログとあわせて設定することで、平日・休日の各通知メディアへの発信を抑止する時間帯の設定が可能です。

本サービスでは、以下の3種類のスケジュールを提供します。

- システムスケジュール

お客様ごとのシステムスケジュールです。初期値では抑止する時間帯の設定はされていません。

サイドバーの「システムスケジュール」をクリックしたとき、スケジュールダイアログを表示します。

- ユーザスケジュール

ユーザごとに設定するスケジュールです。初期値はシステムスケジュールの値です。ユーザスケジュールを登録後にシステムスケジュールの内容を変更しても、登録済のユーザスケジュールの内容は変更されません。

ユーザ定義画面で「スケジュール」ボタンを押下したとき、スケジュールダイアログを表示します。

- 連絡網スケジュール

連絡網ごとに設定するスケジュールです。初期値はシステムスケジュールの値です。連絡網スケジュールを登録後にシステムスケジュールの内容を変更しても、登録済の連絡網スケジュールの内容は変更されません。

連絡網定義画面で「スケジュール」ボタンを押下したとき、スケジュールダイアログを表示します。

発信時にどのスケジュールを適用するかの優先順位は、

ユーザスケジュール > 連絡網スケジュール > システムスケジュール
の順番となります。

例1) ユーザスケジュールと連絡網スケジュールの設定がある場合、
ユーザスケジュールが適用されます。

例2) ユーザスケジュールも連絡網スケジュールも設定がない場合、
システムスケジュールが適用されます。

- システムスケジュールの操作に関して

システムスケジュールを操作する場合には、ユーザ定義画面の操作、連絡網定義画面の操作は行わないようにしてください。同時に操作を行った場合は、登録操作のタイミングにより、システムスケジュールの内容が、ユーザスケジュールや連絡網スケジュールに反映されない場合があります。

システムスケジュール

平日 休日

平日の発信を**抑止する**通知メディアと時間帯を設定します

時間帯	電話 1	電話 2	電話 3	電話 4	SMS	メール	LINE WORKS	Slack	LINE WORKS Room	Slack Channel	Microsoft Teams	+

CANCEL OK

図 5.24-1 システムスケジュールダイアログ

ユーザスケジュール

平日 休日

平日の発信を**抑止する**通知メディアと時間帯を設定します

時間帯	電話 1	電話 2	電話 3	電話 4	SMS	メール	LINE WORKS	Slack	LINE WORKS Room	Slack Channel	Microsoft Teams	+

削除 CANCEL OK

図 5.24-2 ユーザスケジュールダイアログ

連絡網スケジュール

平日 休日

平日の発信を**抑止する**通知メディアと時間帯を設定します

時間帯	電話 1	電話 2	電話 3	電話 4	SMS	メール	LINE WORKS	Slack	LINE WORKS Room	Slack Channel	Microsoft Teams	+

削除 CANCEL OK

図 5.24-3 連絡網スケジュールダイアログ

連絡網スケジュール

平日 休日

平日の発信を**抑止する**通知メディアと時間帯を設定します

時間帯	電話1	電話2	電話3	電話4	SMS	メール	LINE WORKS	Slack	LINE WORKS Room	Slack Channel	Microsoft Teams	+
00:00-06:59	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

削除 CANCEL OK

図 5.24-4 連絡網スケジュールダイアログ（指定例）

- 「プラス」アイコンボタンを押下し、抑止の開始時間、終了時間、通知メディアを選択し、抑止する通知メディアと時間帯を設定します。複数の設定が登録可能です。
- 同一の時間帯で、複数の抑止は登録できません。（開始時間、終了時間のいずれかが異なっていれば、同一の時間帯とは見なされません）

5. Web 画面

- 誤った時間帯を登録した場合（時間帯を修正したい場合），時間帯のみの変更はできませんので，該当の設定を「ゴミ箱」アイコンボタンで削除し，あらためて「プラス」アイコンボタンで追加からやり直してください。
- 抑止時間に該当する通知が実行された場合，該当の通知は抑止されます。抑止されたことを示すメッセージがログに出力されます。ログの取得に関しては「6.2.18 ログ取得コマンド」または「7.2.17 ログ取得 API」を使用して取得してください。Web 画面（GUI）では参照できません。

ユーザスケジュールで抑止された場合のログ：

「1017-I 通知先ユーザの {通知メディア} の発信を抑止しました。SID ... 」

システムスケジュール，連絡網スケジュールで抑止された場合のログ：

「1018-I {通知メディア} の発信を抑止しました。SID ... 」

メッセージの詳細に関しては「9.2 メッセージ一覧」を参照ください。

なお，お客様環境のコマンド側のログには，抑止された通知の内容は記録されません。

(1) 「スケジュールタイトル」

スケジュールのタイトルを表示します。「システムスケジュール」「ユーザスケジュール」「連絡網スケジュール」のいずれかを表示します。

(2) 「平日」「休日」ボタン

スケジュール表示の平日と休日の切り替えを行います。平日と休日は別々の設定になります。

(3) 「プラス」アイコンボタン

抑止の開始時間，終了時間を設定するスケジュール時刻ダイアログを表示します。

「時間帯と通知メディア」一覧には最大 10 個まで，スケジュール時刻の指定が可能です。10 個に達した場合，「OK」ボタンは非活性となります。

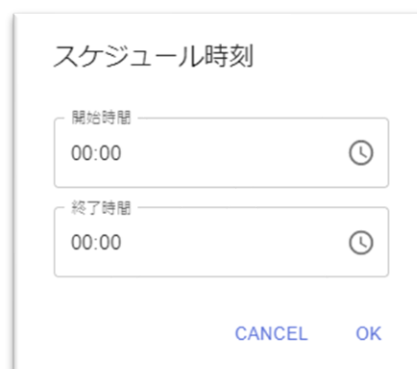


図 5.24-5 スケジュール時刻ダイアログ

■スケジュール時刻ダイアログの説明

- (a) 「開始時間」テキストフィールド

抑止を開始する時刻を「HH:MM」形式で指定します。右側のタイムボタンをクリックすると時刻の選択リスト（時間ピッカー）がポップアップされます。

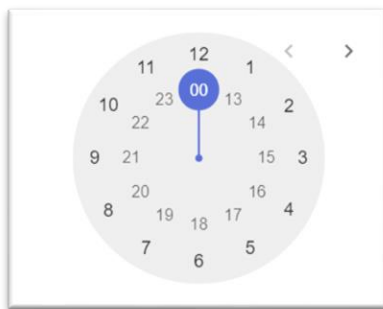


図 5.24-6 時間ピッカー

時間ピッカーはマウスでクリックすることにより表示されている時刻を選択することができます。時間ピッカーで選択した時分が「開始時間」テキストフィールドに反映されます。

(b) 「終了時間」テキストフィールド

抑止を終了する時刻を「HH:MM」形式で指定します。右側のタイムボタンをクリックすると時刻の選択リスト（時間ピッカー）がポップアップされます。

● 終了時間の秒の扱いに関して

「00:00」と入力した場合、00:00:59.999（00:01 未満の扱い）で処理します。

「00:59」と入力した場合、00:59:59.999（01:00 未満の扱い）で処理します。

指定例 1) 00:00～03:00 未満を抑止する場合

開始時間 00:00 終了時間 02:59

指定例 2) 00:00～24:00 未満を抑止する場合（1 日中、抑止する場合）

開始時間 00:00 終了時間 23:59

※開始時間に関しては「00:00」と入力した場合、00:00:00.000 で処理します。終了時間のような、秒の扱いはありません。

● 開始時間と終了時間の関係

終了時間よりも、遅い開始時間を指定した場合、エラーとなります。

指定例) 夜間から翌朝の間、抑止したい場合

開始時間 21:00 終了時間 08:59 ...本指定はエラーとなる。

上記を回避する設定例) 00:00 を区切りに、2つの設定を登録する

1 つ目 : 開始時間 21:00 終了時間 23:59

5. Web 画面

2つ目：開始時間 00:00 終了時間 08:59

※一覧表示では、時間の小さい順でソートし表示されます。

(c) 「CANCEL」 ボタン

編集内容を反映せず、スケジュール時刻ダイアログを閉じます。

(d) 「OK」 ボタン

編集内容を「時間帯と通知メディア」一覧に反映し、スケジュール時刻ダイアログを閉じます。

「時間帯と通知メディア」一覧には、すべての通知メディアをチェックした状態（すべて抑止する設定）で追加します。抑止しない通知メディアがある場合、チェックを外してください。

(4) 「時間帯と通知メディア」一覧

発信を抑止する通知メディアと時間帯の一覧を表示します。一覧の表示は、時間の小さい順でソートして表示します。任意の順番で表示はできません。

なお、(9)「OK」ボタンを押下した時、「通知メディア」チェックボタンが1つもチェックされてない抑止設定がある場合、設定は不要と判断し、該当する抑止設定を「時間帯と通知メディア」一覧から削除します。

(5) 「通知メディア」チェックボタン

抑止する通知メディアをチェックします。抑止したくない通知メディアに関しては、チェックを外してください。

表 5.24-1 通知メディアの説明

名称	通知メディア	説明
電話 1	ユーザへの電話通知	ユーザ情報の電話番号 1 で指定された番号への電話通知を抑止する場合にチェックします。
電話 2	ユーザへの電話通知	ユーザ情報の電話番号 2 で指定された番号への電話通知を抑止する場合にチェックします。
電話 3	ユーザへの電話通知	ユーザ情報の電話番号 3 で指定された番号への電話通知を抑止する場合にチェックします。
電話 4	ユーザへの電話通知	ユーザ情報の電話番号 4 で指定された番号への電話通知を抑止する場合にチェックします。
SMS	ユーザへの SMS 通知	ユーザ情報の SMS 電話で指定された番号への SMS 通知を抑止する場合にチェックします。
メール	ユーザへのメール通知	ユーザ情報のメールアドレス 1～4 で指定されたアドレスへのメール通知を抑止する場合にチェックします。
LINE WORKS	ユーザへの LINE WORKS への通知	ユーザ情報の LINE WORKS で指定された LINE WORKS メンバーアカウントへの通知を抑止する場合にチェックします。
Slack	ユーザへの Slack への通知	ユーザ情報の Slack で指定された Slack メンバーへの通知を抑止する場合にチェックします。
LINE WORKS Room	LINE WORKS のトークルームへの通知	LINE WORKS のトークルームへの通知を抑止する場合にチェックします。
Slack	Slack のチャンネルへの通知	Slack のチャンネルへの通知を抑止する場合にチェック

名称	通知メディア	説明
Channel	知	します。
Microsoft Teams	Microsoft Teams のチャンネルへの通知	Microsoft Teams のチャンネルへの通知を抑止する場合にチェックします。

- (6) 「ゴミ箱」アイコンボタン
「時間帯と通知メディア」一覧から、抑止の設定を削除する場合に使用します。
- (7) 「削除」ボタン
「ユーザスケジュール」もしくは「連絡網スケジュール」を削除する場合に使用します。
なお、「システムスケジュール」は削除できませんので、「削除」ボタンは表示されません。
- (8) 「CANCEL」ボタン
編集内容を破棄して、スケジュール画面を閉じます。
- (9) 「OK」ボタン
編集内容を保存して、スケジュール画面を閉じます。

5.25 受信メール連携一覧

サイドバーの「受信メール連携ルール」をクリックしたとき、登録済みの受信メール連携ルールの一覧を表示します。



図 5.25-1 受信メール連携一覧（表示例）

- 登録可能な受信メール連携ルールの数は 100 件です。

(1) 「受信メール連携一覧」リスト

登録済みの受信メール連携ルールの一覧を示します。ルール名をクリックすると受信メール連携ルール画面を表示します。

ルール名の右側の [ゴミ箱] アイコンボタンでその行のルールを個別に削除できます。

(2) 「プラス」アイコンボタン

受信メール連携ルールを新規登録する場合に使用します。上部の [プラス] アイコンボタンをクリックすると新規で受信メール連携ルール画面を表示します。

(3) 「ゴミ箱」アイコンボタン

上部の [ゴミ箱] アイコンボタンをクリックすると受信メール連携一覧リストでチェックした受信メール連携ルールを一括で削除します。

5.26 受信メール連携ルール画面

受信メール連携ルール画面は、本サービスで受信したお客様からのメール内容に応じ、フィルタ条件と実行する連絡網、通知内容を定義する画面です。

受信メールの検証方法などに関しては、「2.1(4)受信メール連携機能」を参照ください。

The screenshot shows a web form for defining inbound email linkage rules. It includes the following elements:

- ルール名***: A text input field for the rule name.
- 送信元メールアドレス**: A text input field for the sender's email address.
- メール件名**: A text input field for the email subject.
- メール本文**: A text input field for the email body.
- 呼び出し先連絡網名***: A dropdown menu with '(指定なし)' (None) selected.
- 通知内容***: A large text area for the notification content.
- 通知内容(メール件名)**: A text input field for the notification content based on the email subject.
- CANCEL** and **SAVE** buttons: Located at the bottom right of the form.

図 5.26-1 受信メール連携ルール画面

- 入力が必要な項目に関しては、「項目名*」（項目名の最後にアスタリスクを付与）で表示しています。
- フィルタ条件の項目は「送信元メールアドレス」「メール件名」「メール本文」の3項目です。フィルタ条件は、1つ以上を設定してください。すべて省略した場合「SAVE」できません。複数の項目に条件を指定した場合、AND条件（すべての条件に一致した場合、成立）となります。
- フィルタ条件の項目には、ワイルドカードなど正規表現（メタキャラクタ）は指定できません。
- フィルタ条件の項目に、記号などの特殊文字を指定した場合、メール送信元の文字エンコーディング方式によっては、条件に一致しないことがあります。
- フィルタ条件が成立した場合、実行する連絡網を「呼び出し先連絡網名」に指定し、通知する内容を「通知内容」と「通知内容（メール件名）」（メール通知が含まれる場合）に指定します。

(1) 「ルール名」テキストフィールド（必須項目）

新規のルールを登録する場合、ルール名を 100 文字以内で指定します。既存のルールを表示したときは変更できません。ルール名には「.」（ドット）で始まる文字列は指定しないでください。ルール名には以下に示す文字は使用できません。

” ¥ / * ? [] = < > ! ' \$ % & , ; : # + 半角空白文字 ASCII制御文字(0x00~0x1f, 0x7f) サロゲートペア文字
--

(2) 「送信元メールアドレス」テキストフィールド

送信元メールアドレス（From）に含まれる文字列を 1000 文字以内で指定します。含まれる文字列を比較するため、必ずしも、完全なメールアドレスを指定する必要はありません。半角セミコロン区切りで複数の文字列を最大 20 個まで指定できます。空文字は指定できません。複数の文字列が指定された場合、どれかひとつが一致すればこのフィルタ条件が成立となります。大文字・小文字は区別せず比較します。全角・半角は区別して比較します。

「メール件名」「メール本文」にも指定がある場合、AND 条件（指定した、すべての項目が成立した場合）で成立となります。

(3) 「メール件名」テキストフィールド

メール件名（Subject）に含まれる文字列を 1000 文字以内で指定します。含まれる文字列を比較するため、必ずしも、件名の全文を指定する必要はありません。半角セミコロン区切りで複数の文字列を最大 20 個まで指定できます。空文字は指定できません。複数の文字列が指定された場合、どれかひとつが一致すればこのフィルタ条件が成立となります。大文字・小文字、全角・半角は区別して比較します。

「送信元メールアドレス」「メール本文」にも指定がある場合、AND 条件（指定した、すべての項目が成立した場合）で成立となります。

(4) 「メール本文」テキストフィールド

メール本文に含まれる文字列を 1000 文字以内で指定します。含まれる文字列を比較するため、必ずしも、本文の全文を指定する必要はありません。半角セミコロン区切りで複数の文字列を最大 20 個まで指定できます。空文字は指定できません。複数の文字列が指定された場合、どれかひとつが一致すればこのフィルタ条件が成立となります。大文字・小文字、全角・半角は区別して比較します。

「送信元メールアドレス」「メール件名」にも指定がある場合、AND 条件（指定した、すべての項目が成立した場合）で成立となります。

メール本文の範囲：

マルチパートメール（テキスト形式や HTML 形式、添付ファイルなどの複数のデータ形式を内包したメール）の場合、Content-Type ヘッダの値が text/plain であるパートをメール本文として扱います。

例えば、メールに添付されたテキストファイルの内容は、メール本文として扱いますが、ワードやエクセルのファイル、Outlook のメールメッセージファイル（拡張子 .msg）などは、メール本文として扱いません。

(5) 「呼び出し先連絡網名」ドロップダウンリスト (必須項目)

受信したメールの内容が、指定されたすべてのフィルタ条件（「送信元メールアドレス」「メール件名」「メール本文」）が成立した場合、実行する連絡網名をリストから選択します。リストには、登録済の連絡網が表示されます。

(6) 「通知内容」テキストフィールド (必須項目)

通知内容を 10,000 文字以内で指定します。変数が指定されている場合、変数の値を変換した変換後の文字数が 10,000 文字を超えた場合、10,000 文字を超えた部分を切り捨てます。

通知内容には、受信メールの内容が引き継げるように、以下の変数が使用できます。

~MailFrom~ : 受信メールの送信元メールアドレス (From) に置き換えます。

~MailSubject~ : 受信メールのメール件名 (Subject) に置き換えます。

~MailBody~ : 受信メールの本文に置き換えます。

上記の変数は、本項目のみで指定が可能です。

(7) 「通知内容 (メール件名)」テキストフィールド

呼び出し先連絡網にメール通知が含まれている場合、メール件名の指定が可能です。メール件名を 200 文字以内で指定します。変数が指定されている場合、変数の値を変換した変換後の文字数が 200 文字を超えた場合、200 文字を超えた部分を切り捨てます。

通知内容には、受信メールの内容が引き継げるように、以下の変数が使用できます。

~MailSubject~ : 受信メールのメール件名 (Subject) に置き換えます。

上記の変数は、本項目のみで指定が可能です。

本項目を省略した場合、メール件名には「[notifysaas] ルール名」が使用されます

(8) 「CANCEL」ボタン

すべての変更内容を破棄し、受信メール連携一覧に戻ります。

(9) 「SAVE」ボタン

受信メール連携ルールを登録し、受信メール連携一覧に戻ります。

5.27 発信履歴レポート画面

発信履歴レポート画面では、期間などを指定し、集計した「通知一覧レポート」をデータ表で表示します。また、発信履歴を元に、連絡網の電話通知の発信順序を自動調整する機能も提供しています。

発信履歴レポート画面の先頭項目「レポート種別」のドロップダウンリストを選択して、表示する画面を選択します。

「レポート種別」ドロップダウンリスト

表示するレポートの種別は「通知一覧レポート」「電話通知レポート」の2種類です。初期値は「通知一覧レポート」です。

表 5.27-1 レポートの種類

名称	説明
通知一覧レポート	通知内容の一覧を「データ表」に表示します。内容には、発信日時、連絡網名、通知メディア、通知先ユーザ、結果などを表示します。
電話通知レポート	電話通知の一覧を「データ表」に表示します。内容には、ユーザ名、連絡網名、電話番号、成功回数、失敗回数、失敗割合を表示します。

5.27.1 通知一覧レポート

レポート種別で「通知一覧レポート」を選択した場合、表示します。

ID	発信開始日時	発信完了日時	連絡網発信識別子	連絡網名	連絡網呼び出し回数	通知メディア	通知先ユーザ名	発信
TSNotify-20230824-182431-407954e-1636-	2023-08-24 18:24:31.549	2023-08-24 18:24:34.784	TSNotify-20220325-155448-79d0097c-3659-		1	Teams		https://hitachigroup.webhook.office.com/webhooks/24c9d1c-d8c358b6cabe@f54277c9-dafe-44aa-85a4-
TSNotify-20230824-182430-e06234a-8722-	2023-08-24 18:24:30.781	2023-08-24 18:24:31.384	TSNotify-20220325-155448-79d0097c-3659-		1	Slack(チャンネル)	お知らせ	
TSNotify-20230824-182154-5578d8a-7692-	2023-08-24 18:21:55.135	2023-08-24 18:22:03.279	TSNotify-20220325-155448-79d0097c-3659-		1	LINE(トークルーム)	1339	
TSNotify-20230824-181325-16e7bc39-808b-	2023-08-24 18:13:25.303	2023-08-24 18:13:56.988	TSNotify-20220325-155448-79d0097c-3659-		1	Slack(アカウント)		

図 5.27-1 通知一覧レポート画面（表示例）

- レポート期間（開始，終了）を入力すると、発信履歴を検索し「データ表」に結果を表示します。

(1) 「レポート範囲」ドロップダウンリスト

表示するレポートの範囲を「月」または「日」から選択します。任意の単位での集計は行えません。選択した値のレポートを即時に作成し表示します。

(2) 「開始」～「終了」テキストフィールド

集計する期間を指定します。指定された値のレポートを即時に作成して表示します。

- ・レポート範囲が「月」の場合：

開始年月(YYYY/MM)，終了年月(YYYY/MM)を設定します。

指定期間の最大は、3か月以内で指定します。

- ・レポート範囲が「日」の場合：

開始年月日(YYYY/MM/DD)，終了年月日(YYYY/MM/DD)を設定します。

指定期間の最大は、90日以内で指定します。

テキストフィールドをクリックするとカレンダー（デートピッカー）がポップアップされますので、年月または年月日を選択して指定することが可能です。

(3) 「CSVダウンロード」ボタン

本ボタンを押下することで、上記の項目で指定された条件の全レコードを CSV 形式のファイルでダウンロードします。

(4) 「データ表」

対象のレポート内容を一覧で表示します。項目名部分をクリックすることで表示順序（ソート順序）を変更することが可能です。

表示項目は、「識別子」「発信開始日時」「発信完了日時」「連絡網発信識別子」「連絡網名」「連絡網繰り返し回数」「通知メディア」「通知先ユーザ名」「宛先」「結果」「失敗理由」「接続元 IP アドレス」「トリガー元」となります。

5.27.2 電話通知レポート

レポート種別で「電話通知レポート」を選択した場合、表示します。

レポート設定

レポート種別
電話通知レポート

レポート範囲
月

開始月(YYYY/MM) 2022/08 ~ 終了月(YYYY/MM) 2022/10

閾値*
1

閾値種別
 失敗回数 失敗割合
 閾値を超えた値を表示
 判定閾値を超えた宛先の順序または登録の見直しを推奨します。

フィルタ情報を反映

ユーザ名	連絡網名	電話番号	成功回数	失敗回数	失敗割合 ↓	自動調整
user001	systemwarn	+81xxxxxxxxxxx	1	10	90	自動調整
user002	systemwarn	+81xxxxxxxxxxx	10	0	0	自動調整
user003	systemwarn	+81xxxxxxxxxxx	10	1	9	自動調整

Rows per page: 50 1-3 of 3

図 5.27-2 電話通知レポート画面（表示例）

- 入力が必要な項目に関しては、「項目名*」（項目名の最後にアスタリスクを付与）で表示しています。
- レポート期間（開始，終了），閾値，閾値種別を入力し，フィルタ条件を反映のボタンを押下することで，電話通知の発信履歴を検索し「データ表」に結果を表示します。
- データ表から，発信順序を操作するユーザを探します。失敗回数や失敗割合が高いユーザほど，電話通知で発信順序を下げた方が良いユーザと判断できますが，お客様の都合により優先するユーザは異なりますので，ニーズに合わせてデータ表を参照ください。
- 上記の表示例では，user001 の失敗回数が 10 回，失敗割合が 90% と高いため，発信順序を下げた方が良いユーザと判断できます。
- 自動調整ボタンを押下することで，該当ユーザの電話通知の発信順序を，該当連絡網の一番最後の通知先に変更します。

(1) 「レポート範囲」ドロップダウンリスト

表示するレポートの範囲を「月」または「日」から選択します。任意の単位での集計は行えません。

(2) 「開始」～「終了」テキストフィールド

集計する期間を指定します。

- レポート範囲が「月」の場合：

開始年月(YYYY/MM)，終了年月(YYYY/MM)を設定します。

指定期間の最大は、3 か月以内で指定します。

- ・レポート範囲が「日」の場合：

開始年月日(YYYY/MM/DD)，終了年月日(YYYY/MM/DD)を設定します。

指定期間の最大は、90 日以内で指定します。

テキストフィールドをクリックするとカレンダー（デートピッカー）がポップアップされますので、年月または年月日を選択して指定することが可能です。

(3) 「閾値」テキストフィールド（必須項目）

閾値種別が「失敗回数」の場合、0 から 9999999999 までの数値（回数）を指定します。

閾値種別が「失敗割合」の場合、0 から 100 までの数値（%）を指定します。

初期値は 1 です。

(4) 「閾値種別」ラジオボタン

「失敗回数」または「失敗割合」から選択します。初期値は「失敗回数」です。

(5) 「閾値を超えた値を表示」スイッチ

閾値以上の値のみを表示するかどうかを指定します。初期値は「OFF（超えていない値も表示する）」です。

(6) 「フィルタ条件を反映」ボタン

本ボタンを押下することで、上記の項目で指定された条件のレポートを表示します。

(7) 「データ表」

対象のレポート内容を一覧で表示します。表示項目は、「ユーザ名」「連絡網名」「電話番号」「成功回数」「失敗回数」「失敗割合」です。

閾値以上のデータは赤文字で表示します。

表示されるデータは、発信履歴から作成しているため、削除した連絡網定義 や 連絡網から削除したユーザの値でも、条件に含まれている場合には表示されます。

(8) 「自動調整」ボタン（データ表の各行の右端に表示）

該当ユーザの電話通知の発信順序を、該当連絡網の一番最後の通知先に変更します。

「自動調整」ボタンの押下後、確認ダイアログが表示され「OK」を押下すると、変更が実施されます。

- ・該当ユーザの電話通知が既に連絡網の一番最後に設定されている場合

「このユーザは既に連絡網の一番最後の通知先に設定されています。」のメッセージが表示されます。

- ・該当連絡網が存在しない場合

「自動調整対象連絡網が存在しません。」のメッセージが表示されます。

- ・該当連絡網に該当ユーザの電話通知が存在しない場合

5. Web 画面

「自動調整対象の通知先設定がありません。」のメッセージが表示されます。

6. コマンド

この章では、TELstaff クラウド型通報管理サービスが提供するコマンドインターフェースについて説明します。

6.1 コマンド一覧

6.2 通報管理サービスのコマンド (tlscbase)

6.2.1 電話発信コマンド (tlscbase tel notify)

6.2.2 SMS発信コマンド (tlscbase sms notify)

6.2.3 メール発信コマンド (tlscbase mail notify)

6.2.4 LINE WORKS投稿コマンド (tlscbase line notify)

6.2.5 Slack投稿コマンド (tlscbase slack notify)

6.2.6 Microsoft Teams投稿コマンド (tlscbase teams notify)

6.2.7 連絡網発信コマンド (tlscbase net notify)

6.2.8 発信結果問い合わせコマンド (tlscbase inquiry notify)

6.2.9 通知先ユーザ定義登録コマンド (tlscbase user import)

6.2.10 通知先ユーザ定義取得コマンド (tlscbase user export)

6.2.11 通知先ユーザ定義削除コマンド (tlscbase user delete)

6.2.12 連絡網定義登録コマンド (tlscbase net import)

6.2.13 連絡網定義取得コマンド (tlscbase net export)

6.2.14 連絡網定義削除コマンド (tlscbase net delete)

6.2.15 LINE WORKS トークルーム作成コマンド (tlscbase line roomcreate)

6.2.16 発信情報件数問い合わせコマンド (tlscbase inquiry count)

6.2.17 発信情報削除コマンド (tlscbase delete notify)

6.2.18 ログ取得コマンド (tlscbase logget)

6.2.19 コマンドの通知文ファイル等に使用できる変数

6.1 コマンド一覧

本サービスが提供するコマンドを以下に示します。

表 6.1-1 コマンド一覧

コマンド名	説明	発信機能	運用管理機能
tlsbase tel notify	電話発信コマンド	○	—
tlsbase sms notify	SMS 発信コマンド	○	—
tlsbase mail notify	メール発信コマンド	○	—
tlsbase line notify	LINE WORKS 投稿コマンド	○	—
tlsbase slack notify	Slack 投稿コマンド	○	—
tlsbase teams notify	Microsoft Teams 投稿コマンド	○	—
tlsbase net notify	連絡網発信コマンド	○	—
tlsbase inquiry notify	発信結果問い合わせコマンド	—	○
tlsbase user import	通知先ユーザ定義登録コマンド	—	○
tlsbase user export	通知先ユーザ定義取得コマンド	—	○
tlsbase user delete	通知先ユーザ定義削除コマンド	—	○
tlsbase net import	連絡網定義登録コマンド	—	○
tlsbase net export	連絡網定義取得コマンド	—	○
tlsbase net delete	連絡網定義削除コマンド	—	○
tlsbase line roomcreate	LINE WORKS トークルーム作成コマンド	—	○
tlsbase inquiry count	発信情報件数問い合わせコマンド	—	○
tlsbase delete notify	発信情報削除コマンド	—	○
tlsbase logget	ログ取得コマンド	—	○

【記号】 ○:コマンドの機能を表します。

6.2 通報管理サービスのコマンド (tlsbase)

本サービスの `tlsbase` コマンドは、通報管理サービスよりダウンロードしたコマンド等の圧縮ファイルからコピーし配置して、お客様環境から通知の依頼などを行う場合に使用します。配置方法と必要な設定に関しては「3.2 コマンド配置と設定ファイル」を参照ください。

(1) `tlsbase`コマンド共通事項

(a) 本サービスとの通信に関して

`tlsbase` コマンドと本サービスは通信プロトコルを使用し、通知の依頼などを実施します。`tlsbase` コマンドを動作させる環境では、https 通信のプロトコルが有効で、かつ本サービスとの接続が可能な環境が必要となります。https 通信ができない場合、本サービスとの接続が不可能な場合には、`tlsbase` コマンドはエラー終了します。

TLS に関しては、TLS1.2 のみをサポートしています。

通信環境の設定は、お客様ごとに環境 (OS の設定、ファイヤーウォールの設定、プロキシサーバの設定など) が異なりますので、必要な際はお客様側のシステム管理者へ問い合わせをおこない、本サービスとの通信が可能となるよう環境の整備を実施してください。

(b) プロキシサーバ設定

`tlsbase` コマンドが本サービスにアクセスする際、プロキシサーバを経由する場合には、OS のシステム環境変数にプロキシサーバの情報を設定します。なお、認証方法は、BASIC 認証のみサポートしています。

以下に、Windows の環境変数の設定例を記載します。

例 1) ユーザ認証なしの場合

```
http[s]://プロキシサーバ名[:ポート番号]
```

設定例)

```
HTTP_PROXY= http://proxy_addr:8080
```

```
HTTPS_PROXY= http://proxy_addr:8080
```

例 2) ユーザ認証ありの場合

```
http[s]://ユーザ名:パスワード@プロキシサーバ名[:ポート番号]
```

設定例)

```
HTTP_PROXY=http://user:pass@proxy_addr:8080
```

```
HTTPS_PROXY=http://user:pass@proxy_addr:8080
```

※上記の設定例に記載した構文、ユーザ名、パスワード、プロキシサーバアドレス、ポート番号は例であり、架空の値です。また、`HTTP_PROXY` や `HTTPS_PROXY` の設定 (必要かどうかを含め) に関しても、お客様側のシステム管理者へ問い合わせを行い、ご使用の環境に適した値を設定してください。

6. コマンド

(c) その他注意事項

- `tlscbase` コマンドを実行するには、実行元がすでに管理者権限に昇格している状態である、あるいは実行時に管理者として実行する必要があります。
- `tlscbase` コマンドを実行する場合は、完全パスで指定するか、Windows の PATH 設定をしてください。
- ファイル名を指定するコマンドにおいては、外部デバイスファイル（予約デバイスファイル）の名前は指定できません。
- Windows サービスの延長でコマンドを実行する場合は、ネットワークドライブ上のファイルは指定できません。
- ファイル完全名に空白文字が含まれる場合は「”」（ダブルコーテーション）でファイル完全名を囲んで指定する必要があります。
- コマンドの引数に空白文字が含まれる場合は「”」（ダブルコーテーション）で引数を囲んで指定する必要があります。
- 同一引数を複数指定した場合は、最後の引数を有効とします。
- `tlscbase` コマンドのログは、3 章「3.2(2) コマンド設定ファイルを編集する」の `LogPath` キーで設定したフォルダ配下に「コマンド実行記録ログ(`tlscbase.log`)」が出力されます。
- コマンドの戻り値が 2 で終了した場合、リトライできる可能性があります。
- コマンドが出力するログの時刻はシステムで設定されたタイムゾーンとなります。

(2) コマンド設定ファイルに関して

`tlscbase` コマンドを使用するためには、あらかじめ設定ファイルに必要事項を記載しておく必要があります。コマンド設定ファイル(`tlscbase.conf`)の設定内容に関しては、3 章 セットアップの「3.2(2) コマンド設定ファイルを編集する」を参照ください。

6.2.1 電話発信コマンド

(1) 機能

電話 API サービスを使用し、電話発信の依頼を実行します。

(2) 形式

```
tlscbase tel notify
  -u ユーザ名
  -f 通知文ファイル名 [ --fenc { SJIS | UTF8 } ]
  --index { 1 | 2 | 3 | 4 }
  [ --profile プロファイルファイル名 ]
  [ -h ]
```

(3) 引数

(a) -u ユーザ名

電話発信を行う通知先のユーザ名を指定します。複数のユーザ名は指定できません。指定するユーザ名は、あらかじめ、ユーザ定義情報に登録されている必要があります。ユーザ定義情報に登録されていない任意のユーザには、電話発信は行えません。

例) -u ユーザ A

(b) -f 通知文ファイル名

通知するメッセージを格納したファイルを完全名で指定します。指定したファイルの内容を音声通知します。通知メッセージ中には「6.2.19 コマンドの通知文ファイル等に使用できる変数」に示す変数の指定が可能です。通知文ファイルに関しては「4.5 通知文ファイルに関して」を参照ください。

(c) --index 電話番号 1～4

通知先ユーザのユーザ定義情報に登録された電話番号 1～4 のうち、発信する電話番号を指定します。1～4 のいずれかの値を 1 つだけ指定します。1～4 の複数の指定はできません。

(d) --fenc { SJIS | UTF8 }

-f で指定した通知文ファイルの文字コードを指定します。省略すると SJIS が使用されます。

(e) --profile プロファイルファイル名 (コマンド設定ファイル名)

設定を格納したコマンド設定ファイルを完全名で指定します。本オプションを省略した場合、3 章「3.2(2)コマンド設定ファイルを編集する」で準備した標準のコマンド設定ファイルが使用されます。

6. コマンド

(f) -h

本コマンドの使用方法を表示します。本オプションを指定した場合、他の引数はすべて無視されます。また、戻り値は常に成功扱いとなります。

(4) 注意事項

- 指定した通知文ファイルが見つからない場合、コマンドの戻り値は 1 となります。また、指定した通知文ファイルの内容が 1 文字も無い場合、コマンドの戻り値は 2 となります。
- 発信制限の内容、外部通信サービス側の注意事項に関しては、「4.1 発信制限に関して」「4.3 外部通信サービス側の注意事項に関して」を参照ください。

(5) 標準出力

コマンドが戻り値「0」で終了した場合、標準出力に発信内容に関する情報をJSON形式で出力します。

出力されるJSONプロパティと出力例を以下に示します。

表 6.2-1 実行結果のプロパティ

プロパティ名	JSON 型	説明
ok	bool	コマンドの成否を表すbool値で常にtrueが設定されます。
sid	string	発信した状態を後で確認するための発信識別子を出力します。

出力例

```
{
  "ok": true,
  "sid": "TSNotify-20210318.145557-96806c80-3791-4874-8f1b-8c8da753xxxx"
}
```

上記の例は、見やすいよう整形していますが、実際の出力では整形は行いません。

(6) 戻り値

戻り値	説明
0	発信を開始したことを意味します。発信先が応答しない、話し中などで相手との通知が成功しない場合でも、戻り値は 0 になります。
1	発信が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 1 は、引数の誤り、指定したファイルのエラー、予期しないエラーを示します。
2	発信が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 2 は https 通信系エラーを示します。

tlscbase コマンドの実行結果はコマンド実行記録ログで確認できます。

(7) 使用例

例：

ユーザ：ユーザ A へ、"cbmsg-501.txt" の内容を電話通知する。

c:¥temp¥cbmsg-501.txt の内容

「こちらは、バックアップ監視システムです。{%y年%m月%d日}{%H時%M分%S秒}サーバのバックアップ中にエラーが発生しました。状況を確認してください。」

```
tlscbase tel notify -u ユーザA -f c:¥temp¥cbmsg-501.txt --index 1
```

6.2.2 SMS発信コマンド

(1) 機能

電話 API サービスである Twilio を使用し、SMS 発信の依頼を実行します。

(2) 形式

```
tlscbase sms notify
  -u ユーザ名
  -f 通知文ファイル名 [ --fenc { SJIS | UTF8 } ]
  [ --profile プロファイルファイル名 ]
  [ -h ]
```

(3) 引数

(a) -u ユーザ名

SMS 発信を行う発信先ユーザ名を指定します。複数のユーザ名は指定できません。指定するユーザ名は、あらかじめ、ユーザ定義情報に登録されている必要があります。ユーザ定義情報に登録されていない任意のユーザには、SMS 発信は行えません。

例) -u ユーザ A

(b) -f 通知文ファイル名

通知するメッセージを格納したファイルを完全名で指定します。指定したファイルの内容を SMS で通知します。通知メッセージ中には「6.2.19 コマンドの通知文ファイル等に使用できる変数」に示す変数の指定が可能です。通知文ファイルに関しては「4.5 通知文ファイルに関して」を参照ください。

(c) --fenc { SJIS | UTF8 }

-f で指定した通知文ファイルの文字コードを指定します。省略すると SJIS が使用されます。

(d) --profile プロファイルファイル名 (コマンド設定ファイル名)

設定を格納したコマンド設定ファイルを完全名で指定します。本オプションを省略した

6. コマンド

場合、3章「3.2(2)コマンド設定ファイルを編集する」で準備した標準のコマンド設定ファイルが使用されます。

(e) -h

本コマンドの使用方法を表示します。本オプションを指定した場合、他の引数はすべて無視されます。また、戻り値は常に成功扱いとなります。

(4) 注意事項

- 指定した通知文ファイルが見つからない場合、コマンドの戻り値は 1 となります。また、指定した通知文ファイルの内容が 1 文字も無い場合、コマンドの戻り値は 2 となります。
- 発信制限の内容、外部通信サービス側の注意事項に関しては、「4.1 発信制限に関して」「4.3 外部通信サービス側の注意事項に関して」を参照ください。

(5) 標準出力

コマンドが戻り値「0」で終了した場合、標準出力に発信内容に関する情報をJSON形式で出力します。
出力されるJSONプロパティと出力例を以下に示します。

表 6.2-2 実行結果のプロパティ

プロパティ名	JSON 型	説明
ok	bool	コマンドの成否を表すbool値で常にtrueが設定されます。
sid	string	発信した状態を後で確認するための発信識別子を出力します。

出力例

```
{
  "ok": true,
  "sid": "TSNotify-20210318.145557-96806c80-3791-4874-8f1b-8c8da753xxxx"
}
```

上記の例は、見やすいよう整形していますが、実際の出力では整形は行いません。

(6) 戻り値

戻り値	説明
0	発信を開始したことを意味します。
1	発信が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 1 は、引数の誤り、指定したファイルのエラー、予期しないエラーを示します。
2	発信が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 2 は https 通信系エラーを示します。

tlsbase コマンドの実行結果はコマンド実行記録ログで確認できます。

(7) 使用例

例：

ユーザ「ユーザ A」へ、"cbmsg-501.txt"の内容を SMS 発信する。

c:¥temp¥cbmsg-501.txt の内容

「こちらは、バックアップ監視システムです。{%y 年%m 月%d 日} {%H 時%M 分%S 秒} サーバのバックアップ中にエラーが発生しました。状況を確認してください。」

```
tlscbase sms notify -u ユーザA -f c:¥temp¥cbmsg-501.txt
```

6.2.3 メール発信コマンド

(1) 機能

メールサーバ情報に登録されたメールサーバに、メール送信の依頼を実行します。

(2) 形式

```
tlscbase mail notify
-u ユーザ名
-s メール件名
-f 通知文ファイル名 [ -fenc { SJIS | UTF8 } ]
[ -profile プロファイルファイル名 ]
[ -h ]
```

(3) 引数

(a) -u ユーザ名

メール送信を行う送信先ユーザ名を指定します。複数のユーザ名は指定できません。指定するユーザ名は、あらかじめ、ユーザ定義情報に登録されている必要があります。ユーザ定義情報に登録されていない任意のユーザには、メール発信は行えません。

指定したユーザのユーザ情報に登録されたすべてのメールアドレス（ユーザ定義情報のメールアドレス 1～4）に送信します。

例) -u ユーザ A

(b) -s メール件名

メールの件名を指定します。200 文字以内で指定します。

(c) -f 通知文ファイル名

通知するメッセージを格納したファイルを完全名で指定します。指定したファイルの内容をメールにて送信します。通知メッセージ中には「6.2.19 コマンドの通知文ファイル等に使用できる変数」に示す変数の指定が可能です。通知文ファイルに関しては「4.5 通知文

6. コマンド

ファイルに関して」を参照ください。

(d) `--fenc { SJIS | UTF8 }`

`-f`で指定した通知文ファイルの文字コードを指定します。省略すると **SJIS** が使用されます。

(e) `--profile` プロファイルファイル名 (コマンド設定ファイル名)

設定を格納したコマンド設定ファイルを完全名で指定します。本オプションを省略した場合、3章「3.2(2)コマンド設定ファイルを編集する」で準備した標準のコマンド設定ファイルが使用されます。

(f) `-h`

本コマンドの使用方法を表示します。本オプションを指定した場合、他の引数はすべて無視されます。また、戻り値は常に成功扱いとなります。

(4) 注意事項

- 指定した通知文ファイルが見つからない場合、コマンドの戻り値は 1 となります。また、指定した通知文ファイルの内容が 1 文字も無い場合、コマンドの戻り値は 2 となります。
- 発信制限の内容、外部通信サービス側の注意事項に関しては、「4.1 発信制限に関して」「4.3 外部通信サービス側の注意事項に関して」を参照ください。

(5) 標準出力

コマンドが戻り値「0」で終了した場合、標準出力に発信内容に関する情報をJSON形式で出力します。
出力されるJSONプロパティと出力例を以下に示します。

表 6.2-3 実行結果のプロパティ

プロパティ名	JSON 型	説明
ok	bool	コマンドの成否を表すbool値で常にtrueが設定されます。
sid	string	発信した状態を後で確認するための発信識別子を出力します。

出力例

```
{
  "ok": true,
  "sid": "TSNotify-20210318.145557-96806c80-3791-4874-8f1b-8c8da753xxxx"
}
```

上記の例は、見やすいよう整形していますが、実際の出力では整形は行いません。

(6) 戻り値

戻り値	説明
-----	----

0	発信を開始したことを意味します。
1	発信が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 1 は、引数の誤り、指定したファイルのエラー、予期しないエラーを示します。
2	発信が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 2 は https 通信系エラーを示します。

tlscbase コマンドの実行結果はコマンド実行記録ログで確認できます。

(7) 使用例

例：

ユーザ「ユーザ A」へ、件名「障害情報」で、"cbmsg-501.txt"の内容をメール送信する。

c:¥temp¥cbmsg-501.txt の内容

「こちらは、バックアップ監視システムです。{%y年%m月%d日}{%H時%M分%S秒}サーバのバックアップ中にエラーが発生しました。状況を確認してください。」

```
tlscbase mail notify -u ユーザA -s "障害情報" -f c:¥temp¥cbmsg-501.txt
```

6.2.4 LINE WORKS投稿コマンド

(1) 機能

LINE WORKS のメンバーまたはトークルームへメッセージの発信を依頼します。

(2) 形式

```
tlscbase line notify
  { -u ユーザ名 | { --room トークルーム名 | --roomID トークルームID }
  --line_profile LINE WORKSプロファイル名 }
  -f 通知文ファイル名 [ --fenc { SJIS | UTF8 } ]
  [ --profile プロファイルファイル名 ]
  [ -h ]
```

(3) 引数

(a) -u ユーザ名

メッセージを送信する送信先ユーザ名を指定します。複数のユーザ名は指定できません。指定するユーザ名は、あらかじめ、ユーザ定義情報に登録されている必要があります。ユーザ定義情報に登録されていない任意のユーザには投稿できません。

ユーザ名を使用する場合、LINE WORKS プロファイル名はユーザ情報登録時に紐づけられているため、指定する必要はありません。

例) -u ユーザ A

6. コマンド

(b) { --room トークルーム名 | --roomID トークルームID } --line_profile LINE WORKSプロファイル名 }

メッセージを送信する LINE WORKS の「トークルーム名」または「トークルーム ID」を指定します。「トークルーム名」または「トークルーム ID」を指定する場合は、同時に LINE WORKS プロファイル名を指定します。指定する LINE WORKS プロファイルに登録された Bot No は、投稿を行うトークルームに招待されている必要があります。

例 1) トークルーム名の場合

```
--room お知らせ --line_profile LWProf1
```

例 2) トークルーム ID の場合

```
--roomID 728226 --line_profile LWProf1
```

(c) -f 通知文ファイル名

通知するメッセージを格納したファイルを完全名で指定します。指定したファイルの内容を通知します。通知メッセージ中には「6.2.19 コマンドの通知文ファイル等に使用できる変数」に示す変数の指定が可能です。通知文ファイルに関しては「4.5 通知文ファイルに関して」を参照ください。

(d) --fenc { SJIS | UTF8 }

-f で指定した通知文ファイルの文字コードを指定します。省略すると SJIS が使用されます。

(e) --profile プロファイルファイル名 (コマンド設定ファイル名)

設定を格納したコマンド設定ファイルを完全名で指定します。本オプションを省略した場合、3 章「3.2(2)コマンド設定ファイルを編集する」で準備した標準のコマンド設定ファイルが使用されます。

(f) -h

本コマンドの使用方法を表示します。本オプションを指定した場合、他の引数はすべて無視されます。また、戻り値は常に成功扱いとなります。

(4) 注意事項

- 指定した通知文ファイルが見つからない場合、コマンドの戻り値は 1 となります。また、指定した通知文ファイルの内容が 1 文字も無い場合、コマンドの戻り値は 2 となります。
- 発信制限の内容、外部通信サービス側の注意事項に関しては、「4.1 発信制限に関して」「4.3 外部通信サービス側の注意事項に関して」を参照ください。

(5) 標準出力

コマンドが戻り値「0」で終了した場合、標準出力に発信内容に関する情報を JSON形式で

出力します。
出力されるJSONプロパティと出力例を以下に示します。

表 6.2-4 実行結果のプロパティ

プロパティ名	JSON 型	説明
ok	bool	コマンドの成否を表すbool値で常にtrueが設定されます。
sid	string	発信した状態を後で確認するための発信識別子を出力します。

出力例

```
{
  "ok": true,
  "sid": "TSNotify-20210318.145557-96806c80-3791-4874-8f1b-8c8da753xxxx"
}
```

上記の例は、見やすいよう整形していますが、実際の出力では整形は行いません。

(6) 戻り値

戻り値	説明
0	発信を開始したことを意味します。
1	発信が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が1は、引数の誤り、指定したファイルのエラー、予期しないエラーを示します。
2	発信が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が2はhttps通信系エラーを示します。

tlscbase コマンドの実行結果はコマンド実行記録ログで確認できます。

(7) 使用例

例 1 :

ユーザ「ユーザ A」へ、「cbmsg-501.txt」の内容をメッセージ送信する。

c:¥temp¥cbmsg-501.txt の内容

「こちらは、バックアップ監視システムです。{%y年%m月%d日}{%H時%M分%S秒}サーバのバックアップ中にエラーが発生しました。状況を確認してください。」

```
tlscbase line notify -u ユーザA -f c:¥temp¥cbmsg-501.txt
```

例 2 :

トークルーム名「お知らせ」へ、LINE WOKRS プロファイル名「LWProf1」を使用し、「cbmsg-501.txt」の内容をメッセージ送信する。

```
tlscbase line notify --room お知らせ --line_profile LWProf1 -f c:¥temp¥cbmsg-501.txt
```

6. コマンド

6.2.5 Slack投稿コマンド

(1) 機能

Slack のメンバーまたはチャンネルへメッセージの発信を依頼します。

(2) 形式

```
tlscbase slack notify
  { -u ユーザ名 | --name チャンネル名 --slack_profile Slackプロフィール名 }
  -f 通知文ファイル名 [ --fenc { SJIS | UTF8 } ]
  [ --profile プロファイルファイル名 ]
  [ -h ]
```

(3) 引数

(a) -u ユーザ名

メッセージを送信する送信先ユーザ名を指定します。複数のユーザ名は指定できません。指定するユーザ名は、あらかじめ、ユーザ定義情報に登録されている必要があります。ユーザ定義情報に登録されていない任意のユーザには投稿できません。

ユーザ名を使用する場合、Slack プロファイル名はユーザ情報登録時に紐づけられているため、指定する必要はありません。

例) -u ユーザ A

(b) --name チャンネル名 --slack_profile Slackプロフィール名

メッセージを送信する Slack のチャンネル名を指定します。チャンネル名を指定する場合は、同時に Slack プロファイル名を指定します。指定する Slack プロファイルに登録された Token には、必要な権限が付与されている必要があります。

例) --name お知らせ --slack_profile SProf1

(c) -f 通知文ファイル名

通知するメッセージを格納したファイルを完全名で指定します。指定したファイルの内容を通知します。通知メッセージ中には「6.2.19 コマンドの通知文ファイル等に使用できる変数」に示す変数の指定が可能です。通知文ファイルに関しては「4.5 通知文ファイルに関して」を参照ください。

(d) --fenc { SJIS | UTF8 }

-f で指定した通知文ファイルの文字コードを指定します。省略すると SJIS が使用されます。

(e) `--profile` プロファイルファイル名 (コマンド設定ファイル名)

設定を格納したコマンド設定ファイルを完全名で指定します。本オプションを省略した場合、3章「3.2(2)コマンド設定ファイルを編集する」で準備した標準のコマンド設定ファイルが使用されます。

(f) `-h`

本コマンドの使用方法を表示します。本オプションを指定した場合、他の引数はすべて無視されます。また、戻り値は常に成功扱いとなります。

(4) 注意事項

- 指定した通知文ファイルが見つからない場合、コマンドの戻り値は 1 となります。また、指定した通知文ファイルの内容が 1 文字も無い場合、コマンドの戻り値は 2 となります。
- 発信制限の内容、外部通信サービス側の注意事項に関しては、「4.1 発信制限に関して」「4.3 外部通信サービス側の注意事項に関して」を参照ください。

(5) 標準出力

コマンドが戻り値「0」で終了した場合、標準出力に発信内容に関する情報をJSON形式で出力します。
出力されるJSONプロパティと出力例を以下に示します。

表 6.2-5 実行結果のプロパティ

プロパティ名	JSON 型	説明
ok	bool	コマンドの成否を表すbool値で常にtrueが設定されます。
sid	string	発信した状態を後で確認するための発信識別子を出力します。

出力例

```
{
  "ok": true,
  "sid": "TSNotify-20210318.145557-96806c80-3791-4874-8f1b-8c8da753xxxx"
}
```

上記の例は、見やすいよう整形していますが、実際の出力では整形は行いません。

(6) 戻り値

戻り値	説明
0	発信を開始したことを意味します。
1	発信が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 1 は、引数の誤り、指定したファイルのエラー、予期しないエラーを示します。
2	発信が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 2 は https 通信系エラーを示します。

tlsbase コマンドの実行結果はコマンド実行記録ログで確認できます。

6. コマンド

(7) 使用例

例 1 :

ユーザ「ユーザ A」へ、"cbmsg-501.txt"の内容をメッセージ送信する。

c:¥temp¥cbmsg-501.txt の内容

「こちらは、バックアップ監視システムです。{%y年%m月%d日}{%H時%M分%S秒}
サーバのバックアップ中にエラーが発生しました。状況を確認してください。」

```
tlscbase slack notify -u ユーザA -f c:¥temp¥cbmsg-501.txt
```

例 2 :

チャンネル名「おしらせ」へ、Slack プロファイル名「SProf1」を使用し、"cbmsg-501.txt"の内容をメッセージ送信する。

```
tlscbase slack notify --name お知らせ --slack_profile SProf1 -f c:¥temp¥cbmsg-501.txt
```

6.2.6 Microsoft Teams投稿コマンド

(1) 機能

Microsoft Teams のチャンネルに対して Incoming Webhook を使用してメッセージの発信を依頼します。

(2) 形式

```
tlscbase teams notify  
  --teams_profile Microsoft Teamsプロファイル名  
  -f 通知文ファイル名 [ --fenc { SJIS | UTF8 } ]  
  [ --profile プロファイルファイル名 ]  
  [ -h ]
```

(3) 引数

(a) --teams_profile Microsoft Teamsプロファイル名

メッセージを送信する Microsoft Teams プロファイル名を指定します。

例) --teams_profile TProf1

(b) -f 通知文ファイル名

通知するメッセージを格納したファイルを完全名で指定します。指定したファイルの内容を通知します。通知メッセージ中には「6.2.19 コマンドの通知文ファイル等に使用できる変数」に示す変数の指定が可能です。通知文ファイルに関しては「4.5 通知文ファイルに関して」を参照ください。

Microsoft Teams のチャンネルに対し、投稿するメッセージは、Markdown(マークダウン)記法で記述する必要があります。Markdown(マークダウン)記法されていない場合、Microsoft Teams の仕様により、改行などが削除されます。詳細に関しては、Microsoft Teams へお問い合わせください。

(c) **—fenc { SJIS | UTF8 }**

-f で指定した通知文ファイルの文字コードを指定します。省略すると SJIS が使用されます。

(d) **—profile プロファイルファイル名 (コマンド設定ファイル名)**

設定を格納したコマンド設定ファイルを完全名で指定します。本オプションを省略した場合、3 章「3.2(2)コマンド設定ファイルを編集する」で準備した標準のコマンド設定ファイルが使用されます。

(e) **-h**

本コマンドの使用方法を表示します。本オプションを指定した場合、他の引数はすべて無視されます。また、戻り値は常に成功扱いとなります。

(4) 注意事項

- 指定した通知文ファイルが見つからない場合、コマンドの戻り値は 1 となります。また、指定した通知文ファイルの内容が 1 文字も無い場合、コマンドの戻り値は 2 となります。
- 発信制限の内容、外部通信サービス側の注意事項に関しては、「4.1 発信制限に関して」「4.3 外部通信サービス側の注意事項に関して」を参照ください。

(5) 標準出力

コマンドが戻り値「0」で終了した場合、標準出力に発信内容に関する情報をJSON形式で出力します。

出力されるJSONプロパティと出力例を以下に示します。

表 6.2-6 実行結果のプロパティ

プロパティ名	JSON 型	説明
ok	bool	コマンドの成否を表すbool値で常にtrueが設定されます。
sid	string	発信した状態を後で確認するための発信識別子を出力します。

出力例

```
{
  "ok": true,
  "sid": "TSNotify-20210318.145557-96806c80-3791-4874-8f1b-8c8da753xxxx"
}
```

上記の例は、見やすいよう整形していますが、実際の出力では整形は行いません。

6. コマンド

(6) 戻り値

戻り値	説明
0	発信を開始したことを意味します。
1	発信が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 1 は、引数の誤り、指定したファイルのエラー、予期しないエラーを示します。
2	発信が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 2 は https 通信系エラーを示します。

tlsbase コマンドの実行結果はコマンド実行記録ログで確認できます。

(7) 使用例

例：

Microsoft Teams プロファイル名「TProf1」を使用し、"cbmsg-501.txt"の内容をメッセージ送信する。

c:¥temp¥cbmsg-501.txt の内容

「こちらは、バックアップ監視システムです。{%y 年%m 月%d 日} {%H 時%M 分%S 秒} サーバのバックアップ中にエラーが発生しました。状況を確認してください。」

```
tlsbase teams notify --teams_profile TProf1 -f c:¥temp¥cbmsg-501.txt
```

6.2.7 連絡網発信コマンド

(1) 機能

連絡網に対して発信を行います。

(2) 形式

```
tlsbase net notify
  --ni 連絡網名
  [ -f 通知文ファイル名 ]
  [ --fv 電話通知文ファイル ]
  [ --fb SMS通知文ファイル ]
  [ --fm メール通知文ファイル ]
  [ --fl LINE WORKS通知文ファイル ]
  [ --fs Slack通知文ファイル ]
  [ --ft Microsoft Teams通知文ファイル ]
  [ --subject メール通知のメール件名 ]
  [ --fenc { SJIS | UTF8 } ]
  [ --profile プロファイルファイル名 ]
  [ --ae API実行変数ファイル名 ]
  [ -h ]
```

(3) 引数

(a) **--ni 連絡網名**

発信を開始する連絡網名を指定します。

(b) **-f 通知文ファイル名**

共通で使用する通知メッセージを格納したファイルを完全名で指定します。指定したファイルの内容を通知します。

-f オプションと、**--fv**、**--fb** など通知メディア個別の通知文を指定するオプションは組み合わせで使用することができます。組み合わせで使用した場合、個別の指定がない場合は共通の設定を使用し、**--fv**、**--fb** など個別に指定した場合は個別指定を優先します。

通知メッセージ中には「6.2.19 コマンドの通知文ファイル等に使用できる変数」に示す変数の指定が可能です。通知文ファイルに関しては「4.5 通知文ファイルに関して」を参照ください。以降の通知文ファイルについても同様です。

(c) **--fv 電話通知文ファイル**

電話発信で通知するメッセージを格納したファイルを完全名で指定します。

(d) **--fb SMS通知文ファイル**

SMS 発信で通知するメッセージを格納したファイルを完全名で指定します。

(e) **--fm メール通知文ファイル**

メールで通知するメッセージを格納したファイルを完全名で指定します。

(f) **--fl LINE WORKS通知文ファイル**

LINE WORKS へ通知するメッセージを格納したファイルを完全名で指定します。

(g) **--fs Slack通知文ファイル**

Slack へ通知するメッセージを格納したファイルを完全名で指定します。

(h) **--ft Microsoft Teams通知文ファイル**

Microsoft Teams へ通知するメッセージを格納したファイルを完全名で指定します。

(i) **--subject メール通知のメール件名**

メールで通知する際のメールの件名を指定します。200 文字以内で指定します。連絡網の通知先にメールが含まれていない場合は無視されます。

6. コマンド

(j) `--fenc { SJIS | UTF8 }`

通知文ファイルの文字コードを指定します。省略すると **SJIS** が使用されます。

通知文ファイルを複数指定する場合、各通知ファイルの文字コードを同じにする必要があります。

(k) `--profile` プロファイルファイル名 (コマンド設定ファイル名)

設定を格納したコマンド設定ファイルを完全名で指定します。本オプションを省略した場合、3 章「3.2(2)コマンド設定ファイルを編集する」で準備した標準のコマンド設定ファイルが使用されます。

(l) `--ae` API 実行変数ファイル名

外部 API 連携に使用する API 実行変数ファイルを完全名で指定します。「キー=値」の組み合わせで指定します。キーの名前は 32 文字以内、値は 1000 文字以内で指定してください。API 実行変数ファイルには環境変数を設定可能です。環境変数の設定については「6.2.19(2)環境変数」を参照ください。

例：

```
--ae C:\tmp\val.txt
```

foo=aaaaa bar=bbbbbb

(m) `-h`

本コマンドの使用方法を表示します。本オプションを指定した場合、他の引数はすべて無視されます。また、戻り値は常に成功扱いとなります。

(4) 注意事項

- (b)の通知文ファイルを指定した場合、(c)~(h)の各通知文ファイルの指定を省略できます。
- (b)~(h)の各通知文ファイルをすべて省略することはできません。
- 連絡網の通知先に必要な通知文ファイルの指定を省略したとき、または、通知文ファイルの内容が空文字の場合には、「[notifysaas] からの連絡です」が通知文に設定されます。
- 連絡網の通知先にメールがあり、メール通知のメール件名を省略したとき、または、メールの件名が空文字の場合には、「[notifysaas] からの連絡です」がメールの件名に設定されます。
- 発信制限の内容、外部通信サービス側の注意事項に関しては、「4.1 発信制限に関して」「4.3 外部通信サービス側の注意事項に関して」を参照ください。

(5) 標準出力

コマンドが戻り値「0」で終了した場合、標準出力に発信内容に関する情報をJSON形式で出力します。

出力されるJSONプロパティと出力例を以下に示します。

表 6.2-7 実行結果のプロパティ

プロパティ名	JSON 型	説明
ok	bool	コマンドの成否を表すbool値で常にtrueが設定されます。
sid	string	発信した状態を後で確認するための発信識別子を出力します。

出力例

```
{
  "ok": true,
  "sid": "TSNotify-20210318.145557-96806c80-3791-4874-8f1b-8c8da753xxxx"
}
```

上記の例は、見やすいよう整形していますが、実際の出力では整形は行いません。

(6) 戻り値

戻り値	説明
0	発信を開始したことを意味します。
1	発信が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が1は、引数の誤り、指定したファイルのエラー、予期しないエラーを示します。
2	発信が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が2はhttps通信系エラーを示します。

tlsbase コマンドの実行結果はコマンド実行記録ログで確認できます。

(7) 使用例

例：

連絡網名「連絡網 A」を使用し、"cbmsg-501.txt"の内容をメッセージ送信する。

c:¥temp¥cbmsg-501.txt の内容

「こちらは、バックアップ監視システムです。{%y年%m月%d日}{%H時%M分%S秒}サーバのバックアップ中にエラーが発生しました。状況を確認してください。」

```
tlsbase net notify --ni 連絡網A -f c:¥temp¥cbmsg-501.txt
```

6.2.8 発信結果問い合わせコマンド

(1) 機能

発信結果問い合わせでは、発信識別子を用いて各発信の発信結果を取得します。

(2) 形式

```
tlsbase inquiry notify
```

6. コマンド

```
--sid 発信識別子  
[ --ni 連絡網名 ]  
[ --profile プロファイルファイル名 ]  
[ -h ]
```

(3) 引数

(a) --sid 発信識別子

発信時に出力された発信識別子 (sid) を指定します。

(b) --ni 連絡網名

連絡網による発信結果を取得する場合に連絡網名を指定します。

(c) --profile プロファイルファイル名 (コマンド設定ファイル名)

設定を格納したコマンド設定ファイルを完全名で指定します。本オプションを省略した場合、3章「3.2(2)コマンド設定ファイルを編集する」で準備した標準のコマンド設定ファイルが使用されます。

(d) -h

本コマンドの使用方法を表示します。本オプションを指定した場合、他の引数はすべて無視されます。また、戻り値は常に成功扱いとなります。

(4) 注意事項

なし。

(5) 標準出力

コマンドが戻り値「0」で終了した場合、標準出力に発信内容に関する情報をJSON形式で出力します。

出力される JSON プロパティと出力例を以下に示します。status 値の詳細は「8.1(21) resp_inquiry_ok.json」を参照ください。

表 6.2-8 実行結果のプロパティ

プロパティ名	JSON 型	説明
sid	string	指定された発信識別子または連絡網発信識別子を出力します。
status	string	問い合わせを行った時点の発信の状態を出力します。

出力例

```
{  
  "sid": "TSNotify-20210318.145557-96806c80-3791-4874-8f1b-8c8da753xxxx",  
  "status": "confirmed"  
}
```

上記の例は、見やすいよう整形していますが、実際の出力では整形は行いません。

(6) 戻り値

戻り値	説明
0	成功しました。
1	問い合わせが失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 1 は、引数の誤り、指定したファイルのエラー、予期しないエラーを示します。
2	問い合わせが失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 2 は https 通信系エラーを示します。

tlscbase コマンドの実行結果はコマンド実行記録ログで確認できます。

(7) 使用例

例：

発信識別子「TSNotify-20210318.145557-96806c80-3791-4874-8f1b-8c8da753xxxx」の現在の状態を確認する。

```
tlscbase inquiry notify --sid TSNotify-20210318.145557-96806c80-3791-4874-8f1b-8c8da753xxxx
```

6.2.9 通知先ユーザ定義登録コマンド

(1) 機能

ユーザ定義情報の登録(インポート)を行います。複数のユーザ定義情報をまとめて登録する場合や、ある特定のユーザ定義情報を更新する場合などに使用します。

(2) 形式

```
tlscbase user import
  -f ユーザ定義ファイル
  [ --profile プロファイルファイル名 ]
  [ -h ]
```

(3) 引数

(a) -f ユーザ定義ファイル

JSON 形式のユーザ定義情報「8.1(49) users.json」を格納したファイルを完全名で指定します。ユーザ定義ファイルは UTF-8 で記述する必要があります

(b) --profile プロファイルファイル名 (コマンド設定ファイル名)

設定を格納したコマンド設定ファイルを完全名で指定します。本オプションを省略した場合、3 章「3.2(2)コマンド設定ファイルを編集する」で準備した標準のコマンド設定ファイルが使用されます。

6. コマンド

(c) -h

本コマンドの使用方法を表示します。本オプションを指定した場合、他の引数はすべて無視されます。また、戻り値は常に成功扱いとなります。

(4) 注意事項

ユーザ定義ファイル(users.json)の「mirroring オプション」を使用して以下の動作が可能です。

- ユーザ定義ファイル(users.json)に記載された通知先ユーザが、すでに登録済みの場合、上書きして登録する。
- ユーザ定義ファイル(users.json)に記載された通知先ユーザが、登録されていない場合、追加して登録する。
- 登録済のユーザ定義情報と -f で指定したユーザ定義ファイル(users.json)のユーザ情報を一致させる（登録済のユーザ定義をすべて削除し、-f で指定したユーザ定義ファイルの情報を登録する）。

詳細は「8.1(49) users.json」を参照ください。

(5) 標準出力

なし。

(6) 戻り値

戻り値	説明
0	成功しました。
1	登録が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 1 は、引数の誤り、指定したファイルのエラー、予期しないエラーを示します。
2	登録が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 2 は https 通信系エラーを示します。

tlscbase コマンドの実行結果はコマンド実行記録ログで確認できます。

(7) 使用例

例：

ユーザ定義 “c:¥temp¥users001.json” の内容を登録(インポート)する。

```
tlscbase user import -f c:¥temp¥users001.json
```

6.2.10 通知先ユーザ定義取得コマンド

(1) 機能

登録されたユーザ定義の取得(エクスポート)を行います。

(2) 形式

```

tiscbase user export
  [ --name 通知先ユーザ名1[:通知先ユーザ名2:...]]
  [ --profile プロファイルファイル名 ]
  [ -h ]

```

(3) 引数

(a) **--name 通知先ユーザ名1[:通知先ユーザ名2:...]**

取得する通知先ユーザ名を指定します。複数取得する場合は通知先ユーザ名をコロン(:)で区切り指定します。本オプションを省略したときはすべての登録済み通知先ユーザを取得します。

(b) **--profile プロファイルファイル名 (コマンド設定ファイル名)**

設定を格納したコマンド設定ファイルを完全名で指定します。本オプションを省略した場合、3章「3.2(2)コマンド設定ファイルを編集する」で準備した標準のコマンド設定ファイルが使用されます。

(c) **-h**

本コマンドの使用方法を表示します。本オプションを指定した場合、他の引数はすべて無視されます。また、戻り値は常に成功扱いとなります。

(4) 注意事項

なし。

(5) 標準出力

コマンドが戻り値「0」で終了した場合、標準出力に通知先ユーザ情報をJSON形式で出力します。出力されるJSON形式は「8.1(49) users.json」です。

(6) 戻り値

戻り値	説明
0	成功しました。
1	取得が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が1は、引数の誤り、指定したファイルのエラー、予期しないエラーを示します。
2	取得が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が2は https 通信系エラーを示します。

tiscbase コマンドの実行結果はコマンド実行記録ログで確認できます。

(7) 使用例

例：

すべてのユーザ定義を取得し、取得した情報を"C:\temp\users_export.json"にリダイレクトする。

6. コマンド

```
tlscbase user export > c:\temp\users_export.json
```

6.2.11 通知先ユーザ定義削除コマンド

(1) 機能

指定されたユーザ定義情報を削除します。

(2) 形式

```
tlscbase user delete  
[ --name 通知先ユーザ名1[:通知先ユーザ名2:...]]  
[ --profile プロファイルファイル名 ]  
[ -h ]
```

(3) 引数

(a) --name 通知先ユーザ名1[:通知先ユーザ名2:...]

削除する通知先ユーザ名を指定します。複数削除する場合は通知先ユーザ名をコロン(:)で区切り指定します。

本オプションを省略したときはすべての登録済み通知先ユーザの定義を削除します。削除したユーザ定義情報を復旧する方法はありません。

(b) --profile プロファイルファイル名 (コマンド設定ファイル名)

設定を格納したコマンド設定ファイルを完全名で指定します。本オプションを省略した場合、3章「3.2(2)コマンド設定ファイルを編集する」で準備した標準のコマンド設定ファイルが使用されます。

(c) -h

本コマンドの使用方法を表示します。本オプションを指定した場合、他の引数はすべて無視されます。また、戻り値は常に成功扱いとなります。

(4) 注意事項

--name で複数の通知先ユーザ名を指定した場合、指定された通知先ユーザが一つでも存在しない場合、コマンドは失敗します。

(5) 標準出力

なし。

(6) 戻り値

戻り値	説明
0	成功しました。

1	削除が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 1 は、引数の誤り、指定したファイルのエラー、予期しないエラーを示します。
2	削除が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 2 は https 通信系エラーを示します。

tlsbase コマンドの実行結果はコマンド実行記録ログで確認できます。

(7) 使用例

例 1 :

すべてのユーザ定義情報を削除する。

```
tlsbase user delete
```

例 2 :

指定した「ユーザ 1」「ユーザ 2」のユーザ定義情報を削除する。

```
tlsbase user delete --name ユーザ1:ユーザ2
```

6.2.12 連絡網定義登録コマンド

(1) 機能

連絡網定義情報の登録(インポート)を行います。複数の連絡網定義情報をまとめて登録する場合や、ある特定の連絡網定義情報を更新する場合などに使用します。

(2) 形式

```
tlsbase net import
  -f 連絡網定義ファイル
  [ --profile プロファイルファイル名 ]
  [ -h ]
```

(3) 引数

(a) -f 連絡網定義ファイル

JSON 形式の連絡網定義情報「8.1(13) networks.json」を格納したファイルを完全名で指定します。連絡網定義ファイルは UTF-8 で記述する必要があります。

(b) --profile プロファイルファイル名 (コマンド設定ファイル名)

設定を格納したコマンド設定ファイルを完全名で指定します。本オプションを省略した場合、3 章「3.2(2)コマンド設定ファイルを編集する」で準備した標準のコマンド設定ファイルが使用されます。

6. コマンド

(c) -h

本コマンドの使用方法を表示します。本オプションを指定した場合、他の引数はすべて無視されます。また、戻り値は常に成功扱いとなります。

(4) 注意事項

連絡網定義ファイル(networks.json)の「mirroring オプション」を使用して以下の動作が可能です。

- 連絡網定義ファイル(networks.json)に記載された連絡網がすでに登録済みの場合、上書きして登録する。
- 連絡網定義ファイル(networks.json)に記載された連絡網が登録されていない場合、追加して登録する。
- 登録済の連絡網定義情報と -f で指定した連絡網定義ファイル(networks.json)の連絡網情報を一致させる（登録済の連絡網定義をすべて削除し、-f で指定した連絡網定義ファイルの情報を登録する）。

詳細は「8.1(13) networks.json」を参照ください。

(5) 標準出力

なし。

(6) 戻り値

戻り値	説明
0	成功しました。
1	登録が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 1 は、引数の誤り、指定したファイルのエラー、予期しないエラーを示します。
2	登録が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 2 は https 通信系エラーを示します。

tlscbase コマンドの実行結果はコマンド実行記録ログで確認できます。

(7) 使用例

例：

連絡網定義"networks.json"の内容を登録(インポート)する。

```
tlscbase net import -f c:\temp\networks.json
```

6.2.13 連絡網定義取得コマンド

(1) 機能

登録された連絡網定義の取得(エクスポート)を行います。

(2) 形式

```

tlsbase net export
  [ --ni 連絡網名1[:連絡網名2:...]]
  [ --profile プロファイルファイル名 ]
  [ -h ]

```

(3) 引数

(a) **--ni** 連絡網名1[:連絡網名2:...]

取得する連絡網名を指定します。複数取得する場合は連絡網名をコロン(:)で区切り指定します。本オプションを省略したときはすべての登録済み連絡網を取得します。

(b) **--profile** プロファイルファイル名 (コマンド設定ファイル名)

設定を格納したコマンド設定ファイルを完全名で指定します。本オプションを省略した場合、3章「3.2(2)コマンド設定ファイルを編集する」で準備した標準のコマンド設定ファイルが使用されます。

(c) **-h**

本コマンドの使用方法を表示します。本オプションを指定した場合、他の引数はすべて無視されます。また、戻り値は常に成功扱いとなります。

(4) 注意事項

なし。

(5) 標準出力

コマンドが戻り値「0」で終了した場合、標準出力に連絡網定義情報をJSON形式で出力します。出力されるJSON形式は「8.1(13) networks.json」です。

(6) 戻り値

戻り値	説明
0	成功しました。
1	取得が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が1は、引数の誤り、指定したファイルのエラー、予期しないエラーを示します。
2	取得が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が2は https 通信系エラーを示します。

tlsbase コマンドの実行結果はコマンド実行記録ログで確認できます。

(7) 使用例

例：

すべての連絡網定義を取得し、取得した情報を"C:¥temp¥networks_export.json"にリダイレクトする。

```

tlsbase net export > c:¥temp¥networks_export.json

```

6.2.14 連絡網定義削除コマンド

(1) 機能

指定された連絡網定義の削除を行います。

(2) 形式

```
tlscbase net delete
  [ --ni 連絡網名1[:連絡網名2:...]]
  [ --profile プロファイルファイル名 ]
  [ -h ]
```

(3) 引数

(a) `--ni 連絡網名1[:連絡網名2:...]`

削除する連絡網名を指定します。複数削除する場合は連絡網名をコロン(:)で区切り指定します。本オプションを省略したときはすべての登録済み連絡網を削除します。削除した連絡網定義を復旧する方法はありません。

(b) `--profile プロファイルファイル名 (コマンド設定ファイル名)`

設定を格納したコマンド設定ファイルを完全名で指定します。本オプションを省略した場合、3章「3.2(2)コマンド設定ファイルを編集する」で準備した標準のコマンド設定ファイルが使用されます。

(c) `-h`

本コマンドの使用方法を表示します。本オプションを指定した場合、他の引数はすべて無視されます。また、戻り値は常に成功扱いとなります。

(4) 注意事項

`--ni` で複数の連絡網名を指定した場合、指定された連絡網が一つでも存在しない場合、コマンドは失敗します。

(5) 標準出力

なし。

(6) 戻り値

戻り値	説明
0	成功しました。
1	削除が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が1は、引数の誤り、指定したファイルのエラー、予期しないエラーを示します。

2	削除が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 2 は https 通信系エラーを示します。
---	--

tlsbase コマンドの実行結果はコマンド実行記録ログで確認できます。

(7) 使用例

例 1 :

すべての連絡網定義を削除する。

```
tlsbase net delete
```

例 2 :

指定した連絡網定義を削除する。

```
tlsbase net delete --ni 連絡網1:連絡網2
```

6.2.15 LINE WORKS トークルーム作成コマンド

(1) 機能

LINE WORKS に指定した Bot を含むトークルームを作成します。

本コマンドで作成したトークルームの情報は、ルーム ID 記録ファイルに記録されます。ルーム ID 記録ファイルに関しては「3.2(3) ルーム ID 記録ファイルに関して」を参照ください。

(2) 形式

```
tlsbase line roomcreate
  --name トークルーム名
  --accounts アカウント名1[, アカウント名2,... ]
  --line_profile LINE WORKSプロファイル名
  [ --profile プロファイルファイル名 ]
  [ -h ]
```

(3) 引数

(a) --name トークルーム名

作成するトークルームの名前を 1~64 文字以内（半角・全角を問わず文字数）で指定します。トークルーム名には半角空白文字および次の文字は使用できません。

```
" ¥ / * ? [ ] = < > ! ' $ % & , ; # 半角空白文字 ASCII制御文字 (0x00~0x1f, 0x7f)
```

(b) --accounts アカウント名1[, アカウント名2,...]

作成するトークルームに追加する LINE WORKS のメンバーアカウントを ID で指定します。アカウントは最低でも 1 アカウントの指定が必要です。アカウントは LINE WORKS 側であらかじめメンバーアカウントとして登録されている必要があります。

6. コマンド

(c) `--line_profile` LINE WORKS プロファイル名

LINE WORKS プロファイル画面で登録した、LINE WORKS プロファイル名を指定します。指定された LINE WORKS プロファイルの Bot No に対応する Bot をトークルームに招待するために使用します。

(d) `--profile` プロファイルファイル名 (コマンド設定ファイル名)

設定を格納したコマンド設定ファイルを完全名で指定します。本オプションを省略した場合、3 章「3.2(2)コマンド設定ファイルを編集する」で準備した標準のコマンド設定ファイルが使用されます。

(e) `-h`

本コマンドの使用方法を表示します。本オプションを指定した場合、他の引数はすべて無視されます。また、戻り値は常に成功扱いとなります。

(4) 注意事項

LINE WORKS の仕様により、トークルームへメッセージ投稿が行われるまでは、作成したトークルームを参照することができません。作成した直後に参照しても該当するトークルームは表示されませんので、ご注意ください。

(5) 標準出力

コマンドが戻り値「0」で終了した場合、標準出力に情報をJSON形式で出力します。出力される JSON プロパティと出力例を以下に示します。

表 6.2-9 実行結果のプロパティ

プロパティ名	JSON 型	説明
roomid	string	作成されたトークルームのルームIDを出力します。

出力例

```
{
  "roomid": "67315361"
}
```

上記の例は、見やすいよう整形していますが、実際の出力では整形は行いません。

(6) 戻り値

戻り値	説明
0	成功しました。
1	作成が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 1 は、引数の誤り、指定したファイルのエラー、予期しないエラーを示します。
2	作成が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 2 は <code>https</code> 通信系エラーを示します。

`tlscbase` コマンドの実行結果はコマンド実行記録ログで確認できます。

(7) 使用例

例：

トークルーム「ルーム 1」を作成する。トークルームに追加するアカウントは 2 名、LINE WORKS プロファイルには「プロファイル A」を指定する。

```
tlscbase line roomcreate --name ルームA --accounts user01@works-01:user02@works-01 --
line_profile プロファイルA
```

6.2.16 発信情報件数問い合わせコマンド

(1) 機能

発信情報件数問い合わせでは、発信情報の件数を返します。発信情報には、「完了済」と「未完了（発信中と未発信）」の情報が保管されており、指定された期日と組み合わせて発信情報の件数を返します。

(2) 形式

```
tlscbase inquiry count
  [-a ]
  [--after yyyyymmddHHMMSS ]
  [--before yyyyymmddHHMMSS ]
  [--profile プロファイルファイル名 ]
  [-h ]
```

(3) 引数

(a) -a

全ての発信情報件数（「完了済」と「未完了（発信中と未発信）」）をカウントの対象とする場合に指定します。本オプションを省略すると「未完了（発信中と未発信）」の発信情報件数のみがカウントの対象となります。

本オプションは「--after」、 「--before」オプションと組み合わせて使用可能です。

(b) --after yyyyymmddHHMMSS

指定した日時以降（指定した日時を含む）に受け付けた発信情報件数をカウントする場合に日時を指定します。yyyyymmddHHMMSS では、西暦年 4 桁、月 2 桁、日 2 桁、時 2 桁、分 2 桁、秒 2 桁を連結した日時を指定します。

「-a」オプションを指定しない場合は、「未完了（発信中と未発信）」の発信情報件数のみをカウントの対象とします。

(c) --before yyyyymmddHHMMSS

指定した日時以前（指定した日時を含む）に受け付けた発信情報件数をカウントする場合に日時を指定します。yyyyymmddHHMMSS では、西暦年 4 桁、月 2 桁、日 2 桁、時 2

6. コマンド

桁、分 2 桁、秒 2 桁を連結した日時を指定します。

「-a」オプションを指定しない場合は、「未完了（発信中と未発信）」の発信情報件数のみをカウントの対象とします。

■--after と--before の両方を指定した場合

例 1) --after に、--before より前の日時を指定した場合、--after から--before までの範囲の値が取得されます。（ after <----> before ）

例 2) --after に、--before より後の日時を指定した場合、--before 以前の値 と --after 以降の値 の両方の値が取得されます。（ ---> before と after <--- ）

(d) --profile プロファイルファイル名（コマンド設定ファイル名）

設定を格納したコマンド設定ファイルを完全名で指定します。本オプションを省略した場合、3 章「3.2(2)コマンド設定ファイルを編集する」で準備した標準のコマンド設定ファイルが使用されます。

(e) -h

本コマンドの使用方法を表示します。本オプションを指定した場合、他の引数はすべて無視されます。また、戻り値は常に成功扱いとなります。

(4) 注意事項

なし。

(5) 標準出力

コマンドが戻り値「0」で終了した場合、標準出力に情報をJSON形式で出力します。出力される JSON プロパティと出力例を以下に示します。

表 6.2-10 実行結果のプロパティ

プロパティ名	JSON 型	説明
count	数値	指定した条件を満たす発信情報件数を出力します。

出力例

```
{
  "count": 2
}
```

上記の例は、見やすいよう整形していますが、実際の出力では整形は行いません。

(6) 戻り値

戻り値	説明
0	成功しました。
1	問い合わせが失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 1 は、引数の誤り、指定したファイルのエラー、予期しないエラーを示します。
2	問い合わせが失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 2 は https 通信系エラーを示します。

tlsbase コマンドの実行結果はコマンド実行記録ログで確認できます。

(7) 使用例

例：

2022年3月31日10時30分45秒以降に発信受付された、未完了の件数を確認する。

```
tlsbase inquiry count --after 20220331103045
```

6.2.17 発信情報削除コマンド

(1) 機能

発信情報削除では、発信情報を削除します。発信情報には、「完了済」と「未完了（発信中と未発信）」の情報が保管されており、指定された期日と組み合わせて発信情報を削除します。

(2) 形式

```
tlsbase delete notify
  [ -a ]
  [ --after yyyyymmddHHMMSS ]
  [ --before yyyyymmddHHMMSS ]
  [ --profile プロファイルファイル名 ]
  [ -h ]
```

(3) 引数

(a) -a

全ての発信情報件数（「完了済」と「未完了（発信中と未発信）」）を削除対象とする場合に指定します。本オプションを省略すると「完了済」の発信情報のみを削除対象とします。

本オプションは「--after」、 「--before」オプションと組み合わせて使用可能です。

(b) --after yyyyymmddHHMMSS

指定した日時以降（指定した日時を含む）に受け付けた発信情報を削除する場合に日時を指定します。yyyyymmddHHMMSS では、西暦年 4 桁、月 2 桁、日 2 桁、時 2 桁、分 2 桁、秒 2 桁を連結した日時を指定します。

「-a」オプションを指定しない場合は、「完了済」の発信情報件数のみを削除対象とします。

(c) --before yyyyymmddHHMMSS

指定した日時以前（指定した日時を含む）に受け付けた発信情報を削除する場合に日時を指定します。yyyyymmddHHMMSS では、西暦年 4 桁、月 2 桁、日 2 桁、時 2 桁、分 2

6. コマンド

桁, 秒 2 桁を連結した日時を指定します。

「-a」オプションを指定しない場合は、「完了済」の発信情報件数のみを削除対象とします。

■--after と--before の両方を指定した場合

例 1) --after に, --before より前の日時を指定した場合, --after から--before までの範囲の値が削除されます。(after <----> before)

例 2) --after に, --before より後の日時を指定した場合, --before 以前の値 と --after 以降の値 の両方の値が削除されます。(---> before と after <---)

(d) --profile プロファイルファイル名 (コマンド設定ファイル名)

設定を格納したコマンド設定ファイルを完全名で指定します。本オプションを省略した場合, 3 章「3.2(2)コマンド設定ファイルを編集する」で準備した標準のコマンド設定ファイルが使用されます。

(e) -h

本コマンドの使用方法を表示します。本オプションを指定した場合, 他の引数はすべて無視されます。また, 戻り値は常に成功扱いとなります。

(4) 注意事項

なし。

(5) 標準出力

なし。

(6) 戻り値

戻り値	説明
0	成功しました。
1	削除が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 1 は, 引数の誤り, 指定したファイルのエラー, 予期しないエラーを示します。
2	削除が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 2 は https 通信系エラーを示します。

tlscbase コマンドの実行結果はコマンド実行記録ログで確認できます。

(7) 使用例

例 :

2022 年 3 月 1 日 10 時 30 分 45 秒以前に発信受付された発信情報を削除する。

```
tlscbase delete notify --before 20220301103045
```

6.2.18 ログ取得コマンド

(1) 機能

発信や登録などが行われた際の動作ログの情報を取得します。

(2) 形式

```
tlscbase logget  
    [ -d ]  
    [ --profile プロファイルファイル名 ]  
    [ --after yyyyymmddHHMM ]  
    [ --before yyyyymmddHHMM ]  
    [ -h ]
```

(3) 引数

(a) -d

非公開のシステムログを取得する場合に指定します。本オプションを指定しないときは公開ログを取得します。

(b) --profile プロファイルファイル名 (コマンド設定ファイル名)

設定を格納したコマンド設定ファイルを完全名で指定します。本オプションを省略した場合、3章「3.2(2)コマンド設定ファイルを編集する」で準備した標準のコマンド設定ファイルが使用されます。

(c) --after yyyyymmddHHMM

指定した日時以降（指定した日時を含む）のログを取得する場合に日時を指定します。yyyyymmddHHMMでは、西暦年4桁、月2桁、日2桁、時2桁、分2桁を連結した日時を指定します。

(d) --before yyyyymmddHHMM

指定した日時以前（指定した日時を含む）のログを取得する場合に日時を指定します。yyyyymmddHHMMでは、西暦年4桁、月2桁、日2桁、時2桁、分2桁を連結した日時を指定します。

(e) -h

本コマンドの使用方法を表示します。本オプションを指定した場合、他の引数はすべて無視されます。また、戻り値は常に成功扱いとなります。

(4) 注意事項

なし。

6. コマンド

(5) 標準出力

コマンド成功時、標準出力にログ情報を出力します。出力例を以下に示します。

出力例

```
2022-03-19 14:15:50.139 1005-1 連絡網を登録しました。ID:連絡網A
```

(6) 戻り値

戻り値	説明
0	成功しました。
1	取得が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 1 は、引数の誤り、指定したファイルのエラー、予期しないエラーを示します。
2	取得が失敗しました。詳細はコマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 2 は https 通信系エラーを示します。

tlsbase コマンドの実行結果はコマンド実行記録ログで確認できます。

(7) 使用例

例 1 :

公開ログを取得し、取得した情報を"C:¥temp¥open.log"にリダイレクトする。

```
tlsbase logget > C:¥temp¥open.log
```

例 2 :

非公開のシステムログを取得し、取得した情報を"C:¥temp¥system.log"にリダイレクトする。

```
tlsbase logget -d > C:¥temp¥system.log
```

6.2.19 コマンドの通知文ファイル等に使用できる変数

通知文ファイルのメッセージ中に使用できる変数に関して記載します。固有の変数と環境変数が使用可能です。

(1) 固有の変数

以下の固有の変数が使用可能です。固有の変数の値は、お客様システム側の値となります。

表 6.2-11 通知文ファイル中に使用可能な固有の変数

変数名	説明
{日付時刻書式文字列}	コマンド受付日時を表す日付時刻書式文字列。 指定可能な書式識別子は「表 6.2-12 日付時刻書式文字列」を参照。

表 6.2-12 日付時刻書式文字列

書式識別子	変換方法
%y	西暦年（4桁）に置き換えます。
%m	月（01～12）に置き換えます。
%b	月（英語短縮型）Jan, Feb, Mar, Apr, May, Jun, Jul, Aug, Sep, Oct, Nov, Dec に置き換えます。
%d	日（01～31）に置き換えます。
%H	時刻（00～23）に置き換えます。
%M	分（00～59）に置き換えます。
%S	秒（00～60）に置き換えます。
%s	ミリ秒（000～999）に置き換えます。

(例) 受付日時が 2022 年 2 月 10 日 12 時 53 分 32 秒 824 ミリ秒の場合

書式文字列の指定	置換後の値
受付日時：{%y 年%m 月%d 日}	受付日時：2022 年 02 月 10 日
受付日時：{%m/%d/%y}	受付日時：02/10/2022
受付日時：{%b %d %H:%M:%S %y}	受付日時：Feb 10 12:53:32 2022
受付日時：{%H 時%M 分%S 秒%s ミリ秒}	受付日時：12 時 53 分 32 秒 824 ミリ秒
受付日時：{%H:%M:%S.%s}	受付日時：12:53:32.824

(2) 環境変数

通知文ファイルまたは API 実行変数ファイルのメッセージ中に環境変数値を埋め込む場合、環境変数名を%で括って指定可能です。環境変数の値は、お客様システム側の値となります。

(例) %USERNAME%

(a) 環境変数の使用時の注意事項

環境変数を使用する場合、次の注意事項があります。

- 環境変数を使用する場合、コマンドの実行元がすでに管理者権限に昇格している状態である、あるいは実行時に管理者として実行する必要があります。
- コマンドを Windows サービス経由で実行する場合は、ユーザ環境変数は置換されません。システム環境変数のみが置換されます。
- 環境変数名が環境変数として登録されていない場合は、置換されません。
- メッセージ中の環境変数名は%（半角パーセント文字）で囲んで指定し、同一変数名が複数箇所指定されていた場合は同じ変数値に置き換わります。
- 環境変数名の大文字・小文字は区別しません。全角・半角の区別は行いません。
- 変数名では半角 260 文字、変数値では半角 1,023 文字が長さの上限です。変数名が長すぎる場合、その環境変数は扱えません。変数値が長すぎる場合、半角 1,023 文字まで変換してそれ以降を切り捨てます。

7.API

この章では、TELstaff クラウド型通報管理サービスが提供する REST API について説明します。

7.1 API一覧

7.2 通報管理サービスのAPI

7.2.1 サインインAPI

7.2.2 サインアウトAPI

7.2.3 サインイントークン更新API

7.2.4 発信受付API

7.2.5 発信問い合わせAPI

7.2.6 連絡網発信API

7.2.7 連絡網発信結果取得API

7.2.8 通知先ユーザ定義登録API

7.2.9 通知先ユーザ定義取得API

7.2.10 通知先ユーザ定義削除API

7.2.11 連絡網定義登録API

7.2.12 連絡網定義取得API

7.2.13 連絡網定義削除API

7.2.14 LINE WORKSトークルーム作成API

7.2.15 発信情報件数問い合わせAPI

7.2.16 発信情報削除API

7.2.17 ログ取得API

7.1 API一覧

本サービスが提供する API を以下に示します。

表 7.1-1 API一覧

API名	説明
サインイン API	通報管理サービスへサインインします。
サインアウト API	通報管理サービスからサインアウトします。
サインイントークン更新 API	サインイン中のトークンを更新します。
発信受け付け API	各外部通信サービスへの発信要求を行います。
発信問い合わせ API	発信状況や発信結果の問い合わせを行います。
連絡網発信 API	連絡網への発信要求を行います。
連絡網発信結果取得 API	連絡網の発信結果の問い合わせを行います。
通知先ユーザ登録 API	通知先ユーザを登録します。
通知先ユーザ取得 API	通知先ユーザを取得します。
通知先ユーザ定義削除 API	通知先ユーザを削除します。
連絡網定義登録 API	連絡網定義を登録します。
連絡網定義取得 API	連絡網定義を取得します。
連絡網定義削除 API	連絡網定義を削除します。
LINE WORKS トークルルーム作成 API	LINE WORKS のトークルルームを作成します。
発信情報件数問い合わせ API	発信情報の件数を問い合わせします。
発信情報削除 API	発信情報の削除を行います。
ログ取得 API	ログを取得します。

7.2 通報管理サービスのAPI

本サービスが提供する API は、REST (Representational State Transfer) アーキテクチャスタイルの API です。HTTP1.1 に準拠しています。

(1) 通信方式

API が使用する通信プロトコルについて、次に示します。

(a) 通信プロトコル

お客様環境と本サービスの Web サーバとの通信で使用するプロトコルは、https です。バージョンは、1.1 をサポートしています。

(b) 認証

サインイン時の認証は、アカウント名、パスワードです。以降の処理では、サインインで取得したトークンを使用します。認証方式は Bearer トークン認証です。

(2) API発行の流れ

以下の例を参考にして、API の発行を実施してください。

使用例) (サインイン ⇒ 発信受付 ⇒ 発信結果問い合わせ ⇒ サインアウト の場合)

- ・サインイン API を発行する
...レスポンスの JSON (resp_signin.json) から id_token を取り出し、以降の API 発行の認証情報として Authorization ヘッダに指定します。
- ・発信受付 API を発行する
...レスポンスの JSON (resp_notify_ok.json) から Sid を取り出します。Sid は、発信問い合わせ API で使用します。
- ・発信問い合わせ API を発行する
...レスポンスの JSON (resp_inquiry_ok.json) の status を取り出して、発信結果を確認してください。
- ・サインアウト API を発行する
...サインアウトを発行すると、サインインで取得された id_token は無効化されます。

各 API には、リクエスト形式、リクエストデータが決められています。各 API の説明と必要な JSON プロパティを操作し、API を発行してください。

(3) 各API共通の記載事項

(a) リクエスト形式

各 API の説明でクエスト形式の書式に「host」の記載があります。

例) サインイン API の場合

```
POST https://host/api/v1/signin
```

host 部分に指定する値に関しては、本サービス申し込み時にご連絡している「接続先 URL」のホストの値を指定してください。

指定例) https://xxxxxx.xxxxxx.xx.xx/api/v1/signin

7. API

(b) ヘッダについて

各 API を実行する場合は、HTTP ヘッダに、ヘッダ名「X-NotifySaaS-Notify-Account」、値にサインイン API で指定するアカウント名を指定してください。

(c) 発信内容の指定に関して

各 API で指定する発信内容は、10,000 文字までの文字数制限があります。10,000 文字を超えて、指定した場合、API がエラー終了します。なお、各外部通信サービスで制限された文字数に関しては、各 API ではチェックしません。各通信サービスの制限の範囲内で発信内容を作成してください。

(d) 注意事項

API のリクエスト URI、リクエストパラメタ、リクエストボディは UTF-8 で記述し、URI、リクエストパラメタは URL エンコードされている必要があります。

7.2.1 サインインAPI

(1) 機能

サインインを行います。サインインが成功した場合、レスポンスとして認証情報を返します。

(2) リクエスト形式

```
POST https://host/api/v1/signin
```

(3) リクエストデータ

Content-Type:application/json

以下の JSON プロパティを指定します。

- signin.json

JSON プロパティの内容は「8.1 通報管理サービスの JSON」を参照ください。

(4) 注意事項

なし。

(5) レスポンスステータスコード

コード	説明
200	成功
401	認証失敗
403	サービス拒否(サービスの有効期限が切れている)
422	Validation error

(6) レスポンス

Content-Type:application/json

コード	レスポンス JSON プロパティ
200	resp_signin.json
200,422 以外	resp_error.json
422	resp_validation_err.json

JSON プロパティの内容は「8.1 通報管理サービスの JSON」を参照ください。

本 API で取得した認証情報(resp_signin.json)の id_token の値を、以降に発行する API の認証情報として Authorization ヘッダに指定する必要があります。

例：

```
Authorization: Bearer evJra...
```

認証情報(resp_signin.json)の id_token, access_token は 3600 秒 (60 分) 有効です。有効期限後は使用できません。有効期限を延長する場合には「7.2.3 サインイントークン更新 API」を発行することで、有効期限が延長されます。

7.2.2 サインアウトAPI

(1) 機能

サインアウトを行います。サインインで取得したトークンを無効にします。

(2) リクエスト形式

```
POST https://host/api/v1/signout
```

(3) リクエストデータ

Content-Type:application/json

以下の JSON プロパティを指定します。

- `signout.json`

JSON プロパティの内容は「8.1 通報管理サービスの JSON」を参照ください。

(4) 注意事項

なし。

(5) レスポンスステータスコード

コード	説明
200	成功
401	認証失敗
422	Validation error

(6) レスポンス

Content-Type:application/json

コード	レスポンス JSON プロパティ
200	なし
200,422 以外	<code>resp_error.json</code>
422	<code>resp_validation_err.json</code>

JSON プロパティの内容は「8.1 通報管理サービスの JSON」を参照ください。

7.2.3 サインイントークン更新API

(1) 機能

サインイントークンの更新を行います。サインインで取得したトークンは、3600 秒（60 分）有効です。有効期限を延長する必要がある場合、本 API を使用します。

(2) リクエスト形式

```
POST https://host/api/v1/refresh_token
```

(3) リクエストデータ

Content-Type:application/json

以下の JSON プロパティを指定します。

- ・ refresh_token.json

JSON プロパティの内容は「8.1 通報管理サービスの JSON」を参照ください。

(4) 注意事項

なし。

(5) レスポンスステータスコード

コード	説明
200	成功
401	認証失敗
403	サービス拒否(サービスの有効期限が切れている)
422	Validation error

(6) レスポンス

Content-Type:application/json

コード	レスポンス JSON プロパティ
200	resp_signin.json
200,422 以外	resp_error.json
422	resp_validation_err.json

JSON プロパティの内容は「8.1 通報管理サービスの JSON」を参照ください。

7.2.4 発信受付API

(1) 機能

発信受付 API では（電話，SMS，メール，LINE WORKS，Slack，Microsoft Teams）各種の発信要求を行います。発信受付が成功した場合，レスポンスとして sid を返します。sid はのちの発信問い合わせ API で使用します。

(2) リクエスト形式

```
POST https://host/api/v1/notify/
```

(3) リクエストデータ

Content-Type:application/json

発信する通知（電話，SMS，メール，LINE WORKS，Slack，Microsoft Teams）ごとに，以下のいずれかの JSON プロパティを使用して指定します。

- ・ telnotify.json
- ・ smsnotify.json

7. API

- mailnotify.json
- linenotify.json
- slacknotify.json
- teamsnotify.json

JSON プロパティの内容は「8.1 通報管理サービスの JSON」を参照ください。

(4) 注意事項

各発信に関しては、発信事項や各外部通信サービス側の注意事項など「4.1 発信制限に関して」「4.3 外部通信サービス側の注意事項に関して」に記載された内容をご確認の上でご使用ください。

(5) レスポンスステータスコード

コード	説明
200	発信要求が成功したことを意味します
401	認証失敗
422	Validation error

(6) レスポンス

Content-Type:application/json

コード	レスポンス JSON プロパティ
200	resp_notify_ok.json
200,422 以外	resp_error.json
422	resp_validation_err.json

JSON プロパティの内容は「8.1 通報管理サービスの JSON」を参照ください。

本API で取得した(resp_notify_ok.json)の sid の値は、発信問い合わせAPI で使用します。

7.2.5 発信問い合わせAPI

(1) 機能

発信状況の問い合わせを行います。発信受付 API で取得した sid を使用して、該当発信の状況をレスポンスに返します。

(2) リクエスト形式

```
GET https://host/api/v1/notify/?sid={sid}
```

(3) リクエストパラメタ

sid: 発信受付 API で取得した発信識別子(sid)を指定します。

(4) 注意事項

なし。

(5) レスポンスステータスコード

コード	説明
200	成功
401	認証失敗
404	指定された発信識別子(sid)が見つからない
422	Validation error

(6) レスポンス

Content-Type:application/json

コード	レスポンス JSON プロパティ
200	resp_inquiry_ok.json
200,422 以外	resp_error.json
422	resp_validation_err.json

JSON プロパティの内容は「8.1 通報管理サービスの JSON」を参照ください。

7.2.6 連絡網発信API

(1) 機能

連絡網発信 API では連絡網の発信要求を行います。連絡網発信が開始された場合、レスポンスとして sid を返します。sid はのちの連絡網発信結果取得 API で使用します。

(2) リクエスト形式

```
POST https://host/api/v1/net/{id}/execute
```

(3) リクエストパラメタ

id: 発信要求を行う、連絡網名を指定します。

(4) リクエストデータ

Content-Type:application/json

以下の JSON プロパティを指定します。

- netnotify.json

JSON プロパティの内容は「8.1 通報管理サービスの JSON」を参照ください。

(5) 注意事項

連絡網に定義された各発信に関しては、発信事項や各外部通信サービス側の注意事項など「4.1 発信制限に関して」「4.3 外部通信サービス側の注意事項に関して」に記載された内容をご確認の上でご使用ください。

(6) レスポンスステータスコード

コード	説明
200	発信を開始したことを意味します
401	認証失敗

404	指定された連絡網名が見つからない
422	Validation error

(7) レスポンス

Content-Type:application/json

コード	レスポンス JSON プロパティ
200	resp_notify_ok.json
200,422 以外	resp_error.json
422	resp_validation_err.json

JSON プロパティの内容は「8.1 通報管理サービスの JSON」を参照ください。

本 API で取得した(resp_notify_ok.json)の sid の値は、発信問い合わせ API で使用します。

7.2.7 連絡網発信結果取得API

(1) 機能

連絡網の発信結果の問い合わせを行います。連絡網の名称と連絡網発信 API で取得した sid を使用して、該当連絡網の結果をレスポンスに返します。

(2) リクエスト形式

```
GET https://host/api/v1/net/{id}/execute?sid={sid}
```

(3) リクエストパラメタ

id : 発信結果を取得する、連絡網名を指定します。
sid : 連絡網発信 API で取得した発信識別子(sid)を指定します。

(4) 注意事項

なし。

(5) レスポンスステータスコード

コード	説明
200	成功
401	認証失敗
422	Validation error

(6) レスポンス

Content-Type:application/json

コード	レスポンス JSON プロパティ
200	resp_inquiry_ok.json
200,422 以外	resp_error.json
422	resp_validation_err.json

JSON プロパティの内容は「8.1 通報管理サービスの JSON」を参照ください。

7.2.8 通知先ユーザ定義登録API

(1) 機能

ユーザ定義情報の登録(インポート)を行います。複数のユーザ情報をまとめて登録する場合に使用が可能です。

(2) リクエスト形式

```
POST https://host/api/v1/user/
```

(3) リクエストデータ

Content-Type:application/json

以下の JSON プロパティを指定します。

•users.json

JSON プロパティの内容は「8.1 通報管理サービスの JSON」を参照ください。

(4) 注意事項

ユーザ定義ファイル(users.json)の「mirroring オプション」を使用して以下の動作が可能です。

- ユーザ定義ファイル(users.json)に記載された通知先ユーザがすでに登録済みの場合、上書きして登録する。
- ユーザ定義ファイル(users.json)に記載された通知先ユーザが登録されていない場合、追加して登録する。
- ユーザ定義ファイル(users.json)で指定したユーザ情報と登録済みのユーザ情報を一致させる（登録済のユーザ定義をすべて削除して、-f で指定したユーザ定義ファイルの情報で書き換える）。

詳細は「8.1(49) users.json」を参照ください。

(5) レスポンスステータスコード

コード	説明
200	成功
401	認証失敗
403	ユーザ登録数の上限に達したため登録できない
422	Validation error

(6) レスポンス

Content-Type:application/json

コード	レスポンス JSON プロパティ
200	なし
200,422 以外	resp_error.json
422	resp_validation_err.json

JSON プロパティの内容は「8.1 通報管理サービスの JSON」を参照ください。

7.2.9 通知先ユーザ定義取得API

(1) 機能

登録されたユーザ定義情報の取得(エクスポート)を行います。

(2) リクエスト形式

```
GET https://host/api/v1/user/
GET https://host/api/v1/user/{userName}
```

(3) リクエストパラメタ

userName: 取得するユーザ名を指定します。指定しなかった場合は、すべてのユーザ定義情報を取得します。

(4) 注意事項

userName には「.」（ドット）で始まる文字列は指定しないでください。

(5) レスポンスステータスコード

コード	説明
200	成功
401	認証失敗
404	指定されたユーザ名が見つからない
422	Validation error

(6) レスポンス

Content-Type:application/json

コード	レスポンス JSON プロパティ
200	resp_users.json
200,422 以外	resp_error.json
422	resp_validation_err.json

JSON プロパティの内容は「8.1 通報管理サービスの JSON」を参照ください。

7.2.10 通知先ユーザ定義削除API

(1) 機能

指定されたユーザ定義情報を削除します。

(2) リクエスト形式

```
DELETE https://host/api/v1/user/
DELETE https://host/api/v1/user/{userName}
```

(3) リクエストパラメタ

userName: 削除するユーザ名を指定します。指定しなかった場合は、すべてのユーザ定義情報を削除します。

(4) 注意事項

userName には「.」（ドット）で始まる文字列は指定しないでください。

(5) レスポンスステータスコード

コード	説明
200	成功
401	認証失敗
422	Validation error

(6) レスポンス

Content-Type:application/json

コード	レスポンス JSON プロパティ
200	なし
200,422 以外	resp_error.json
422	resp_validation_err.json

JSON プロパティの内容は「8.1 通報管理サービスの JSON」を参照ください。

7.2.11 連絡網定義登録API

(1) 機能

連絡網定義情報の登録(インポート)を行います。複数の連絡網情報をまとめて登録する場合に使用が可能です。

(2) リクエスト形式

```
POST https://host/api/v1/net/
```

(3) リクエストデータ

Content-Type:application/json

以下の JSON プロパティを指定します。

- networks.json

JSON プロパティの内容は「8.1 通報管理サービスの JSON」を参照ください。

(4) 注意事項

連絡網定義ファイル(networks.json)の「mirroring オプション」を使用して以下の動作が可能です。

- 連絡網定義ファイル(networks.json)に記載された連絡網がすでに登録済みの場合、上書きして登録する。

7. API

- 連絡網定義ファイル(networks.json)に記載された連絡網が登録されていない場合、追加して登録する。
- 連絡網定義ファイル(networks.json)で指定した連絡網定義情報と登録済みの連絡網定義情報を一致させる（登録済の連絡網定義をすべて削除して、-f で指定した連絡網定義ファイルの情報で書き換える）。

詳細は「8.1(13) networks.json」を参照ください。

(5) レスポンスステータスコード

コード	説明
200	成功
401	認証失敗
403	連絡網登録数の上限に達したため登録できない
422	Validation error

(6) レスポンス

Content-Type:application/json

コード	レスポンス JSON プロパティ
200	なし
200,422 以外	resp_error.json
422	resp_validation_err.json

JSON プロパティの内容は「8.1 通報管理サービスの JSON」を参照ください。

7.2.12 連絡網定義取得API

(1) 機能

登録された連絡網定義情報の取得(エクスポート)を行います。

(2) リクエスト形式

```
GET https://host/api/v1/net/  
GET https://host/api/v1/net/{id}
```

(3) リクエストパラメタ

id: 取得する連絡網名を指定します。指定しなかった場合は、すべての連絡網定義情報を取得します。

(4) 注意事項

id には「.」（ドット）で始まる文字列は指定しないでください。

(5) レスポンスステータスコード

コード	説明
200	成功
401	認証失敗

404	指定された連絡網名が見つからない
422	Validation error

(6) レスポンス

Content-Type:application/json

コード	レスポンス JSON プロパティ
200	resp_networks.json
200,422 以外	resp_error.json
422	resp_validation_err.json

JSON プロパティの内容は「8.1 通報管理サービスの JSON」を参照ください。

7.2.13 連絡網定義削除API

(1) 機能

指定された連絡網定義情報の削除を行います。

(2) リクエスト形式

```
DELETE https://host/api/v1/net/
DELETE https://host/api/v1/net/{id}
```

(3) リクエストパラメタ

id: 削除する連絡網名を指定します。指定しなかった場合は、すべての連絡網定義情報を削除します。

(4) 注意事項

id には「.」（ドット）で始まる文字列は指定しないでください。

(5) レスポンスステータスコード

コード	説明
200	成功
401	認証失敗
422	Validation error

(6) レスポンス

Content-Type:application/json

コード	レスポンス JSON プロパティ
200	なし
200,422 以外	resp_error.json
422	resp_validation_err.json

JSON プロパティの内容は「8.1 通報管理サービスの JSON」を参照ください。

7.2.14 LINE WORKS トークルーム作成API

(1) 機能

LINE WORKS に指定したトークルームを作成します。

(2) リクエスト形式

```
POST https://host/api/v1/line/createroom
```

(3) リクエストデータ

Content-Type:application/json

•linecreateroom.json

JSON プロパティの内容は「8.1 通報管理サービスの JSON」を参照ください。

(4) 注意事項

LINE WORKS の仕様により、作成したトークルームは、トークルームへメッセージ投稿が行われるまでは、参照することができません。作成した直後に参照しても該当するトークルームは表示されませんので、ご注意ください。

(5) レスポンスステータスコード

コード	説明
200	成功
401	認証失敗
422	Validation error

(6) レスポンス

Content-Type:application/json

コード	レスポンス JSON プロパティ
200	resp_linecreateroom.json
200,422 以外	resp_error.json
422	resp_validation_err.json

JSON プロパティの内容は「8.1 通報管理サービスの JSON」を参照ください。

7.2.15 発信情報件数問い合わせAPI

(1) 機能

発信情報件数問い合わせ API では、発信情報の件数を返します。発信情報には、「完了済」と「未完了（発信中と未発信）」の情報が保管されており、指定された期日の発信情報件数を返します。

(2) リクエスト形式

```
GET https://host/api/v1/notifycount
```

(3) リクエストパラメタ

all:

完了, 未完了をカウントする場合は **True** を, 未完了のみをカウントするときは **False** を指定する

before:

指定した日時以前に受け付けた発信数をカウントする場合に日時を指定します。
指定する日時は `yyyymmddHHMMSS` の形式で指定します。

after:

指定した日時以降に受け付けた発信数をカウントする場合に日時を指定します。
指定する日時は `yyyymmddHHMMSS` の形式で指定します。

tz:

before, after の日時のタイムゾーン名を IANA 管理のタイムゾーン名で指定します。
省略時は日本時間として扱います。

(4) 注意事項

なし。

(5) レスポンスステータスコード

コード	説明
200	成功
401	認証失敗
422	Validation error

(6) レスポンス

Content-Type:application/json

コード	レスポンス JSON プロパティ
200	resp_inquiry_count.json
200,422 以外	resp_error.json
422	resp_validation_err.json

JSON プロパティの内容は「8.1 通報管理サービスの JSON」を参照ください。

7.2.16 発信情報削除API

(1) 機能

発信情報削除 API では, 発信情報を削除します。発信情報には, 「完了済」と「未完了 (発信中と未発信)」の情報が保管されており, 指定された sid または, 指定された期日の発信情報を削除します。

(2) リクエスト形式

```
DELETE https://host/api/v1/notify/
```

```
DELETE https://host/api/v1/notify?sid={sid}
```

(3) リクエストパラメタ

sid: 特定の sid の発信情報を削除するときに指定します。
本パラメタ指定時にはリクエストデータは不要です。

(4) リクエストデータ

Content-Type:application/json

•delete_notify.json

本パラメタ指定時にはリクエストパラメタは不要です。

JSON プロパティの内容は「8.1 通報管理サービスの JSON」を参照ください。

(5) 注意事項

なし。

(6) レスポンスステータスコード

コード	説明
200	成功
401	認証失敗
422	Validation error

(7) レスポンス

Content-Type:application/json

コード	レスポンス JSON プロパティ
200	なし
200,422 以外	resp_error.json
422	resp_validation_err.json

JSON プロパティの内容は「8.1 通報管理サービスの JSON」を参照ください。

7.2.17 ログ取得API

(1) 機能

発信や登録などが行われた際の動作ログの情報を取得します。

(2) リクエスト形式

```
GET https://host/api/v1/logget?message={True|False}
```

(3) リクエストパラメタ

message:

取得するログ種別を指定します。True の場合は公開ログを取得し、False の場合は非公開システムログを取得します。

after :

指定した日時以降のログを取得する場合に日時を指定します。指定する日時は `yyyymmddHHMM` の形式で指定します。（省略可: 省略した場合は残っているログの最古から）

before :

指定した日時以前のログを取得する場合に日時を指定します。指定する日時は `yyyymmddHHMM` の形式で指定します。（省略可: 省略した場合は最新のログまで）ログの取得範囲が残っているログの範囲外を示している場合は取得可能な範囲で取得します。

(4) 注意事項

なし。

(5) レスポンスステータスコード

コード	説明
200	成功
401	認証失敗
422	Validation error

(6) レスポンス

Content-Type:application/json

コード	レスポンス JSON プロパティ
200	なし
200,422 以外	resp_error.json
422	resp_validation_err.json

JSON プロパティの内容は「8.1 通報管理サービスの JSON」を参照ください。

8. JSONプロパティ

この章では、TELstaff クラウド型通報管理サービスの JSON プロパティについて説明します。

8.1 通報管理サービスのJSON

8.1 通報管理サービスのJSON

通報管理サービスが提供するコマンド、API のリクエストおよびレスポンスのデータ形式は、JSON 形式のプロパティを使用しています。各 JSON プロパティの内容を記載します。

JSON プロパティは以下の形式で記載します。

JSONプロパティ名: Type : JSON型 required : 必須プロパティはTrueと記載しています default : デフォルトの値(必須プロパティには省略値はありません) range : [最小値, 最大値]
--

JSON 型 : JSON プロパティの型を指定します。
 required : 必須プロパティであることを示します。
 default : プロパティを省略したときの省略値を示します。
 range : 型で指定した値の最小値, 最大値を示します。文字列の場合は文字列の長さ, 数値の場合は値, 配列の場合は要素数の範囲を示します。

使用する型名は以下です。

型名	説明
string	文字列の型です。二重引用符で値全体を囲みます。
number	数値の型です。半角の数字とピリオドを使い、10進数で値を指定します。
bool	真偽値の型です。「Yes」か「No」を選択するもので、Yesの場合 True, Noの場合はFalseを指定します。
null	ヌル値(値が空である)を表現する型です。
string[]	複数のstring型の値を一つにまとめた型です。複数のstring型をカンマで区切って並べ、全体を[]で囲みます。
number[]	複数のnumber型の値を一つにまとめた型です。複数のnumber型をカンマで区切って並べ、全体を[]で囲みます。
bool[]	複数のbool型の値を一つにまとめた型です。複数のbool型をカンマで区切って並べ、全体を[]で囲みます。
object	オブジェクトを指定する型です。1つ以上のプロパティをカンマで区切って並べ、全体を{}で囲みます。
object[]	複数のobject型の値を一つにまとめた型です。複数のobject型をカンマで区切って並べ、全体を[]で囲みます。

(1) calendar.json

カレンダー定義のリクエスト型です。

書式

week: type: bool [] # (*1)参照 default: [false, true, true, true, true, true, false] weekday: type: string [] # (*2)参照 default: [] range[0, 50]

```

holiday:
  type: string[]          # (*3)参照
  default: []
  range[0, 50]

```

- (*1)要素 0 を日曜日, 要素 6 を土曜日とし, 平日は true, 休日は false とします。
- (*2)特定日を平日とする際にその日付を yyyyymmdd 形式で指定します。week よりも優先されます。
- (*3)特定日を休日とする際にその日付を yyyyymmdd 形式で指定します。week よりも優先されます。

使用例

以下の例は日曜日と土曜日を休日とし, さらに「2021/10/22」と「2021/11/22」を休日とします。

```

{
  "week": [false, true, true, true, true, true, false],
  "weekday": [],
  "holiday": ["20211022", "20211122"]
}

```

(2) delete_notify.json

発信情報削除のリクエスト型です。削除するキュー（レコード）の情報を指定します。

書式

```

all:
  type: bool          # 未完了および完了したレコードを削除する場合はtrueを、
                     # 完了のみ削除するときはfalseを指定
  required: True
before:
  type: string       # 指定した日時以前に受け付けた発信レコードを削除する場合に
                     # 日時を指定
  default: null
after:
  type: string       # 指定した日時以降に受け付けた発信レコードを削除する場合に
                     # 日時を指定
  default: null
tz:
  type: string       # before, afterプロパティのタイムゾーンをIANA管理の
                     # タイムゾーン名で指定
  default: Asia/Tokyo

```

- before, after に指定する日時は yyyyymmddHHMMSS の形式で指定します。

使用例

以下の例は 2020/12/1 00:00:00～2020/12/31 23:59:59 に受け付けた発信のうち完了したレコードを削除します。

```

{
  "all": false,
  "after": "20201201000000",
  "before": "20201231235959",
  "tz": "Asia/Tokyo"
}

```

8. JSON プロパティ

```
}  
}
```

(3) linecreateroom.json

LINE WORKS トークルーム作成のリクエスト型です。作成するトークルームの情報を指定します。

書式

```
name:  
  type: string          # 作成するトークルーム名を指定  
  required: True  
  range[1, 1000]  
accountIDs:  
  type: string[]       # トークルームに参加させるメンバーのIDを指定(*1)  
  required: True  
  range: [1, 8].range[0, 512]  
lineProfile:  
  type: string         # LINE WORKSプロフィール名を指定  
  required: True  
  range[1, 100]
```

- ・ トークルーム名には半角空白文字および次の文字は使用できません。

```
" ¥ / * ? [ ] = < > ! ' $ % & , ; # 半角空白文字 ASCII制御文字 (0x00~0x1f, 0x7f)
```

- ・ (*1) メンバーの ID は 1~8 個まで指定可能で、1 つのメンバーID は 512 文字以内で指定します。

使用例

```
{  
  "name": "トークルーム",  
  "accountIDs": ["test00@works-xxxx", "test01@works-xxxx"],  
  "lineProfile": "保守チーム"  
}
```

(4) linenotify.json

LINE WORKS への発信のリクエスト型です。LINE WORKS への発信情報を指定します。

書式

```
parameters:  
  type: object          # 「(6) linenotifyv2_detail.json」型を指定  
  required: True
```

使用例

```
{  
  "parameters": {  
    "type": "line",  
    "user": "ユーザA",  
    "content": "この内容を投稿します"  
  }  
}
```

(5) linenotifyv2.json

連絡網の登録で使用する「(11) net.json」のリクエスト型の一部です。LINE WORKS のメンバーへ発信する情報を指定します。

書式

```

type:
  type: string          # "linev2"固定
  required: True
parameters:
  type: string          # 「(17) notify_user.json」型を指定
  required: True

```

使用例

```

{
  "type": "linev2",
  "parameters": {
    "name": "ユーザA"
  }
}

```

(6) linenotifyv2_detail.json

LINE WORKS への発信のリクエスト型の一部です。

書式

```

type:
  type: string          # "line"固定
  required: True
user:
  type: string          # 通知先ユーザ名を指定
  range[0, 100]
roomid:
  type: string          # LINE WORKS トークルームIDを指定
  range[0, 64]
content:
  type: string          # 発信内容を指定
  required: True
lineProfile:
  type: string          # LINE WORKS プロファイル名を指定
  range[1, 100]

```

- user あるいは roomid のいずれかを指定する必要があります。両方同時には指定できません。
- roomid を指定する場合は同時に LINE WORKS プロファイル名を指定する必要があります。user を指定する場合は LINE WORKS プロファイル名の指定は不要です。

使用例 1

```

{
  "type": "line",
  "user": "ユーザA",

```

8. JSON プロパティ

```
  "content": "この内容を投稿します"  
}
```

使用例 2

```
{  
  "type": "line",  
  "roomid": "63836238",  
  "content": "この内容を投稿します",  
  "lineProfile": "LWProfile1"  
}
```

(7) lineroom_notify.json

連絡網の登録で使用する「(11) net.json」のリクエスト型の一部です。LINE WORKS のトークルームへ発信する情報を指定します。

書式

```
type:  
  type: string          # "lineroomv2" 固定  
  required: True  
parameters:  
  type: object          # 「(14) notify_line_room.json」型を指定  
  required: True
```

使用例

```
{  
  "type": "lineroomv2",  
  "parameters": {  
    "roomID": "63836238",  
    "lineProfile": "LWProfile1"  
  }  
}
```

(8) mailnotify.json

メールへの発信のリクエスト型です。メールの発信情報を指定します。

書式

```
parameters:  
  type: object          # 「(10) mailnotifyv2_detail.json」型を指定  
  required: True
```

使用例

```
{  
  "parameters": {  
    "type": "mail",  
    "user": "ユーザA",  
    "subject": "障害通知",  
    "content": "この内容を投稿します"  
  }  
}
```

```
}

```

(9) mailnotifyv2.json

連絡網の登録で使用する「(11) net.json」のリクエスト型の一部です。メール送信する情報を指定します。

書式

```
type:
  type: string          # "mailv2"固定
  required: True
parameters:
  type: object          # 「(17) notify_user.json」型を指定
  required: True

```

使用例

```
{
  "type": "mailv2",
  "parameters": {
    "name": "ユーザA"
  }
}

```

(10) mailnotifyv2_detail.json

メールへの発信のリクエスト型の一部です。

書式

```
type:
  type: string          # "mail"固定
  required: True
user:
  type: string          # 通知先ユーザ名を指定
  required: True
  range[0, 100]
subject:
  type: string          # メール の 件名 を 指定
  required: True
  range[0, 200]
content:
  type: string          # 発信内容を指定
  required: True
  range[0, 10000]

```

使用例 1

```
{
  "type": "mail",
  "user": "ユーザA",
  "subject": "障害通知",
  "content": "この内容を投稿します"
}

```


8. JSON プロパティ

(11) net.json

連絡網の登録で使用するリクエスト型の一部です。1つの連絡網の情報を指定します。

書式

```
name: string
  type: string          # 連絡網名を指定
  required: True
  range: [1, 100]
tryCount:
  type: number          # 連絡網の繰り返し回数を指定
  range: [1, 30]
  default: 1
cancelWhenConfirmed:
  type: bool            # 「確認が取れたら中止する」を指定
  default: False
confirmd_escalation:
  type: string          # 「確認時エスカレーション先連絡網名」を指定
  default: null
  range[0, 100]
completed_escalation:
  type: string          # 「未確認時エスカレーション先連絡網名」を指定
  default: null
  range[0, 100]
notifications:
  type: object[]        # (*1)参照
  required: True
  range[0, 20]
calendar:
  type: object[]        # 「(1) calendar.json」を指定
  default: null
schedule:
  type: object[]        # 「(31) schedule.json」を指定
  default: null
confirmed_api:
  type: string          # 「確認時外部API実行プロファイル名」を指定
  default: None
  range[0, 100]
completed_api:
  type: string          # 「未確認時外部API実行プロファイル名」を指定
  default: None
  range[0, 100]
```

- (*1) 以下のいずれかを指定します。配列として複数指定可能です。

- 「(5) linenotifyv2.json」
- 「(7) lineroom_notify.json」
- 「(9) mailnotifyv2.json」
- 「(35) slackchannel_notify.json」
- 「(37) slacknotifyv2.json」
- 「(40) smsnotifyv2.json」
- 「(43) teamsnotifyv2.json」
- 「(46) telnotifyv2.json」

- 連絡網名には半角空白文字および次の文字は使用できません。

“ ¥ / * ? [] = < > ! ' \$ % & , ; # + 半角空白文字 ASCII制御文字 (0x00~0x1f, 0x7f) サロ
 ゲートペア文字
 連絡網名には「.」（ドット）で始まる文字列は指定しないでください。

使用例

```
{
  "name": "連絡網A",
  "tryCount": 2,
  "cancelWhenConfirmed": false,
  "confirmd_escalation": "確認時連絡網B",
  "completed_escalation": "未確認時連絡網C",
  "confirmed_api": "ExtAPI1",
  "completed_api": "ExtAPI2",
  "notifications": [{
    "type": "mailv2",
    "parameters": {
      "name": "ユーザA"
    }
  }, {
    "type": "telv2",
    "parameters": {
      "name": "ユーザB"
    }
  }],
  "calendar": {
    "week": [false, true, true, true, true, true, false],
    "weekday": [],
    "holiday": ["20211022", "2021122"]
  },
  "schedule": {
    "tel1": [{
      "isWeekday": true,
      "start": "0000",
      "end": "0845"
    }]
  }
}
```

(12) netnotify.json

連絡網発信 API のリクエスト型です。

書式

```
tel_content:
  type: string          # 連絡網内の電話発信の内容を指定
  default: null
  range[0, 10000]
sms_content:
  type: string          # 連絡網内の電話発信の内容を指定
  default: null
  range[0, 10000]
mail_subject:
  type: string          # 連絡網内のメール発信時の件名を指定
```

8. JSON プロパティ

```
    default: null
    range[0, 200]
mail_content:
  type: string          # 連絡網内のメール発信の内容を指定
  default: null
  range[0, 10000]
line_content:
  type: string          # 連絡網内のLINE WORKSへの発信の内容を指定
  default: null
  range[0, 10000]
slack_content:
  type: string          # 連絡網内のSlackへの発信の内容を指定
  default: null
  range[0, 10000]
teams_content:
  type: string          # 連絡網内のMicrosoft Teamsへの発信の内容を指定
  default: null
  range[0, 10000]
api_env:
  type: dict            # [str, str]の辞書型を指定 例: {'k1': 'v1', 'k2': 'v2'}
  default: null        ※キーの名前(例: k1, k2の値)は32文字以内で指定してください
request_id:
  type: string          # 発信を一意に識別するための文字列を指定(省略可)
  default: null
  range[0, 256]
```

- ・ 連絡網の通知先メディアの通知文が指定されていないときは「[notifysaas]からの連絡です」のメッセージを通知します。
- ・ 連絡網にメール通知があり、mail_subject が指定されていない(空文字列含む)ときは「[notifysaas]からの連絡です」をメールの件名とします。
- ・ api_env には外部 API 連携の変数を設定します。

使用例

```
{
  "tel_content": "電話発信メッセージです",
  "sms_content": "SMS発信メッセージです",
  "mail_subject": "メールの件名です",
  "mail_content": "メールの本文です",
  "line_content": "LINE WORKS発信メッセージです",
  "slack_content": "Slack発信メッセージです",
  "teams_content": "Microsoft Teams発信メッセージです",
  "api_env": {
    "foo": "aaaaa",
    "bar": "bbbbbb"
  }
}
```

(13) networks.json

連絡網情報定義の登録のリクエスト型です。

書式

```
mirroring:
  type: bool          # 全ての連絡網情報をリクエストと一致させるか(*1)
  default: False
networks:
```

```
type: object[]      # 「(11) net.json」の配列を指定
required: True
```

- (*1)mirroring オプションを false にした場合は networks 内にある連絡網情報のみを更新または存在しない場合は登録します。 mirroring オプションを true にした場合は全連絡網情報を削除後、 networks 内の情報を登録します。

使用例) 連絡網 A, 連絡網 B, 連絡網 C の 3 個の定義が登録済の場合

例 1) networks に連絡網 A の内容のみを設定し、 mirroring オプションを false を指定した場合

...連絡網 A の内容が更新される。

例 2) networks に連絡網 A の内容のみを設定し、 mirroring オプションを true を指定した場合

...連絡網 A の内容が更新され、連絡網 B, 連絡網 C は削除される。

例 3) networks に連絡網 D の内容のみを設定し、 mirroring オプションを false を指定した場合

...連絡網 D の内容が追加される。

例 4) networks に連絡網 D の内容のみを設定し、 mirroring オプションを true を指定した場合

...連絡網 D の内容が追加され、連絡網 A, 連絡網 B, 連絡網 C は削除される。

使用例

```
{
  "mirroring": false,
  "networks": [{
    "name": "連絡網A",
    "tryCount": 2,
    "cancelWhenConfirmed": false,
    "confirmd_escalation": "確認時連絡網A",
    "completed_escalation": "未確認時連絡網A",
    "notifications": [{
      "type": "mailv2",
      "parameters": {
        "name": "ユーザA1"
      }
    }
  ], {
    "type": "telv2",
    "parameters": {
      "name": "ユーザA2"
    }
  }
  ], {
    "name": "連絡網B",
    "tryCount": 5,
    "cancelWhenConfirmed": true,
    "confirmd_escalation": "確認時連絡網B",
    "completed_escalation": "未確認時連絡網B",
    "notifications": [{
      "type": "slackv2",
      "parameters": {
        "name": "ユーザB1"
      }
    }
  ]
}
```

8. JSON プロパティ

```
    }
  }, {
    "type": "telv2",
    "parameters": {
      "name": "ユーザB2"
    }
  }
]]
}
```

(14) notify_line_room.json

連絡網の登録で使用する「(11) net.json」のリクエスト型の一部です。LINE WORKS のトークルームへ発信する詳細情報を指定します。

書式

```
roomID:
  type: string          # LINE WORKS トークルームIDを指定
  default: null
  range[0, 64]
lineProfile:
  type: string          # LINE WORKS プロファイル名を指定
  default: ""
  range[1, 100]
```

使用例

```
{
  "roomID": "63836238",
  "lineProfile": "LWProfile1"
}
```

(15) notify_slack_channel.json

連絡網の登録で使用する「(11) net.json」のリクエスト型の一部です。Slack のチャンネルへ発信する詳細情報を指定します。

書式

```
channel:
  type: string          # 通知先Slackチャンネル名を指定
  default: null
  range[0, 160]
slackProfile:
  type: string          # Slack プロファイル名を指定
  default: ""
  range[1, 100]
```

使用例

```
{
  "channel": "お知らせ",
  "slackProfile": "SlackProfile1"
}
```

(16) notify_teams.json

連絡網の登録で使用する「(11) net.json」のリクエスト型の一部です。Microsoft Teams のチャンネルへ発信する詳細情報を指定します。

書式

```
teamsProfile:
  type: string          # Microsoft Teams プロファイル名を指定
  default: null
  range[1, 100]
```

使用例

```
{
  "teamsProfile": "TeamsProfile1"
}
```

(17) notify_user.json

通知先ユーザを指定するリクエスト型です。各通知でユーザを指定する場合に使用します。

書式

```
user:
  type: string          # 通知先ユーザ名を指定
  required: True
  range[1, 100]
```

使用例

```
{
  "name": "ユーザA"
}
```

(18) refresh_token.json

「7.2.3 サインイントークン更新 API」で使用するリクエスト型です。サインイン API で取得したトークンを更新（リフレッシュ）します。

書式

```
refresh_token:
  type: string          # サインインAPIで取得した refresh_token 値
  required: True
```

使用例

```
{
  refresh_token": "eyJi...."
}
```

(19) resp_error.json

HTTP のステータスコードが 422 以外のときに返すレスポンス型です。

8. JSON プロパティ

書式

detail:	
type: string	# エラー内容

使用例

{
"detail": "エラー内容"
}

(20) resp_inquiry_count.json

「7.2.15 発信情報件数問い合わせ API」成功時の情報を返すレスポンス型です。

書式

count:	
type: number	# 発信数

使用例

{
"count": 5
}

(21) resp_inquiry_ok.json

「7.2.5 発信問い合わせ API」成功時の情報を返すレスポンス型です。

書式

sid:	
type: string	# 発信識別子
status:	
type: string	# 発信状況

使用例

{
"sid": "TSNotify-yyyyymmdd.HHMMSS-5661846b-b5ad-4cc4-b74a-5b5f6d4b2f14",
"status": "confirmed"
}

status の値は、通知メディア毎に変わります。

表 8.1-1 電話発信の状態一覧 (Twilioの場合)

status の値	意味
busy	話し中を意味します。
completed	終了操作が行われたことを意味します。(プッシュ操作で「#」を押下)
confirmed	確認操作が行われたことを意味します。(プッシュ操作で「2」を押下)
failed	エラーを意味します。
inprogress	発信中を意味します。

status の値	意味
input error	入力エラーを意味します。
no answer	相手不在を意味します。
twilio timeout	Twilio からの応答がタイムアウトしたことを意味します。

表 8.1-2 電話発信の状態一覧（電話通知プランの場合）

status の値	意味
completed	終了操作が行われたことを意味します。（プッシュ操作で「#」を押下）
confirmed	確認操作が行われたことを意味します。（プッシュ操作で「2」を押下）
failed	エラーを意味します。
inprogress	発信中を意味します。
twilio timeout	応答がタイムアウトしたことを意味します。（話中、相手不在などの場合も含まれます）
timeout2	同時通話の待ち時間中にタイムアウトしたことを意味します。

表 8.1-3 SMS発信の状態一覧

status の値	意味
failed	エラーを意味します。
delivered	上位キャリアまでの送達を確認されたことを意味します。
inprogress	発信中を意味します。
sent	直近のキャリアまで送達したことを意味します。
twilio timeout	Twilio からの応答がタイムアウトしたことを意味します。

表 8.1-4 メール、LINE WORKS、Slack、Microsoft Teams発信の状態一覧

status の値	意味
completed	投稿（メールの場合、送信）されたことを意味します。
failed	エラーを意味します。
inprogress	発信中を意味します。

表 8.1-5 連絡網発信の状態一覧

status の値	意味
completed	完了を意味します。
confirmed	確認されたので中断したことを意味します。
inprogress	発信中を意味します。

(22) resp_linecreateroom.json

「7.2.14 LINE WORKS トークルーム作成 API」成功時の情報を返すレスポンス型です。

書式

roomID: type: string	# 作成されたトークルームID
-------------------------	-----------------

使用例

{

8. JSON プロパティ

```
"roomID": "82817104"
}
```

(23) resp_net.json

連絡網定義情報の取得のレスポンス型の一部です。

書式

```
name: string
  type: string           # 連絡網名
  required: True
  range: [1, 100]
```

使用例

```
{
  "name": "連絡網1"
}
```

(24) resp_networks.json

「7.2.12 連絡網定義取得 API」成功時の情報を返すレスポンス型です。

書式

```
networks:
  type: object[]       # 「(23) resp_net.json」の配列
  required: True
```

使用例

```
{
  "networks": [{
    "name": "連絡網1"
  }, {
    "name": "連絡網2",
  }]
}
```

(25) resp_notify_ok.json

「7.2.4 発信受付 API」成功時の情報を返すレスポンス型です。

書式

```
ok:
  type: bool
sid:
  type: string          # 発信識別子
```

使用例

```
{
  "ok": true,
}
```

```

    "sid": "TSNotify-yyyyymmdd.HHMMSS-5661846b-b5ad-4cc4-b74a-5b5f6d4b2f14"
  }

```

(26) resp_signin.json

「7.2.1 サインイン API」成功時の認証情報を返すレスポンス型です

書式

```

id_token:
  type: string      # IDトークン。この値を各APIのAuthorizationヘッダに指定
expire:
  type: number      # IDトークンの有効期限(秒)
refresh_token:
  type: string      # IDトークンの更新用トークン(*1)
access_token:
  type: string      # アクセストークン。サインアウト時に使用

```

- (*1) ID トークン有効期限を超えて、サインインの状態を維持する場合、このトークンを使用して「7.2.3 サインイントークン更新 API」を動作させ、トークンを更新する必要があります。

使用例

```

{
  "id_token": "eyJra...",
  "expire": 3600,
  "refresh_token": "eyJj...",
  "access_token": "eyJx..."
}

```

(27) resp_user.json

ユーザ定義情報の取得のレスポンス型の一部です。

書式

```

name:
  type: string      # ユーザ名
  required: True
  range[1, 100]

phoneNumber1:
  type: string      # 電話番号1
  default: ""
  range[0, 16]

phoneNumber2:
  type: string      # 電話番号2
  default: ""
  range[0, 16]

phoneNumber3:
  type: string      # 電話番号3
  default: ""
  range[0, 16]

```

8. JSON プロパティ

```
phoneNumber4:
  type: string          # 電話番号4
  default: ""
  range[0, 16]

phoneTwilioProfile:
  type: string          # 電話発信で使用するTwilioプロファイル名
  default: ""
  range[0, 100]

smsNumber:
  type: string          # SMS番号
  default: ""
  range[0, 16]

smsTwilioProfile:
  type: string          # SMS発信で使用するTwilioプロファイル名
  default: ""
  range[0, 100]

mailAddrs:
  type: string[]        # メールアドレス
  default: []
  range[0, 4].range[0, 512]

lineAccount:
  type: string          # LINE WORKSメンバーID
  default: ""
  range[0, 512]

lineProfile: string
  type: string          # LINE発信で使用するLINEプロファイル名
  default: ""
  range[0, 100]

slackAccount:
  type: string          # Slackメンバー名
  default: ""
  range[0, 1000]

slackProfile:
  type: string          # Slack発信で使用するSlackプロファイル名
  default: ""
  range[0, 100]
```

使用例

```
{
  "name": "taro",
  "phoneNumber1": "+81xxxxxyyy",
  "phoneTwilioProfile": "twilio_define_for_phone",
  "smsNumber": "+81xxxxxyyy",
  "smsTwilioProfile": "twilio_define_for_sms",
  "mailAddrs": ["taro@example.com", "taro@example.net"],
```

```

    "lineAccount": "taro@works-xxxx",
    "lineProfile": "line_define",
    "slackAccount": "taro",
    "slackProfile": "slack_profile"
  }

```

(28) resp_users.json

「7.2.9 通知先ユーザ定義取得 API」成功時の情報を返すレスポンス型です。

書式

```

users:
  type: object[]          # 「(27) resp_user.json」の配列

```

使用例

```

{
  "users": [
    {
      "name": "ユーザA",
      "phoneNumber1": "+81xxxxxyyyy",
      "phoneTwilioProfile": "TwilioProfile1",
      "smsNumber": "+81xxxxxyyyy",
      "smsTwilioProfile": "TwilioProfile1",
      "mailAdrs": ["taro@example.com", "taro@example.net"],
      "lineAccount": "taro@works-xxxx",
      "lineProfile": "LWProfile1",
      "slackAccount": "taro",
      "slackProfile": "SlackProfile"
    },
    {
      "name": "ユーザB",
      "phoneNumber1": "+81xxxxxyyyy",
      "phoneTwilioProfile": "TwilioProfile1",
      "smsNumber": "+81xxxxxyyyy",
      "smsTwilioProfile": "TwilioProfile1",
      "mailAdrs": ["hanako@example.com", "hanako@example.net"],
      "lineAccount": "hanako@works-xxxx",
      "lineProfile": "LWProfile1",
      "slackAccount": "hanako",
      "slackProfile": "SlackProfile"
    }
  ]
}

```

(29) resp_validation_err.json

HTTP のステータスコードが 422 のときに返すレスポンス型です。

書式

```

detail:
  type: object[]          # 「(30) resp_validation_err_detail.json」型

```

8. JSON プロパティ

使用例

```
{
  "detail": [
    {
      "loc": [ "body", "parameters", "index" ],
      "msg": "must be 1 to 4",
      "type": "assertion_error"
    }
  ]
}
```

(30) resp_validation_err_detail.json

HTTP のステータスコードが 422 のときに返すレスポンス型の一部です。

書式

```
loc:
  type: string[]          # 不正なパラメタ位置
msg:
  type: string           # エラー内容
type:
  type: string           # エラータイプ
```

使用例

```
{
  "loc": [ "body", "parameters", "index" ],
  "msg": "must be 1 to 4",
  "type": "assertion_error"
}
```

(31) schedule.json

スケジュール定義のリクエスト型です。

書式

```
tel1:
  type: object[]        # 電話番号1のスケジュールを指定(*1)
  default: []
  range[0, 20]
tel2:
  type: object[]        # 電話番号2のスケジュールを指定(*1)
  default: []
  range[0, 20]
tel3:
  type: object[]        # 電話番号3のスケジュールを指定(*1)
  default: []
  range[0, 20]
tel4:
  type: object[]        # 電話番号4のスケジュールを指定(*1)
  default: []
  range[0, 20]
sms:
  type: object[]        # SMSのスケジュールを指定(*1)
  default: []
  range[0, 20]
```

```

mail:
  type: object[]      # メールスケジュールを指定(*1)
  default: []
  range[0, 20]
line:
  type: object[]     # LINE WORKS(メンバー発信)のスケジュールを指定(*1)
  default: []
  range[0, 20]
lineRoom:
  type: object[]     # LINE WORKS(トークルーム発信)のスケジュールを指定(*1)(*2)
  default: []
  range[0, 20]
slack:
  type: object[]     # Slack(メンバー発信)のスケジュールを指定(*1)
  default: []
  range[0, 20]
slackChannel:
  type: object[]     # Slack(チャンネル発信)のスケジュールを指定(*1)(*2)
  default: []
  range[0, 20]
teams:
  type: object[]     # Microsoft Teamsのスケジュールを指定(*1)(*2)
  default: []
  range[0, 20]

```

- (*1) 「(32) schtime.json」の形式で指定します。
- (*2) ユーザ定義のスケジュールでは本プロパティは無効となります。
- 各配列の要素数は平日(isWeekday が true)が 10 まで、休日(isWeekday が false)が 10 までのそれぞれで最大数の個数制限があります。

使用例

```

{
  "tel1": [
    {
      "isWeekday": true,
      "start": "00:00",
      "end": "08:45"
    }, {
      "isWeekday": true,
      "start": "20:00",
      "end": "23:59"
    }
  ],
  "tel2": [],
  "tel3": [],
  "tel4": [],
  "sms": [
    {
      "isWeekday": true,
      "start": "00:00",
      "end": "08:45"
    }, {
      "isWeekday": true,
      "start": "20:00",
      "end": "23:59"
    }
  ]
}

```

8. JSON プロパティ

```
    }  
  ],  
  "mail": [],  
  "line": [],  
  "lineRoom": [],  
  "slack": [],  
  "slackChannel": [],  
  "teams": []  
}
```

(32) schtime.json

スケジュール定義のリクエスト型の一部です。

書式

```
isWeekday:  
  type: bool                # true: 平日, false: 休日  
  default: False  
start:  
  type: string              # スケジュール開始時刻(HH:MM形式であること)  
  required: True  
end:  
  type: string              # スケジュール終了時刻(HH:MM形式であること)  
  required: True
```

- スケジュールの開始時刻は終了時刻より前でなければなりません。
- 開始時刻は指定した時刻の 0 秒から開始され、終了時刻は指定した時刻の分が終わる時刻までとなります。

使用例

```
{  
  "isWeekday": true,  
  "start": "00:00",  
  "end": "08:45"  
}
```

(33) signin.json

「7.2.1 サインイン API」で使用するリクエスト型です。

書式

```
account:  
  type: string              # アカウント名  
  required: True  
password:  
  type: string              # パスワード  
  required: True  
  range[8, 128]
```

使用例

```
{  
  "account": "taro",  
  "password": "password"  
}
```

(34) signout.json

「7.2.2 サインアウト API」で使用するリクエスト型です。

書式

```
access_token:
  type: string          # サインインAPIで取得した access_token 値
  required: True
```

使用例

```
{
  "access_token": "eyji...."
}
```

(35) slackchannel_notify.json

連絡網の登録で使用する「(11) net.json」のリクエスト型の一部です。Slack のチャンネルへ発信する情報を指定します。

書式

```
type:
  type: string          # "slackchannelv2"固定
  required: True
parameters:
  type: object          # 「(15) notify_slack_channel.json」型を指定
  required: True
```

使用例

```
{
  "type": "slackchannelv2",
  "parameters": {
    "channel": "お知らせ",
    "slackProfile": "SlackProfile1"
  }
}
```

(36) slacknotify.json

「7.2.4 発信受付 API」のリクエスト型です。Slack への発信情報を指定します。

書式

```
parameters:
  type: object          # 「(38) slacknotifyv2_detail.json」型を指定
  required: True
```

使用例

```
{
  "parameters": {
    "type": "slack",
    "user": "ユーザA",
```


8. JSON プロパティ

```
    "content": "この内容を投稿します"  
  }  
}
```

(37) slacknotifyv2.json

連絡網の登録で使用する「(11) net.json」のリクエスト型の一部です。Slack のメンバーへ発信する情報を指定します。

書式

```
type:  
  type: string          # "slackv2"固定  
  required: True  
parameters:  
  type: string          # 「(17) notify_user.json」型を指定  
  required: True
```

使用例

```
{  
  "type": "slackv2",  
  "parameters": {  
    "name": "ユーザA"  
  }  
}
```

(38) slacknotifyv2_detail.json

Slack への発信のリクエスト型の一部です。

書式

```
type:  
  type: string          # "slack"固定  
  required: True  
user:  
  type: string          # 通知先ユーザ名を指定  
  range[0, 100]  
channel:  
  type: string          # Slackチャンネル名を指定  
  range[0, 160]  
content:  
  type: string          # 発信内容を指定  
  required: True  
  range[1, 10000]  
slackProfile:  
  type: string          # Slackプロフィール名を指定  
  range[1, 100]
```

- user あるいは channel のいずれかを指定する必要があります。両方同時には指定できません。
- channel を指定する場合は同時に Slack プロファイル名を指定する必要があります。user を指定する場合は Slack プロファイル名の指定は不要です。

使用例 1

```
{
  "type": "slack",
  "user": "ユーザA",
  "content": "この内容を投稿します"
}
```

使用例 2

```
{
  "type": "slack",
  "channel": "お知らせ",
  "content": "この内容を投稿します",
  "slackProfile": "SlackProfile1"
}
```

(39) smsnotify.json

「7.2.4 発信受付 API」のリクエスト型です。SMS 発信情報を指定します。

書式

```
parameters:
  type: object          # 「(41) smsnotifyv2_detail.json」型を指定
  required: True
```

使用例

```
{
  "parameters": {
    "type": "sms",
    "user": "ユーザA",
    "content": "この内容を投稿します"
  }
}
```

(40) smsnotifyv2.json

連絡網の登録で使用する「(11) net.json」のリクエスト型の一部です。SMS 発信する情報を指定します。

書式

```
type:
  type: string          # "smsv2"固定
  required: True
parameters:
  type: object          # 「(17) notify_user.json」型を指定
  required: True
```

使用例

```
{
  "type": "smsv2",
  "parameters": {
```

8. JSON プロパティ

```
    "name": "ユーザA"  
  }  
}
```

(41) smsnotifyv2_detail.json

SMS 発信のリクエスト型の一部です。

書式

```
type:  
  type: string          # "sms"固定  
  required: True  
user:  
  type: string          # 通知先ユーザ名を指定  
  required: True  
  range[0, 100]  
content:  
  type: string          # 発信内容を指定  
  required: True  
  range[0, 10000]
```

使用例 1

```
{  
  "type": "sms",  
  "user": "ユーザA",  
  "content": "この内容を投稿します"  
}
```

(42) teamsnotify.json

「7.2.4 発信受付 API」のリクエスト型です。Microsoft Teams への発信情報を指定します。

書式

```
parameters:  
  type: object          # 「(43) teamsnotifyv2.json」型を指定  
  required: True
```

使用例

```
{  
  "parameters": {  
    "type": "teams",  
    "content": "この内容を投稿します",  
    "teamsProfile": "TeamsProfile1"  
  }  
}
```

(43) teamsnotifyv2.json

連絡網の登録で使用する「(11) net.json」のリクエスト型の一部です。Microsoft Teams のチャンネルへ発信する情報を指定します。

書式

```

type:
  type: string          # "teamsv2"固定
  required: True
parameters:
  type: object          # 「(16) notify_teams.json」型を指定
  required: True

```

使用例

```

{
  "type": "teamsv2",
  "parameters": {
    "teamsProfile": "TeamsProfile1"
  }
}

```

(44) teamsnotifyv2_detail.json

Microsoft Teams への発信のリクエスト型の一部です。

書式

```

type:
  type: string          # "teams"固定
  required: True
content:
  type: string          # 発信内容を指定
  required: True
  range[0, 10000]
teamsProfile:
  type: string          # Teams プロファイル名を指定
  required: True
  range[1, 100]

```

使用例 1

```

{
  "type": "teams",
  "content": "この内容を投稿します",
  "teamsProfile": "TeamsProfile1"
}

```

(45) telnotify.json

「7.2.4 発信受付 API」のリクエスト型です。電話発信情報を指定します。

書式

```

parameters:
  type: object          # 「(47) telnotifyv2_detail.json」型を指定
  required: True

```

使用例

```

{

```

8. JSON プロパティ

```
    "parameters": {
      "type": "tel",
      "user": "ユーザA",
      "index": 1,
      "content": "この内容を投稿します"
    }
  }
```

(46) telnotifyv2.json

連絡網の登録で使用する「(11) net.json」のリクエスト型の一部です。電話発信する情報を指定します。

書式

```
type:
  type: string          # "telv2"固定
  required: True
parameters:
  type: object          # 「(17) notify_user.json」型を指定
  required: True
```

使用例

```
{
  "type": "telv2",
  "parameters": {
    "name": "ユーザA"
  }
}
```

(47) telnotifyv2_detail.json

電話発信のリクエスト型の一部です。

書式

```
type:
  type: string          # "tel"固定
  required: True
user:
  type: string          # 通知先ユーザ名を指定
  required: True
  range[0, 100]
index:
  type: number          # (*1)参照
  required: True
  range[1, 4]
content:
  type: string          # 発信内容を指定
  required: True
  range[0, 10000]
```

- (*1) ユーザの電話番号 1~4 の電話番号を 1~4 の間で指定します。

使用例

```
{
  "type": "tel",
  "user": "ユーザA",
  "index": 1,
  "content": "この内容を投稿します"
}
```

(48) user.json

ユーザ定義情報の登録のリクエスト型の一部です。1つのユーザ定義情報を指定します。

書式

```
name:
  type: string          # ユーザ名を指定
  required: True
  range[1, 100]
phoneNumber1:
  type: string          # 電話番号1をE. 164形式, 16文字以内で指定
  default: ""
  range[0, 16]
phoneNumber2:
  type: string          # 電話番号2をE. 164形式, 16文字以内で指定
  default: ""
  range[0, 16]
phoneNumber3:
  type: string          # 電話番号3をE. 164形式, 16文字以内で指定
  default: ""
  range[0, 16]
phoneNumber4:
  type: string          # 電話番号4をE. 164形式, 16文字以内で指定
  default: ""
  range[0, 16]
phoneTwilioProfile:
  type: string          # 電話発信で使用するTwilioプロファイル名を指定
  default: ""
  range[0, 100]
smsNumber:
  type: string          # SMS番号をE. 164形式, 16文字以内で指定
  default: ""
  range[0, 16]
smsTwilioProfile:
  type: string          # SMS発信で使用するTwilioプロファイル名を指定
  default: ""
  range[0, 100]
mailAddrs:
  type: string[]        # メールアドレスを指定(*1)
  default: []
  range[0, 4].range[0, 512]
lineAccount:
  type: string          # LINE WOKSのメンバーIDを指定
  default: ""
  range[0, 512]
lineProfile: string
  type: string          # LINE WORKSプロファイル名を指定
```

8. JSON プロパティ

```
default: ""
range[0, 100]
slackAccount:
  type: string          # Slackメンバー名を指定
  default: ""
  range[0, 1000]
slackProfile:
  type: string          # Slacプロフィール名を指定
  default: ""
  range[0, 100]
calendar:
  type: object          # 「(1) calendar.json」を指定
  default: null
schedule:
  type: object          # 「(31) schedule.json」を指定
  default: null
```

- ユーザ名には半角空白文字および次の文字は使用できません。

```
" ¥ / * ? [ ] = < > ! ' $ % & , ; # + 半角空白文字 ASCII制御文字 (0x00~0x1f, 0x7f) サロ
ゲートペア文字
ユーザ名には「.」（ドット）で始まる文字列は指定しないでください。
```

- (*1) メールアドレスは 4 つまで、1 つのメールアドレスは 512 文字以内で指定しま
す。

使用例

```
{
  "name": "ユーザA",
  "phoneNumber1": "+81xxxxxyyyy",
  "phoneTwilioProfile": "TwilioProfile1",
  "smsNumber": "+81xxxxxyyyy",
  "smsTwilioProfile": "TwilioProfile1",
  "mailAdrs": ["taro@example.com", "taro@example.net"],
  "lineAccount": "taro@works-xxxx",
  "lineProfile": "LWProfile1",
  "slackAccount": "taro",
  "slackProfile": "SlackProfile"
}
```

(49) users.json

ユーザ定義情報の登録のリクエスト型です。

書式

```
mirroring:
  type: bool          # 全てのユーザ情報をリクエストと一致させるか(*1)
  default: False
users:
  type: object[]     # 「(48) user.json」の 配列を指定
  required: True
```

- (*1)mirroring オプションを false にした場合は users 内にあるユーザ情報のみを更
新または存在しない場合は登録します。 mirroring オプションを true にした場合は
全ユーザ情報を削除後、users 内の情報を登録します。

使用例) UserA, UserB, UserC の3名が登録済の場合

例1) usersにUserA の内容のみを設定し、mirroring オプションをfalseを指定した場合

...UserA の内容が更新される。

例2) usersにUserA の内容のみを設定し、mirroring オプションをtrueを指定した場合

...UserA の内容が更新され、UserB, UserC は削除される。

例3) users に UserD の内容のみを設定し、mirroring オプションをfalseを指定した場合

...UserD の内容が追加される。

例4) usersにUserD の内容のみを設定し、mirroring オプションをtrueを指定した場合

...UserD の内容が追加され、UserA, UserB, UserC は削除される。

使用例

```
{
  "mirroring": false,
  "users": [
    {
      "name": "ユーザA",
      "phoneNumber1": "+81xxxxxyyyy",
      "phoneTwilioProfile": "TwilioProfile1",
      "smsNumber": "+81xxxxxyyyy",
      "smsTwilioProfile": "TwilioProfile1",
      "mailAddrs": ["taro@example.com", "taro@example.net"],
      "lineAccount": "taro@works-xxxx",
      "lineProfile": "LWProfile1",
      "slackAccount": "taro",
      "slackProfile": "SlackProfile"
    },
    {
      "name": "ユーザB",
      "phoneNumber1": "+81xxxxxyyyy",
      "phoneTwilioProfile": "TwilioProfile1",
      "smsNumber": "+81xxxxxyyyy",
      "smsTwilioProfile": "TwilioProfile1",
      "mailAddrs": ["hanako@example.com", "hanako@example.net"],
      "lineAccount": "hanako@works-xxxx",
      "lineProfile": "LWProfile1",
      "slackAccount": "hanako",
      "slackProfile": "SlackProfile"
    }
  ]
}
```


9.メッセージ

この章では、TELstaff クラウド方通報管理サービスが出力するメッセージについて説明します。

9.1 メッセージについて

9.2 メッセージ一覧

9.1 メッセージについて

9.1.1 メッセージの形式

(1) ログファイルに記録されるメッセージ形式

[yyyy/mm/dd hh:mm:ss] nnnn-z メッセージテキスト
--

yyyy/mm/dd 出力日付を, yyyy (年), mm (月), dd (日) で示します。

hh:mm:ss 出力時刻を, hh (時), mm (分), ss (秒) で示します。

nnnn メッセージ番号を示します。

Z メッセージ種別を示します。種別には次のものがあります。

I 通知を表しユーザに情報を知らせます。

E エラーを表し処理は中止されます。

W 警告を表しメッセージ出力後, 処理は続行されます。

メッセージテキスト

メッセージ内容を示します。

9.1.2 メッセージの表記方法

メッセージは, メッセージ ID 順に, 次の形式で説明しています。メッセージは, バージョンアップに伴い変更されることがあります。

メッセージ ID

メッセージテキスト

解説

メッセージの説明

(S) システム処置を示します。

(U) メッセージに対する利用者の処置を示します。

9.1.3 メッセージ挿入文字の説明

(1) メッセージ挿入文字の説明

メッセージ ID 4045~4059 のメッセージが, `tlscbase` コマンドのメッセージとなります。メッセージテキストは, CSV 形式 (カンマ区切りテキスト) で出力されます。各列の説明を表 9.1-1 に示します。

表 9.1-1 各コマンドのメッセージ説明

列	説明
1	成否を示す文字。「o」:成功, 「x」:失敗を示します。 (全角の「○」「×」ではありません, 半角英字小文字の「o」「x」です)

9. メッセージ

列	説明
2	コマンド種別。「電話」「SMS」「メール」「LINE」「Slack」「Teams」「連絡網」「ログ」のいずれかを示します。
3	操作種別。「発信」「実行」「削除」「取得」のいずれかを示します。
4	操作種別により、内容が変わります。 <ul style="list-style-type: none">・操作種別が「発信」の場合、「宛先」を示します。・操作種別が「実行」の場合、「連絡網名」を示します。
5	情報 1。エラー内容やエラーコードなどが記載されます。
6	情報 2。エラー内容やエラーコードなどが記載されます。

※：カンマ区切りの 6 項目（6 列）で構成されます。このため空の項目がある場合にはカンマが連続して出力されます。なお、コマンド種別が「連絡網」の場合、空の項目カンマは出力されません。

9.2 メッセージ一覧

1000以上1030以内のメッセージID（Webシステムのメッセージ）

1000-I

{電話|電話1|電話2|電話3|電話4|SMS|メール|LINE|Slack|Teams} の発信を受け付けました。SID:SID [Name: {ユーザ名}]

解説

{電話|電話 1|電話 2|電話 3|電話 4|SMS|メール|LINE|Slack|Teams} への発信を SID に示す値で受け付けました。通知先は Name へ示すユーザです（ユーザに紐づかない発信の場合 Name は省略されます）。

1001-I

{電話|電話1|電話2|電話3|電話4|SMS|メール|LINE|Slack|Teams} の発信を開始します。SID:SID [Name: {ユーザ名}]

解説

SID で示す {電話|電話 1|電話 2|電話 3|電話 4|SMS|メール|LINE|Slack|Teams} への発信を開始しました。通知先は Name へ示すユーザです（ユーザに紐づかない発信の場合 Name は省略されます）。

(S) 発信を開始します。

1002-I

発信が確認されました。SID:SID

解説

SID で示す発信が確認されました。

電話通知の場合、受信者がプッシュ操作して「2」（確認）を選択したとき出力されます。

(S) 発信を終了します。

1003-I

発信を行いました。SID:SID

解説

SID で示す発信が終了しました。

電話通知の場合、受信者がプッシュ操作して「#」（終了）を選択したとき出力されます。

(S) 発信を終了します。

1004-E

発信が失敗しました。SID:SID REASON:理由

解説

SID で示す発信が理由によりできませんでした。

(S) 発信を中止します。

(U) 理由の内容を確認し、再度コマンドを実行してください。

1005-I

連絡網を登録しました。ID:連絡網名

解説

連絡網名で示す連絡網が登録しました。

9. メッセージ

1006-I

連絡網を削除しました。ID:連絡網名

解説

連絡網名で示す連絡網を削除しました。

1007-E

連絡網が見つかりませんでしたので発信を中止します。ID:連絡網名

解説

連絡網が見つからなかったため発信を中止します。

(S) 発信を中止します。

(U) 連絡網名を確認し、再度コマンドを実行してください。

1008-I

連絡網の発信を受け付けました。SID:SID ID:連絡網名

解説

連絡網名で示す連絡網への発信が SID に示す値で受け付けられました。

1009-I

{電話|電話1|電話2|電話3|電話4|SMS|メール|LINE|Slack|Teams} の発信を開始します。SID:SID ID:連絡網名 [Name: {ユーザ名}]

解説

連絡網名, SID で示す連絡網の {電話|電話 1|電話 2|電話 3|電話 4|SMS|メール|LINE|Slack|Teams} への発信が開始されました。通知先は Name へ示すユーザです (ユーザに紐づかない発信の場合 Name は省略されます)。

1010-I

発信が確認されました。SID:SID ID:連絡網名

解説

連絡網名, SID で示す連絡網の発信が確認されました。

電話通知の場合, 受信者がプッシュ操作して「2」(確認)を選択したとき出力されます。

(S) 発信を終了します。

1011-I

発信を行いました。SID:SID ID:連絡網名

解説

連絡網名, SID で示す連絡網の発信が終了しました。

電話通知の場合, 受信者がプッシュ操作して「#」(終了)を選択したとき出力されます。

(S) 連絡網の後続の通知へ進みます。

1012-E

発信が失敗しました。SID:SID ID:連絡網名 REASON:理由

解説

連絡網名, SID で示す連絡網の発信が理由によりできませんでした。

(S) 発信を中止します。

(U) 理由の内容を確認し、再度コマンドを実行してください。

1013-I

連絡網の発信が完了しました。SID:SID ID:連絡網名

解説

連絡網名, SID で示す連絡網の発信が完了しました。

(S) 発信を終了します。

1014-I**トークルルームを作成しました。Name: トークルルーム名 RoomID: トークルルームID**

解説

トークルルーム名に示すトークルルームをトークルルーム ID に示す ID で作成しました。

1015-I**通知先ユーザを登録しました。Name: ユーザ名**

解説

ユーザ名で示す通知先ユーザを登録しました。

1016-I**通知先ユーザを削除しました。Name: ユーザ名**

解説

ユーザ名で示す通知先ユーザを削除しました。

1017-I**通知先ユーザの {通知メディア} の発信を抑止しました。SID: {SID} Name: {ユーザ名}**

解説

通知メディア, ユーザ名, SID で示す発信が抑止されました。(スケジュールによる発信抑止)

1018-I**{通知メディア} の発信を抑止しました。SID: {SID}**

解説

通知メディア, SID で示す発信が抑止されました。(スケジュールによる発信抑止)

1019-I**{通知メディア} の発信を制限しました。SID: {SID} Limit: {limit}**

解説

通知メディア, SID で示す発信が limit に示す理由で制限されました。(本サービスの発信制限に達したため)

1020-E**通知先ユーザが見つかりません。Name: {ユーザ名}**

解説

連絡網に登録されたユーザ名で示す, ユーザがユーザ定義情報に見つからなかった。

(S) 連絡網の次の通知先へ通知を行います。

(U) 通知先のユーザ定義を確認し, 再度コマンドを実行してください。

1021-E**通知先ユーザに通知先 {通知メディア} が定義されていません。Name: {ユーザ名}**

解説

連絡網に登録されたユーザ名で示す, ユーザ定義情報に通知メディアで示す, 通知メディアが定義されていない。

(S) 連絡網の次の通知先へ通知を行います。

(U) 通知先のユーザ定義を確認し, 再度コマンドを実行してください。

1022-E**プロフィールが見つかりません。profile: {プロフィール名}**

解説

連絡網に登録されたプロフィール名で示す, 接続先のプロフィールが見つからなかった。

(S) 連絡網の次の通知先へ通知を行います。

(U) 通知先のユーザ定義, プロファイル定義を確認し, 再度コマンドを実行してください。

9. メッセージ

1023-I

プロフィールを登録しました。type: {プロフィール種別} profile: {プロフィール名}

解説

プロフィール種別, プロファイル名で示す, プロファイルを登録しました。

1024-I

プロフィールを削除しました。type: {プロフィール種別} profile: {プロフィール名}

解説

プロフィール種別, プロファイル名で示す, プロファイルを削除しました。

1026-I

受信メール連携ルールを登録しました。rule: {ルール名}

解説

ルール名で示す, 受信メール連携ルールを登録しました。

1027-I

受信メール連携ルールを削除しました。rule: {ルール名}

解説

ルール名で示す, 受信メール連携ルールを削除しました。

1028-I

受信メール連携からの連絡網の発信を受け付けました。SID: {SID} ID: {連絡網名} rule: {ルール名}

解説

受信メール連携から, 連絡網名で示す連絡網への発信が SID に示す値で受け付けられました。

1029-I

連絡網の同一の発信を集約しました。ID: {連絡網名} SID: {SID} count: {集約された件数}

解説

連絡網名で示す連絡網への発信が, 集約された件数で示された件数分集約されました。

1030-I

同一の発信であるため{集約|間引き}されました。SID: {同一と判断された発信のSID}

解説

SID で示す連絡網の通知と同一の内容と判断され, {集約|間引き}されました。

4045以上4059以内のメッセージID (tlscbaseコマンドのメッセージ)

4045-I

o, {電話|SMS|メール|LINE|Slack|Teams}, 発信, 宛先, ,

解説

宛先あてに {電話|SMS|メール|LINE|Slack|Teams} への発信を行いました。

4046-E

x, {電話|SMS|メール|LINE|Slack|Teams}, 発信, 宛先, 通信エラー, エラー情報

解説

宛先あてに {電話|SMS|メール|LINE|Slack|Teams} への発信を行いましたが, 通信エラーにより発信できませんでした。

(S) 処理を中止します。

(U) エラー情報を元にネットワーク設定などを見直し, 再度コマンドを実行してください。

4047-E**x, {電話|SMS|メール|LINE|Slack|Teams}, 発信, 宛先, , エラー情報**

解説

宛先あてに {電話|SMS|メール|LINE|Slack|Teams} への発信を行いましたが、エラー情報により発信できませんでした。

(S) 処理を中止します。

(U) エラー情報を元に設定などを見直し、再度コマンドを実行してください。

4048-I**o, ログ, 取得, {公開|デバック}, ,**

解説

{公開|デバック} ログの取得を行いました。

4049-E**x, ログ, 取得, {公開|デバック}, 通信エラー, エラー情報**

解説

{公開|デバック} ログの取得を行いましたが、通信エラーにより取得できませんでした。

(S) 処理を中止します。

(U) エラー情報を元にネットワーク設定などを見直し、再度コマンドを実行してください。

4050-E**x, ログ, 取得, {公開|デバック}, , エラー情報**

解説

{公開|デバック} ログの取得を行いましたが、エラー情報により取得できませんでした。

(S) 処理を中止します。

(U) エラー情報を元に設定などを見直し、再度コマンドを実行してください。

4054-I**o, 連絡網, {登録|削除}**

解説

連絡網の {登録|削除} を行いました。

4055-E**x, 連絡網, {登録|削除}**

解説

連絡網の {登録|削除} を行いましたが、 {登録|削除} できませんでした。

(S) 処理を中止します。

(U) 連絡網定義ファイルの内容や設定などを見直し、再度コマンドを実行してください。

4056-I**o, 連絡網, 実行, 連絡網名**

解説

連絡網名に示す連絡網の実行を行いました。

4057-E**x, 連絡網, 実行, 連絡網名, エラー情報**

解説

メ連絡網名に示す連絡網の実行を行いましたが、エラー情報により実行できませんでした。

(S) 処理を中止します。

(U) エラー情報を元に連絡網定義ファイルの内容や設定などを見直し、再度コマンドを実行してください。

9. メッセージ

4058-I

o, ユーザ, {登録|削除}

解説

ユーザの {登録|削除} を行いました。

4059-E

x, ユーザ, {登録|削除}

解説

ユーザの {登録|削除} を行いましたが, {登録|削除} できませんでした。

L	こ
LINE WORKS 通知 10	コマンド設定ファイル8, 13, 32, 122, 123, 125, 128, 130, 133, 135, 138, 140, 141, 143, 144, 145, 147, 148, 150, 152, 154, 155
LINE WORKS 投稿コマンド 34, 46, 129	
LINE WORKS トークルーム作成 API 95, 174, 193	
LINE WORKS トークルーム作成コマンド 34, 95, 149	
LINE WORKS プロファイル一覧 73	さ
LINE WORKS プロファイル画面 74	サインアウト API 161, 164, 201
LINE WORKS への通知 14	サインイン API 161, 163, 191, 195, 200
LINE WORKS へ発信する際の注意事項 40	サインイン画面 55, 63, 64, 65
	サインイントークン更新 API 163, 164, 191, 195
M	し
Microsoft Teams 通知 11	終了操作 45, 192, 193
Microsoft Teams 投稿コマンド 46, 134	受信操作 44
Microsoft Teams プロファイル画面 80, 82	受信メール連携 8, 15, 20, 111
Microsoft Teams プロファイル一覧 79, 81	受信メール連携一覧 20, 110
Microsoft Teams への通知 14	受信メール連携ルール 19, 20, 110
	受信メール連携ルール画面 20, 111
S	使用できる変数46, 123, 125, 127, 130, 132, 134, 137, 156
Slack 通知 11	す
Slack 投稿コマンド 46, 132	スケジュールダイアログ 104
Slack プロファイル一覧 77	
Slack プロファイル画面 78	つ
Slack へ発信する際の注意事項 41	通知先ユーザ定義削除コマンド 144
SMS 通知 10, 14	通知先ユーザ定義取得コマンド 49, 50, 142
SMS 発信コマンド 46, 125	通知先ユーザ定義登録コマンド 141
	通知文ファイル46, 123, 124, 125, 126, 127, 128, 130, 132, 133, 134, 135, 137, 138, 156, 157
T	通知先ユーザ定義削除 API 170
Twilio プロファイル一覧 70	通知先ユーザ定義取得 API 170, 194, 197
Twilio プロファイル画面 71	通知先ユーザ定義登録 API 169
Twilio へ発信する際の注意事項 40	
	て
お	電話通知 10, 14, 44, 45, 47, 131, 145, 156
応答結果 44	電話発信コマンド 42, 44, 46, 123
お客様側の IP アドレス 13	電話発信の動作 42
か	
確認操作 19, 45, 192, 193	
カレンダーダイアログ 98	

は	ゆ
パスワード変更画面 60	ユーザー一覧 85
発信受付 API 42, 161, 165, 166, 194, 201, 203, 204, 205	ユーザ定義画面 86
発信結果問い合わせコマンド 42, 45, 47, 48, 139	よ
発信情報件数問い合わせ API 47, 174, 192	呼び出し時間 45
発信情報件数問い合わせコマンド 47, 151	ら
発信情報削除 API 175	ライセンス表示画面 61
発信情報削除コマンド 153	る
発信制限に関して 21, 38, 43, 47, 124, 126, 128, 130, 133, 135, 138, 166, 167	ルーム ID 記録ファイル 33, 34, 95, 149
発信問い合わせ API 42, 45, 47, 48, 161, 165, 166, 168, 192	れ
発信履歴レポート画面 114	連絡網一覧 89
ふ	連絡網定義画面 91
プッシュ入力操作 44	連絡網定義削除 API 173
プッシュ入力の繰り返し回数 44	連絡網定義削除コマンド 148
プッシュ入力の待ち時間 44	連絡網定義取得 API 172
ま	連絡網定義取得コマンド 49, 50, 146
マシン時刻の設定 13, 36	連絡網定義登録 API 171
め	連絡網定義登録コマンド 145
メイン画面 57	連絡網発信 API 167, 168, 187
メールサーバ登録画面 67	連絡網発信結果取得 API 167, 168
メール送信機能 11, 15, 21, 51, 67	連絡網発信コマンド 42, 44, 46, 136
メール通知 11	ろ
メール発信コマンド 46, 127	ログ取得 API 38, 106, 176
	ログ取得コマンド 38, 49, 106, 155

 株式会社 日立製作所

〒100-8280 東京都千代田区丸の内一丁目6番6号
